

和正勢陽五鈴遺響

多氣郡

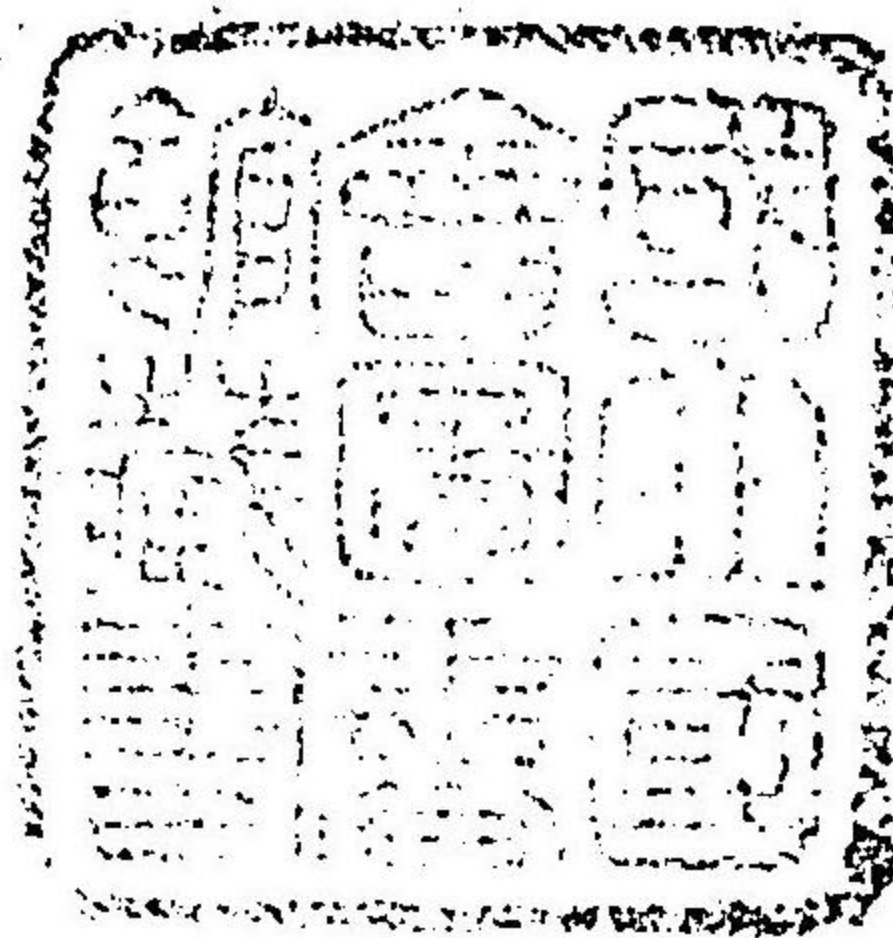
自壹之卷
至五ノ卷

九

291.56

Y6265

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之壹



223904

多氣郡

多氣ト稱ス名義ハ舊竹郡ニシテ後ニ二字ニ填ン爲ニ字ヲ假テ多氣ト稱ス

ハ和名類聚抄曰多氣郡竹ト字訓ヲ附タルカ如シ多氣ハ舊訓清音ナルヘキヲ後世ニ濁音ニ訓

ナルハ謬ナリ古事紀曰速甕之多氣佐婆夜遲奴美神多氣ハ健及武ト同ク健御雷ノ如ク武健ノ

意ト同シ武ハ清音ナリ或ハ續日本紀云伊勢國多氣郡人磯部恩國又多藝ト假字モ填ルモアリ

氣藝通音スルニ據テ美濃州當藝郡及當藝野等ニ藝ヲ伎ト訓ス多伎ニシテ多氣ニ非ス非ナリ

既ニ倭姬命世紀曰竹連吉彦等爾 仰給 氏 先穗拔穗令拔半分大稅 爾 令蒞皇大神 乃 御前 爾 懸奉又

磐余甕栗宮三年迁于本服織社令織大神御衣難波長柄豐崎宮 乃 御宇丙午年竹連磯部直二氏建

此郡焉或竹田國ト稱スモ多氣ノ字ニ據レリ同書活目入彦五十狹第天皇二十二年癸丑冬十二

月二十八日迁飯野高宮奉齊四箇年 中畧 大若子命 乎 汝國名何ト問給白 久 百張蘇我國千々五百

枝刺竹田國荅白 支 其所 爾 御櫛落給 支 其所 乎 櫛田 止 号給和名類聚抄ニ多氣郡櫛田郷ニシテ竹

郡竹田ハ櫛田ノ舊名ナリ御櫛落墮セシヨリ櫛田ノ名起レルハ明ナリ然レハ諸州ノ郡名ハ後

ノ名ク處ニシテ上世ハ郡名ナシ故ニ竹郡或ハ多氣郡ト稱スルハ五百枝刺竹田ヨリ起ル名ニ

シテ竹郡ハ此ニ據レルナルヘシ五百枝刺ハ冠辭ナリ飯高君ノ遠祖乙加豆知命ノ飯高ト荅セ



シヨリ飯高郡名ノ起ルカ如シ或云竹ノ郡及竹都竹宮

夫木集

俊頼

おもへたゞ竹の都はかすみつゝ住連の内なる御代のけしきを

新勅撰

中納言兼輔

くれ竹の世々の都と聞からに君かちとせのうたかひもなし

夫木集

俊成

竹の宮まかきにうへて千代までも祝ひろめけん此君ろこれ

名所拾遺注云多氣郡ニ齋宮ヲ建齊内親王マシマス故ニ竹ノ都或ハ竹ノ宮ト名ク神宮雜例集云齋宮寮在多氣郡竹郷凡テ親王及内親王ヲ竹園ト稱シテ兼好カ徒然草ニモ竹のろのふの末葉までと親王ヲ諷稱セシヲ倣テ齋内親王ノ齋居マシマス地ナレハ竹郡及都宮ノ名ヲ稱スナリト云ハ大ニ臆斷ナリ今稽ルニ倭姬命世紀曰大足彦忍代別天皇景行二十年庚寅歲倭姬命年既ニ老耆不能仕吾足 奴止 宣天 齋内親王 仁可仕奉物部八十氏人之定給 天 十二司寮官等 遠波 奉移 五百野皇女久須比賣命即春二月辛巳朔甲申遣五百野女於皇大神 乃 御杖代 止志天 多氣宮造 奉天 令侍給 支 始多氣郡ニ齋宮寮ヲ所置ナリコレヨリ嚮ニ垂仁天皇二十二年己ニ五百枝刺竹田國ノ名アリテ竹郡ノ名起レルニ似リ竹郡ニシテ所置ノ宮室ノ所有ナレハ後ニ竹都及竹宮

ハ名ケタルコハ必セリ又雜記所謂往昔天香久山ノ竹ヲ移栽ケル故ニ竹ノ都ト名クナリ云云ハ荒唐ノ言ニシテ不足論ナリ故ニ多氣郡ハ世紀所謂千々五百枝刺竹田國ノ略ニシテ竹郡ノ假字ナリ上世ヨリ起ルトコロノ名ナリト識ルヘシ

受領

續日本紀第二十三天平寶字五年六月乙卯賜正五位下飯高公笠因藏毘登於須美從五位上熊野直廣濱多氣宿禰弟女多可連淨日並進一階 全第廿八神護景雲元年四月癸巳伊勢國多氣郡人外正七位下敢磯部忍國獻錢百萬絹五百匹稻一万束授外正五位下 全第三十三寶龜五年五月癸巳朔伊勢國多氣郡人正五位下敢磯部恩國等五人賜姓敢臣日本後記 第四延曆二十年冬十月丁未大政官符應加決罰神郡司事 右得伊勢國解爾調庸租稅例勘徵而多氣度會二郡司獨賴神事數致闕怠望請神界之外將加決罰者右大臣宣奉勅依請 三代實錄第廿四貞觀十五年十二月二十七日戊午伊勢國多氣郡人從五位下阿閉臣次子從七位下河邊臣雄繼等賜姓朝臣其先出火產命之後也 神鳳抄云多氣郡一段並宮御笥作内人徳成勞同所載有名未識神封 外宮四箇生御園六斗内宮粟井御園 内宮宇保御園 内宮下津竹御園 内宮當下御園 橋木御園 内宮石取御園 内宮鉢尻御園 内宮藤迫御園 家垣内御園 青泉新御園 壺方御園 一竹御園 矢田御厨 堺御園 佐久良御園 内宮富墓御園 片岡御園 中河原御園 平尾御園

外宮片山御園 美佐御園 外宮神領目錄所載未識神封 四園生御園六月菓子九月三斗十二月三斗 外宮片岡御園米一斗十二月御祭時備進之 石取御園上分一貫文 熊倉御園上分米三斗光香口入 神鳳抄云田蘭生神領目錄ニ四園生ニ作ル四園生ハ飯高郡松坂ノ部ニ收ムトイヘル今考ルニ神領目錄ニ園ニ作リ各神貢六斗ナリ然ルキハ神領目錄ニ從ヒテ四園生ヲ眞トスヘシ在處未計 和名類聚抄第六 多氣郡 竹相可 阿布加 有武 宇爾 多氣 多介 麻績 乎宇多 今稽ニ乎宇美ノ誤ナリ三宅 美也介 流田 奈加禮 櫛田 久之多 今詳ニスルニ相可今相可アリ舊名相鹿ナリ有貳今直ニ宇爾ト録シテアリ多氣今ノ齋宮竹川等アリ麻績今ノ飯野郡井口アリ三宅屯倉ノ地ニシテ郡司ノ所居ナリ其地未詳 流田今ノ長田郷ト同ク清水朝田等ナリ櫛田今飯野郡櫛田アリ流田櫛田ノ二郷ハ今飯野郡ニ多ク隸レリ上世ハ異ナルニ似タレトモ恐クハ多氣飯高飯野ノ三郡ハ後ニ割分テ飯野ヲ所置ナレハ郡ノ差ヒテ誤リ入タルモアルヘシ故ニ和名類聚ノ如キモ錯亂ナキニ非ス古今ノ異トノミ惟フニ非ルヘシ 古屋草紙等兄國郷或ハ田邊郷ヲ加隸セシアリ非ナリ兄國ハ郷ハ飯野郡ニ隸シテ本郡ニ非ス然レトモ又今飯野ニ非ス本郡ノ村名ナリ今古ノ錯誤ナリ田邊ハ度會ニ隸レリ 本郡疆域ハ東ハ海瀨ヲ限リ西ハ大和州吉野郡及添下郡界ヲカキリ南ハ度會郡界ヲ限リ北ハ飯高郡及飯野郡界ヲ限レリ東西十八里南北二里餘 本郡界域行程ハ本郡大杉ヨリ大和州吉野郡塩ノ葉村へ國堺ヨリ三里廿町大

杉本邑ヨリ八里十二町方俗カンカウキ越ト稱ス嶮難牛馬不通吉野郡大壘原巴ケ淵ノ北位ヲ通ス又大杉ヨリ紀伊州牟婁郡河内村へ七里嶮難牛馬不通又大杉村ノ屬邑檜原ヨリ同州牟婁郡長嶋へ山路アリ嶮難牛馬不通春日峠ノ南位ヲ通ス春日越ト稱ス 本郡瀧谷カマスリヨリ奥大杉ニイタリ二里三十町奥大杉ヨリ大和州堺大壘峯ニイタル三里三十町度會郡小俣ヨリ大壘峯ニ至リ直程十五里十二町コレ紀州領内ノ檢地ナリ同小俣ヨリ本郡瀧谷カマスリニ至ル八里二十一町

- 村邑 文祿三年檢地 八十二村
- 正保二年 百五十村
- 明曆二年雜記所載 百三十三村 外小邑
- 元祿十三年 百七十四村 村
- 今計百十六村 外小邑七十五村
- 通計百九十一村

正稅高

- 文祿三年檢地 四萬千六石八斗八合
- 雜記所載 三萬八千二百四十九石五斗五升四合

内 二萬三千八百六十四石六斗三升七合 田方

一萬四千三百八十四石九斗一升七合 島方

外 千三百七十石五斗二升六合 新田

元祿十三年 四萬二千三百九十石七升三合

大杉 本郡ノ極西界ニシテ大和州吉野郡ニ隣レリ嵩嶺幽谷ノ間ニ民居ス諸本與大杉ト稱ス其故ハ久豆岩井檜原ト同ク四邑ヲ大杉谷ト稱ス此ニ准シテ其深奥ノ處ニ居ス故ニ與大杉ト私稱スルナリ 屬邑石原アリ 正稅十六石紀州田丸領ナリ

大杉谷野尻ヨリ順路 瀧原宮ノ川上ヨリ川ヲ蹠リ川合村下管上管菅木屋コレヨリ川ヲ涉リ赤瀧清水本田木屋小切島江馬ヨリ申位ニ日天八王子社正面鳥居次拜殿其右小祠正面五社コレヨリ茂原熊内天鹿瀬 野尻ヨリ三里天瀬ヨリ瀧屋ヘ二里タキヤヨリ大熊谷カバスリ瀧屋ヨリ一丁許至リ宮川水源大川ヲ左ニ望ミ右ノ傍ニ大瀧アリ瀧ケ谷ト云里俗セソイノ瀧トモ云又口定瀧トモ云口定明神ヨリ七丁前ニアリ瀧南向ニ落ル高七八尺許濶六七間タキ坪三間四方六七尺巨岳アリ此邊ノ大河ニ温石ヲ産ス次口定明神大河ノ右傍ニ入テ石階アリ制札アリ與定明神モ同斷南社境内堅被禁止殺生託違犯之輩有之者可爲曲事者也享保八年九月日奉行連署アリ口定明神社内左新殿本社右ニ並ヒ古殿正面鳥居口定明神ヨリ與定ヘ至ル南

位三里半此處ヨリ與定ヘ谷川ヲ經ルコト十五六ヶ處此處ヨリ大和國吉野郡鹽ノ八村ヘ山路アリ此處ヲ大和谷ト稱ス口定ヨリ大河ヲ左ニ望テ水岨ヲ攀上ルコト八丁又左ニ大河ヲ望右傍ハ谷川アリ父ヶ谷ト云溪水ヲ涉リ右傍ニ中定明神坐ス大川岸ヨリ半町許山ニ登ル處二社アリ大杉ヨリ八丁中定明神正面鳥居本社卯辰位向左ノ傍ニ高一丈許濶一丈二三尺巨岩アリ此邊大河ヘ望テ大嵩數箇アリ各大サ五六間七八間ナリ川岸ニ臨突出ス嵩ヲ俗杖ツアス嵩ト云又駒ノ足路ト云アリ馬蹄ノ形石面ヲ隱起ス里俗與御前休息處ト云此處ヨリ一丁許至リ大河ヲ涉リ又山ニ登リ右傍ニ大川ヲ望ミヒシリ嵩大川ノ南ノ岸ニアリ其次ニ倉本谷精立谷等ヲ踰テ此處ヨリ與定明神ヘ一里此間ニ檜繩木屋クハノ木谷此處直道ハ大杉ヨリ紀州熊野ヘ踰ル道ナリ右ノ小徑ハ與定ニ至ルニ谷ニ下リ谷川ヲ涉リ又山ニ上ルコト一丁許是桑木谷也又大河ヲ南ニワカリ右ニ大河ヲ望ミ大口谷ト云川原三四丁許歷テウクヒス谷ニ至リ右ニ望テ又大河ヲ涉リ川原ヲ登ルコト一丁許又大河ヲ南ヘ渡リ右ニ大河ヲノソミ川原ヲ歷テ又大河ヲワタリ左ニ望ミ又谷川ヲ涉ル五六處アリコレヨリ大ガイト云左傍ニ炭燒道アリ字ハアナギト云處領主紀州炭役所ナリ與定ヨリ二里又クハノトコト云右ノ河中ニ大嵩アリ大具谷ノ内ナリ其次與定明神入口拜殿アリ三間四方許ソノ處ヨリ川岸ニ下リ手水場ナリ其川ノ向ニ大岳アリ高百間許ナリ濶二丁許其岩腹ニ石窟アリ辨才天ヲ祭ルト云石ヲ切テ祠ノ形アリ手水河ヨ

リ一丁許山ニ登リ又三丁許山ニ登リテ島居石階アリ其上ニ制札アリ口定社ニ同案ノ文ナリ式内榎村神社 同處ヨリ三里河上ニノ七ツ釜瀧ノ麓山淵ノ間座ス方俗奥定御前ト稱ス未詳俗習ニ倣テ始リ此ニ標出ス 度會延經神名帳考證云榎村神社大屋津姬命日本紀云大屋津姬命能分布木種美濃國惠奈神社遠江國矢奈比賣神社按江馬大杉村江與榎同訓馬與女語通今江馬山奥定村今屬多氣郡 度會正身神名帳再考證云榎村神社考證云榎村ヲ江馬ト云ハひらノ切マナリ

江馬山ハ大杉谷ノ奥定村ナリト猶末ノ萩原神社ノ條ニ記セリ 今詳ニスルニ延經 榎村神社ノ名義ニ據テ神名式内ノ美濃國惠奈神社ハ惠奈榎ト同訓遠江國矢奈比賣神社矢奈 惠奈ニ同ク榎ト訓通スルカ故ニ矢奈比賣ト云キハ大屋津姬命ヲ此ニ祀ルト云引據ニシテ本紀ニ五十猛命ノ姝ニシテ能ク木種ヲ分布スルノ義ヲ摘テ此幽遠山林ノ間ニ奉祀スル處ニ寓シ猶江馬ノ名江ハ榎ニ同訓馬ハ女ト通ス故ニ矢奈比賣ノ社アルニ據テ江馬ト地名ヲ冒スニ取レリ其江馬ノ山ニアル奥定村ニアル神社ナリト云解ナリ正身考證ハ考證ニ榎村神社ノ名ニ據テ江馬ト云村ハ反切シテ馬トナル故ナリ前考證ニ從ヒテ此ニアル處トシテ後號萩原神社ノ條ニ辨セリト云釋ナリ 愚按ニ各牽強附會ニシテ僻說ナリ非トスヘシ江馬ノ名ハ天正四年繪馬某住シテ其若アリ國司北畠家ノ臣ナリ舊書ニ繪馬ト書ス或ハ北條氏族江間小四郎義政ノ裔孫ナリトモ云孰レ江馬ハ其居幸スル處ノ士ニ據テ後世名ツル

村邑ノ存スルハ其徵ヲ得ス猶江馬ヨリ二里餘ニノ口定明神アリ即本郡久豆村ナリ此ヨリ三里廿五丁許ニシテ奥定明神アリ通計五里廿五丁餘ニノ山溪幽僻ニアリ然レハ江馬山ニ非ス江馬ニ非レハ前考悉ク的當シ難シ再考證此ニ從フキハ非トスヘキナリ其證後人ノ所定式社案内記及古屋草紙勢陽俚諺等其製ヲ倣フモ各僻說ナリトス然レモ其地ヲ今考究スル處ナシ此榎村神社ノミ本郡二見郷松下村ニアリト謂ヘシ其故ハ延喜式内五百廿五座各今所撰定スル處ノ式考ト郡邑ノ差多シ其廢スルニ及テ遺失シ牽強ニ及フ處モ若干ナルヘシ然レモ其徵ノ眞トスヘキ暗合スル處モ不掛トスヘシ松下村ト江村ノ間ニ牛頭天王社アリ其地ニ往昔榎村ト稱スルアリ廢メ今ノ地ニ遷リテ山頭松樹間ニ居ス故ニ松下ト名ヲ革ムト村老ノ話ナリ此榎村ノ名即榎村神社ニ合ス猶延喜式神社ノ列序ハ混駁ニ似トイヘモ又其次ニ載スルモ多シ度會郡五十八座ノ中江神社神崎神社朽羅神社榎村神社度會國御神社ニ次第ス江神崎度會國御神社各二宮ノ域内及二見郷ニアリ朽羅神社ハ田丸城南東原村ニアリ各皇大神攝社二十四座ノ中ニシテ煥然其地ヲ誤サル處ナリ然ルニ其列ニ次スルキハ牛頭天王ノ地ヲ此神社トスヘキモ多ク非トスヘキニ非ス今二見郷ニ存スル式社及攝社ハ皇大神遷幸ノキ定祝ナリ此榎村神社奉祀ハ舊典ニ考ヘキナシ未至當トシ難シ猶考ヘシ故ニ此ニ所祀ハ未其徵ヲ得ス姑ク闕如ソソノ名ハ俗習ニ倣テ此ニ舉ル處ナリ式社案内記祭神大屋津姬命トスコレ考證ニ從

ヘリ其社域ノ在ル處ヲ未詳故ニ此ニ祭神ヲ標トスヘキ由ナシ猶後號萩原神社ノ條ニソノ是
否ヲ悉ク辨セリ併稽シテソノ真ヲ得ヘキナリ

大壘峯 大和州吉野郡ニ跨テ本郡ノ西ニアリ豊宮川ノ水源ニシテ萬嶺千谷ヲ滴リテ巨河トナル
奥谷川 宮瀧 千尋瀧 飛瀧 大瀧 光ヶ瀧 七ツ釜等ノ溪川一派トナリ大杉ニイタリ行
程二十里ヲ流テ東海ニ入ル

大熊山 大杉ノ内岩井ノ乾位ニアリ 白倉山大杉ノ内久豆ノ乾位ニアリ 春日峠大杉内檜原
ノ南ニアリ 池谷山内シ 池ノ木屋山奥大杉ノ乾位ニアリ 不動山 西谷山 栗谷山 詩
書文字山 地池山大杉ノ西南ニアリ各嵩嶺ニシテ大和州吉野郡界ナリ
久豆 大杉ヨリ東一里ニアリ大杉ノ内ナリ屬邑向原新屋敷アリ

式内萩原神社 前輩口定明神ニ充ツ非ナリ社地未詳 方俗口定御前ト稱ス 延喜式度會郡
ニ隸レリ 定清屋社料高五石紀州領主ヨリ免許 八王子同處ニアリ高六石七斗四升同領主
ヨリ免許 度會延經神名帳考證云萩原神社素盞鳥尊文德實錄云天安二年二月伊勢國萩原神
預官社按萩字作菽是乎阿志與加知言通此神名出自我勝之語出雲風土記神須佐能表命大須佐
田小須佐田定給大杉山稱定御前萩原神社乎上畧須字佐田作定今屬多氣郡 度會正身神名帳
再考證云萩原神社考證云文德實錄云天安二年伊勢國萩原神社預官社トアリ萩ハ俗諺ニ難波

ノ芦ハ伊勢ノ濱萩トイヘハ相通スヘシ此社地前ノ榎村神社ト同地方角ニテ大杉谷江馬山ノ
口定村ニアリ麓ノ人家ヨリ二里山中ニアリ又榎村社ノ所在與定村ハ相距ル一里半共ニ深
山幽谷ニテ人跡絶シ陰闇ノ地ナリ是ヨリ長嶋ノ人家ニ近シ祭神萩原社ハ草祖草野姬榎村ハ
木ノ祖句々廻馳ナルヘシ考證ニ大屋津姫ト記セルニ五十猛命ノ御姝ニテ日本紀ニ能分布木
種トアレハ榎村社或ハ此神ヲ祀ルナルヘシ奥口ヲ今上定村下定村ト云又佐田ノ御前トモイ
フ何故ヲ不知 今詳ニスルニ延經考證ニ萩原神社ノ名ハ文德實錄卷十チ引徵ノ文德天皇天
安二年二月甲子朔丙戌在伊勢國正六位上菟原神宮社ニ預ルト載ラルニ據テ萩ノ字ハ菽ニ作
ルナ是トスヘシ阿志ハ加知ト言通スルニ據テ此神ハ五勝ヨリ出ルノ名ナリ出雲風土記ニ神
須佐能表命ノ大須佐田小須佐田定メ玉フトナリ其佐田ハ多氣郡大杉山定御前ト稱ス神社即
菟原神社ナルヘシ須佐田ノ須ヲ上畧シテ定ニ作ルト云ニ據トシテ風土記ニ據リ祭神素盞鳥
尊トスト云注ナリ正身再考證ハ萩原ハ伊勢濱萩ノ俗諺ニ從ヒテナギモヨシモ相通ノ稱スヘ
シ此社地前條榎村神社ト同方位ニシテ大杉谷江馬山ノ口定村ニ在又榎村神社ハ考證ニハ與
定村ニアリ萩原ハ祭神草津姬榎村ハ句々廻馳ナルヘシ榎村神社大屋津姫ヲ祀ルト記セリ此
神分布木種ト日本紀ニ載レハ或ハ大屋津姫ヲ祀レルナルヘシ今上定村下定村ト云佐田ノ御
前トモ其本據ヲ不知ト稱セリ愚案スルニ前考證ニ出雲風土記ニ所出大須佐田小須佐田上畧

ノ佐田ヲ撫リ今大杉山定ノ御前ト云ニ同ク此ニ據テ此ニ所在ノ神社トノ素盞烏命ヲ祀ルト
 大神須佐能表命ノ定給フト云文ニ據レリ各率強ニ此地ニ徴トスヘキナシ再考證各前考證
 ニ從ヒテ大杉谷江馬山ニ口定村アリ麓ノ民家ヨリ二里ニ及フ猶榎村神社ハ奥定村ニアリ口
 定ト相距一里半奥口ヲ上定村下定村ト云ト解注スルハ各非ナリ其故ハ考證ニ萩原神社ニ填
 テ口定明神ト稱スルハ江馬山ニ非ス江馬村ハ往昔或ハ繪馬ト書ス三瀬谷天ヶ瀬村ノ隣邑ニ
 アリ稍ク三町許ニノ天ヶ瀬ニイタル此ヨリ明豆御棟木小瀧神瀧瀧谷岩井檜原ノ八村ヲ歷テ
 久豆村ニ至ル此ヨリ十町許以西ニ大徳院アリ又西ニ相距テ十町此處ニ方俗所稱口定明神
 或定ノ御前ト云社アリ江馬ヨリ二里餘ニ及ヘリ又大徳院ヨリ拾丁久豆ヨリ二十町許西ニア
 リ又久豆ヨリ一里以西ニ奥大杉村アリ村邑ヨリ十五町許ニ口定明神ト稱ス社アリ明曆中ハ
 亡シト云奥大杉ヨリ三里許西位ニ奥定明神ト稱スアリコレ考證榎村神社ニ充ル處ナリ口定
 ハ春月詣人アリ然レモ僻地ナレハ希ナリ中定ハ又人ノ詣スルモ至テ希ニ奥定ハ絶テ常人
 ハ至ラス幽僻ノ地ナリ既ニ豊宮川ノ水源ニノ重山峨々絶岩相聳テ深邃ニノ民居スヘキナシ
 然ルニ再考證所言ノ奥定口定ノ村名曾テナシ考證榎村萩原ニ社ヲ此地ニ處スルハ甚怪ムヘ
 シ各其地ヲ不聞ノ紙上ノ談多シ猶傳聞スル處ニノ其真ハ究メカマシ惣ノ本州所有ノ式社各
 其地ハイマダ其是否ヲ尽サ、ルニ據テ自其地ヲ考索シ社司村老ニ鞠問シ舊典群籍ニ明正シ

跋跡ヲ最トノ考究ストイヘモ其疑否ナキニ非ス跋跡スル者多キ故ニ未詳トスル處若干ナリ
 其履歷セスシテ幄中ニ座ノ其真ヲ究メントスルハ妄ナリトスヘシ猶當今ニ考證式社案内記
 等ニ據テ其社其神ヲ定メテ詣スルモノ二三ニ及ヘリ各其否ヲ不徵ノ此ニ至ルハ甚歎スヘキ
 ナリ凡本州二百五十三座延喜式ニ隸スル神社ノ中ニ桑名郡多度神社ノ如キハ名區ニノ更ナ
 リ其餘員辨朝明三重等ハ其地狭小ニノ幽僻ノ地ニモ神社ノ配スル多シ三重ヨリ以南鈴鹿河
 曲菴慈安濃一志等ハ幽僻ノ地ニ有スルハナシ鈴鹿片山神社ハ官道ナルカ故ニ鈴鹿山中ニア
 リ飯高多氣度會三郡ハ東海ヨリ西岳ニイタリ其郡狭長ナリ然ルニ倭名抄ニ飯高ハ丹生郷ヲ
 限リテ以西ニ郷名ナシ多氣郡ハ相可ニ限リテ西位ニナシ本郡ハ田丸城隅ニ盡テ西位ニナシ
 上世ハ郷名アル故ハ其村里居民ノアルカ故ニ名アリ其郷名ナキ地ハ山林曠野トスヘシ神社
 モ然リ居民ナキ地ニノ建置及祭奠スヘキ由ナシ猶和名抄ハ天長年中所撰ニノ延喜式ト奉勅
 撰同時也其郷名ニ從ヒテ神社モ存スヘキトイフヘシ然ルニ此榎村萩原ノ二社ヲ此口定明神
 ト充ルハ民居ハ更ナシ上古ヨリノ名社ニモアラスシテ此僻幽ノ地ニアル處ヲ強テ其考索モ
 不得ノ式社ニ當ルハ必ス的トスルヲカマシ恐クハ非ナリ率強ノ甚トイフヘキナリ猶延喜式
 ハ度會郡ニ隸セリ今此二社ハ多氣郡ニ係レリ然レモ餘社ニモ其郡界等ニ近ク及飯野多氣度
 會ハ後世ニ沿革ノ地アレハ延喜式ニ差互スルモ多シト憶ヘリ然レモ此書遠ノ地ニ此二社ノ

ミ存ノ多氣ニノ度會ニ混スル地ニアラス猶飯高ハ隣比ストイヘ丹生ヨリ以西ニ式社ノ例
 ナシ餘郡ノ式社及和名抄所載ノ郷名等今ノ官道海涯ニハ多シ敢テ幽遠ノ地ニ所在ニアラス
 然ルキハ混駁スヘキナシ延喜式度會ニ隸スルキハ此二社此地ニ存スト云奇ナルトイフヘシ
 其時世及地方ヲ考索ノ其否ヲ知リ漫ニ前説ニ從サルヲ嘉賞スヘキナリ後混前ニ惑テ誤ルヘ
 キヲ恐懼ノ式社總論ハ首編ニ述スト云ヘ重復ノ此ニ及ヘリ榎村神社ノ名ハ村邑アルノ地
 ニ存スヘシ萩原神社ハ河涯海瀕ニアルヘキ名ナリ各此山岳幽邃ノ地ニ存スヘキニアラス惣
 ノ神社ノ名ハ其地方ノ名及其祭神ノ德表ヲ舉テ名クルナリ各他社ヲ例メ考知ヘシ此ニ據ル
 キハ此ニ合ハスト云トイヘ卓説ナリ古屋草紙云大杉村ノ條ニ佐田國生神社素盞鳥尊ヲ祀
 ル遷宮ヨリ遷宮マテ詣人ナシ田丸ヨリ十三里アリト云考ルニ本郡田丸城東ニアル狹田國生
 神社ノ名ヲ混シ佐村村ト云舊名アルニ據リ又訛テ佐田ヲ定明神ト充テ誤レルナリ妄誕ナリ
 狹田國生神社ハ祭神モ異ナリ然ルニ考證ニ此社ニ素盞鳥尊ヲ奉祀スルト云ニ稍シ倣ヒタル
 ナルヘシ各非ナリ猶前條榎村神社ト萩原神社ハ其社地ヲ未詳然レハ祭神モ然リ故ニ各條ニ
 出ス處ヲ不知カ故ニ姑ク此ニ標出ノ後惑ヲ解カン爲ニ舉ル處ナリ前條榎村神社ノ條ト併稽
 スヘシ

大善院 同處ニアリ 往昔大德院德壽傍官ト云ヘル修驗山伏アリテ此社ヲ守リ住ス故ニ今ニ

イタリ大善院ヲ宮別當ノコトク執行セシム又其後杉原左衛門ト云禰宜今ヨリ三四代目續ス
 ト云村老ノ話ナリ

檜原久豆ノ巽位ニアリ 大杉ノ内ナリ紀州牟婁郡長嶋へ山路アリ 屬邑宮ヶ平 三軒屋

古ヶ野アリ

岩井 檜原ヨリ東十六町ニアリ大杉ノ内也 屬邑砂 後谷 細淵アリ同處七八丁東ニ地地茶

屋ト云茶屋店アリ

瀧屋 岩井ヨリ一里半東ニアリ 正稅二十三石紀州田丸領ナリ 屬邑小又新田 平野アリ或

ハ瀧谷ニ作ル岩井ト本邑ノ間大熊谷大河ノ岸カマスリト字ス棧道アリ斷崖ノ處ニ階子ヲ架

ノ樵夫民居往還ス俗諺云畜牛ヲ牘ノトキ抱テ其嶮路ヲ歷ニ大杉ノ四邑ニ畜フ長ノ後死スト

イヘ其地ヲ更ルコト非ス稍ク一人ヲ通スヘキノ路ナリ所謂蜀ノ四川ノ棧道ノ如シカマスリ

ノ謂ハ踵ヲ方俗カマスト云稍ク踵ヲ摺テ嶮難ノ畦路ヲ起ルノ意ナリ本州此餘ニ斯ル幽僻ノ地

ハ多ク非ス故ニ其嶮ヲ稱スナリ然ルニ四五十年以後岩石ヲ劈キ道路ヲ造リ掛橋ヲ巧ミ通路

ヲ其地ニ開ケリ然レハ嶮路ナリ此間水谷川畦ナリ八知山谷ト云アリ外ニ此路ヲ避テモ道ア

リ嶮ナラス牛馬ヨク通スヘシ然レハ遠ナルカ故ニ此路ヲ行人ノ爲ニ開ケリト云道傍ニ地藏

堂アリ

大井 瀧屋ノ巽位河ノ向ニアリ 正税三十二石紀州田丸領ナリ此地ヨリ奥大杉奥定明神ニ到
リ七里 瀧屋ヨリ假橋アリ大杉川ニ架ス

南村 大井ノ東ニアリ 正税二十八石紀州田丸領ナリ大井ノ間大杉川瀧アリ 屬邑不土野新
田アリ

神瀧 瀧屋ノ東ニアリ 正税三十五石紀州田丸領ナリ 屬邑添小屋アリ 明曆中圖ニ芦屋小
屋アリ今亡シ添小屋ノ謬ナルヘシ凡テ本郡及度會郡ニ他郡ニ新田或ハ出屋敷ト稱スナ木屋
ト稱セリ新田等ノ耕耨ノ地多カラス故ニ樵夫及伐木ノ袖小屋ニ比シテ其木屋ト稱ス地多シ
瀧谷神瀧小瀧等ノ名ハ此地大杉谷ノ末流豊宮川ノ水源ニノ溪川ノ激流ノ地ニアリ故ニ名ク
本邑ノ東ニ一里塚アリ村口山ノ神社ノ前ヨリ左ヘ下リ一丁余凡六七十間南ニ大岳アリソ
ノ東ニハシカミ谷此處ヨリ小瀧ヘ踰ルナリ

小瀧 神瀧ノ東ニアリ 正税六十九石紀州田丸領ナリ 大村谷越ト云アリ岩井ヨリ二里余
瀧ノ谷瀧ノ上ニアリ社アリ宮ノ瀧ト稱ス

御棟木 小瀧ノ東ニアリ 正税二十六石紀州田丸領ナリ 御棟木ノ名稱ハ往昔大神宮遷宮造
替ノ棟木ヲ伐出タル地故ニ名ク

唐櫃 南村ノ東ニアリ正税百十六石紀州田丸領ナリ

唐櫃岩蹟 同處ニアリ天正四年北畠家ノ被官唐櫃某住セリ

熊内 唐櫃ノ東ニアリ天ヶ瀬ヨリ船涉アリ 正税七十石紀州田丸領ナリ 紀州領主ノ炭役應
アリ大杉山谷ノ民貢賦ノ炭ヲ收斂ノ四方ニ嚮キ出ス 方俗久毛智ト轉訛シテ訓セリ

明豆 御棟木ノ東ニアリ 正税三十八石紀州田丸領ナリ
明豆岩蹟 明豆新兵衛尉住セリ

天ヶ瀬 明豆ノ東ニアリ江馬ノ内ナリ紀州田丸領ナリ江場組合ナリ 度會郡山田ヨリ三瀬谷
等ノ村邑柴薪炭等ノ運漕ノ舟ヲコヽニイタルコレヨリ水源ニハ不到ナリ

江馬 天瀬ヨリ三丁東ニアリ 正税二百二十八石紀州田丸領ナリ舊本繪馬ト録セリ今江馬ト
公私庄ニ載タリ 屬邑浦ヶ谷アリ

繪馬岩址 同處ニアリ天正四年繪馬住人萩原隱岐守萩原勝藏居セリ多氣眞善院舊録ニノセタ
リ北畠家ノ被官ナリ

栗谷 天瀬ヨリ乾位山中ニアリ正税七十四石紀州田丸領ナリ 屬邑下出アリ 湯谷河内 本
邑ノ乾位ニアリ 西谷河内 本邑ノ北ニアリ谷河内アリ 湯谷ヨリ飯高郡河俣谷田引及富
永等山路アリ湯谷峠越ト稱ス 湯谷ヨリ三十町十六間ニ一里塚アリ同郡朽河ノ谷ノ右ニア
リ

栗谷砦址 同處ニアリ唐櫃五身住セリ

靈符山 同處ニアリ 禪曹洞宗 本尊靈符北辰菩薩 靈符安心三昧修法卷ニノスル處ナリ

栗谷城址 同處ニアリ天正四年栗谷某住セリ多氣國司ノ被官ナリ北畠具親ニ與力ノ義兵チ

綴ス伊勢兵亂記ニ詳ニセリ

茂原 熊内ノ東ニアリ 正稅百二十三石紀州田九領ナリ

茂原砦址 同處ニアリ吉田惡才兵衛尉居セリ北畠家ノ被官ナリ今ソノ裔住シテ歷代連綿セ

リ

平野 茂原ノ東ニアリ平野木屋ト稱ス 正稅二十三石紀州田九領ナリ

蘭村 平野ノ東四町ニアリ 正稅百二十石 紀州田九領ナリ 屬邑古和瀬新田アリ

清水 蘭村ノ十五町東ニアリ 木田小屋ヘ舟涉アリ 正稅六十一石紀州田九領ナリ 屬邑彦

新田アリ方俗訛テシャウツト稱ス

赤瀧 清水ノ蘭村ヨリ十五丁東ニアリ赤瀧木屋ト稱ス 正稅四十六石紀州田九領ナリ

上菅 赤瀧ノ東ニアリ清水ヨリ川アリ 正稅百七十二石紀州田九領ナリ 屬邑菅木屋本邑ノ

西ニアリ

菅城址 同處ニアリ中西清兵衛尉住セリ

下菅 上菅ノ東ニアリ 正稅百四十四石紀州田九領ナリ 屬邑大ヶ所新田 本邑ノ南ニアリ

度會郡ニ隸レリ 瀧部同茅廣新田 下菅新田等小字多シ

河合 下菅ノ東ニアリ 正稅百七十七石紀州田九領ナリ 屬邑荒堀 小ヶ所アリ度會郡大内

山ヨリ流ル野尻川ト大臺山ヨリ所出ノ大河ト一派ニ合シテ三瀬ニイタル二岐ノ間ニアリ故

ニ名ク

小切島 江馬ヨリ八丁東ニアリ 正稅百六十九石紀州田九領ナリ 屬邑浦ヶ谷 本邑ノ良位

ニアリ江間ト小切島ノアイダニ一里塚有リ

本田木屋 小切島ヨリ八丁東ニアリ 正稅四十三石紀州田九領ナリ 本邑ヨリハフス岳越ト

云アリ飯高郡宮前村ヘ至ル此谷裏ヶ谷口ト云左ノ溪間ニ村邑アリ裏ヶ谷村ト云左傍大杉ヨ

リ流ル大川ナリ

上真手 本田木屋ノ東ニアリ 正稅百七十一石紀州田九領ナリ 屬邑下真手 本邑ノ東ニア

リ 猿飼 下真手ノ東ニアリ 道カト新田 里村ノ小字アリ 下真手ヨリ本郡向粥見ニ徑

路アリ相津越ト稱ス又有馬野ニモイタル山路アリ 上真手猪飼ノアイダニ谷川アリ夜ナキ

橋ト云フ裏ヶ谷ヨリ三ツ目ノ橋ナリ

養國寺 下真手ニアリ禪宗 度會郡山田二俣正法寺末寺 本尊觀世音

燒飯 下真手ノ東ニアリ 正稅百四十二石紀州田丸領ナリ 屬邑其井 本邑ノ西ニアリ舊ハ
蘭井ト録スタト坂越ト云此處谷川高橋ヲ涉リ右ノ溪間ニ民家アリ 下真手ト燒飯ノ間溪川
アリ大河ヘ落ル此谷川ノ水源ニ坊主ヤシキ赤虫トイフ地ノ字アリ 寺谷橋ト云フ
佐原 燒飯ノ東ニアリ 正稅二百七石紀州田丸領ナリ同郡向粥見ニ徑路アリ佐原越ト稱ス是
ヨリ大壘山ノ下流大河ニ傍フテ領内谷及大杉谷ニイタル各山溪間ノ巷ナリ方俗大杉ヨリ以
東ヲ天夕瀬ニイタリ領内領ト稱ス此處ヨリ大河ニ舟沙アリ舟木ヘイル舟木ヨリ山ノ面ヲ踰
テ野尻ニ出ルナリ

上三瀬 佐原ノ東ニアリ 正稅二百三十石紀州田丸領ナリ

三瀬御所舊墟 同處及下三瀬ノ間ニアリ天正四年國司北畠中納言具教ノ居城ナリ 因云天正
四年十一月廿五日晨ニ藤方刑部少輔臣輕野某瀧川三郎兵衛尉長野左京進ノ三士三瀬ニイタ
リ具教ニ謁ス具教爐ヲ囲シテ二人ノ兒子ヲ愛スル所ニ近臣佐々木四郎左衛門尉三臣參謁ノ
由ヲ啓ス即具教三臣ヲ召ノ見エ長野左京進頻ニ長鎗ヲ取テ衝ク具教憤テッノ鎗ヲ奪フテ劍
ヲ拔テ斬ントス其臣佐々木信雄ト謀テ刀劍ノ及ヲ盡ク壞テ及其鞘ヲ堅メテ抽クヲ得カラ
シム具教怒リ罵ル瀧川輕野其虛ニ乗ノ刀ヲ抽テ殺害ス年四十九其幼兒ハ乳母抱走リケルヲ
奪テ盡ク殺セリ北畠顯能曆應元年本州ノ國司ニ補セラレシヨリ歷代九世二百三十九年ノ天

運忽ニ滅盡シテ此トキニ亡廢セリ 伊勢兵亂記北畠物語大畧相同シ

上三瀬砦址 長野左京佐居セリ

下三瀬 上三瀬ノ東ニアリ紀州牟婁郡長島街道ニ民居ス方俗西國順禮街道ト稱ス二所大神ニ
詣ノ諸州ノ觀音巡拜ノ輩コ、ヲ經テ紀州長嶋ニイタリ第一番那智山ニ詣スルノ順途ナリ旅
食茶貨店アリ 正稅二百十三石紀州田丸領ナリ

式内多岐原神社 同處街道ノ傍ニアリ方俗麻奈胡社ト名ク舊名御瀬神社今三瀬ト轉セリ瀧原
宮ト混駁スヘカラス 祭神真奈胡神水靈 内宮延曆儀式帳云瀧原神社一處稱麻奈胡乃神形
石王倭姬内親王代定祝 正殿一字長六尺弘四尺高七尺 下畧 倭姬命世紀曰活目入彦五十狹

第天皇二十五年丙辰三月三日從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令坐 中畧 爾時倭姬命詔白 从南山未見
給波 吉宮所可在見 申止 詔 御宮所ヲ覓ル 爾 大若子命 乎 遣給 支 倭姬命者天照大神 乎 奉崇戴小
船 爾 乘給 御船 爾 雜々神財 并 忌楯梓等 乎 止置 氏 從小河幸行 支 中畧 從其所幸行大河瀬 乎 渡給
止 爲 爾 鹿完流相 支 是穢 止 詔 氏 不渡坐其瀬 乎 相鹿瀬 止 号 支 從其所指河上幸行 波 砂流速瀬有 支
于時真奈胡神參相度奉 支 其瀬ヲ真奈胡 乃 御瀬 号 玉 氏 御瀬神社 乎 定給 支 度會延經神名帳考
證云多岐原神社麻奈胡神水靈麻與美音通伊豆國南子神社阿波國天水沼間比古神社在三瀬村
一名三瀬社 度會正身神名帳再考證云多岐原神社野尻瀧原宮ト混スレ野尻ハ宮ニノ是ハ

社号ノ神ナリ此地モ御經行ニ暫ク止リ坐シ故祀ルナリ經行ノ日麻奈古神參會シニ由テ後人其神ヲ祝ヒ充シナリマナゴトハ雜リナキ白砂ヲ云ナレハ川上ノ白砂アル處ヲトメ司ル地主ナルヘシ今詳ニスルニ延經考證ニ舊典ニ從テ祭神麻奈古神即水ノ靈神トス麻ハ美ニ音通スル故ニ式内伊豆國南子神社阿波國天ノ水沼間比古神社ニ同ク美奈古厩稱スヘキ引據ノ水靈神ト云注ナリ正身再考證ニハ瀧原宮ニ皇大神遷幸ノキ麻奈古神參遇スルニ據リ其地ニ後ニ此社ヲ建置スル處ニノ麻奈古ハ真砂ニ其白砂アル地ヲ主宰スル神ノ號ナリト云解ナリ愚按ニ倭姬命世紀ニ其瀨乎相鹿瀨止号支從其所指河上行幸波砂流速瀨有支于時真奈古神參相度奉支其瀨乎真奈古乃御瀨号氏御瀨神社乎定給支ト載スルニ據レハ皇大神五百刺竹田國即今ノ櫛田ヨリ魚海ニイタリ白濱真名胡國ニ真名胡神社定メ玉ヒ大淀ヨリ伊蘇國狹田田上笠木ヲ經テ相鹿瀨ヨリ此三瀨ニ至リ野尻瀧原ニ宮造ス處ノ次第ノ順路ナリ其處ニノ參會スル神ニノ砂流速瀨ヲ渡シタルノ謂ニノ真奈古社及神名ニ稱ス處ナルヘシ猶其瀨ヲ御瀨ト名ケ今三瀨ト轉ノ書スル處ニシテ即此地ニ居ス地主神ニ其地ニ真砂ノ多キヲ稱ス名トスヘシ既ニ多氣郡濱田ニ白濱真名胡國ト稱ノ真名胡神社ヲ定祀スル處世紀ニ見エタリ白濱ト云キハ白砂ナルノ謂ナリ再考證ニ白砂トスルノ解是トスヘシ考證ニ麻奈古水奈古ニ訓ノ水靈ト云ハ未詳臆度ナリ猶延佳延經父子ハ神典ヲ陰陽五行ニ配シテ解釋スルニ據テ無形ノ神

多ク及ヒ五行ノ靈ニ偶スル常辟ナリ其德ヲ表スルト云ハ時ニ然イフヘキアリ其靈ト云ハ寓言ニノ真ニ非スイツレ此地ニ主宰スル處ノ神ニシテ必ス皇大神遷幸ニ遇會スル處ノ神トスヘキナリ延經正身其說ノ矛盾スルハ陰陽無形或ハ五行ノ靈神ト稱スル處ト有形ノ地神トスル處ト各異ナルカ故ナリ猶今古差アリ世紀ノ文ニ據テ其定祀ノ地ヲ索スル處ニノハ詳ナルヲ注セハ本郡濱田ニ真名胡神社アルニ據テ混合スルニ至レリ世紀ニ爾時倭姬命見悅給支其所爾魚見社乎定賜支從其幸行奈留御饗奉神參相奉支汝國名何問給支白久白濱真名胡國止蒼白支其處真名胡神社乎定給支ト記スルハ魚海ヨリ濱田ニ遷幸ノ順次ニシテ真名胡ハ真砂ニノ俗マナゴ砂ト云其地勢ノ砂石多聚ル處ノ謂ナリ此三瀨社ニ麻奈古ト稱スルモ相同シ前ニ白濱真名胡國ニ定祀スル處ノ參會ノ神名ハ世紀ニ所載ナシ故ニ其地名ニ據テ真名胡神社ト号シ又後ノ此ニ祀ル處ハ真名胡神ト稱スルニ據テ御瀨神社定祀スル處ニノ後世麻奈古ニ作リ麻奈古神社或三瀨神社延喜式ニ多岐原神社ト稱スルナリ相似タルニ據テ前ノ真名胡神社ニ混スヘカラス此神社モ儀式帳ニ國郡司奉造社ナリト今ノ社域ハ寛文三年大中臣精長造進シ再興スル處ナリ延喜式ハ度會郡ニ隸入セリ今本郡ニ屬セリ上世ハ多氣度會ニ郡ノ交ニアルカニヘニ後チニ混シテ本郡ニ屬セシナルヘシ

三瀨河 本邑ノ南ニ流ル紀州街道ナリ度會郡野尻村ニイタル舟涉アリ即大壘山ヨリ出ル豐宮

川水源ナリ

廿四

舟木 下三瀬ノ坤位ニアリ 正稅九十九石紀州田丸領ナリ

式内棒屋神社 社域祭神未詳 度會延經神名帳考證云棒屋神社船ノ靈日本紀云素盞鳥尊曰杉者可以爲浮寶大殿祭祝祠云屋船久々運命是木靈也船木邑産社此歟 度會正身神名帳再考證云棒屋神社棒當作杉前ニ棒原ノ字ヲ誤テ訓ヲ差ヒシヨリ棒ハ即杉ノ字トノ印本其誤ヲ傳ヘシナリコレハ殖杉ナリ殖ヲヤト云例加須屋ノ下ニ注ス日本紀ニ素盞鳥尊五十猛命チノ木種ヲ殖シメ其木用ヘキ方ヲ定メテ杉者可以爲浮寶ト宣フコトアレハ五十猛命或ハ其妹大屋姫命ヲ祀ルナリ舟木村ノ産神是ナルヘシ 今詳ニスルニ延經考證棒屋神社スギヤト訓スルニ名義ニ據テ日本書紀ヲ引徵ノ素盞鳥尊ノ言ニ杉ハ浮寶ト爲ヘシト浮寶ハ即船ナリ又延喜式大殿祭祝祠ニ屋船久々運命ハ木ノ靈ナリト云ヲ引テ船木村ノ名ニ應ノ産神ノ社ナルヘシ此ニ據テ祭神船ノ靈ナリト云注ナリト正身再考證ニ棒ハ杉ノ字ニ作ルヘシ舊ト延喜式ニ棒原スギハラト云訓ヲ誤リテスギニ唱ヘ又字ニ作り棒ニ印本ニ謬傳ノ棒ヲ杉ト同ク訓セルニ據テ今ニイタレリ棒屋ハ杉ウエノ畧ニシテ殖ヲヤト轉ス後條加須夜神社ハ柏殖ニノカシハウエノ畧ナル例ニ同シ日本紀ニ素盞鳥尊五十猛命ニ詔スルノ下ニ浮寶ノアアレハ五十猛命チ祭ルヘシ或ハ大屋姫命モ其妻ナルカ故ニ此ニ神ヲ祀ル處ニノ前考證ノ船ノ靈ニハ非スト排

斥ス處ナリ社地ハ船木村ナルヘシト云釋ナリ愚按ニ棒ハ字書ニ棍也得也注ノシモト、訓ス再考證ニ棒原スギハラト訓ス即クヌギナリヌギヲスギニ誤看テ又棒ニ作りスギト訓スルヨリ延喜式印本ニ謬傳スト云ハ卓見ナリ然リトスヘシ櫻字書ニ槻ト同クケヤキナレト國書ニハ妄ニシテ上世ヨリ誤用ル多シ孰レ棒ハ非ナリ然レト強テ謂フトハ杉屋ナルハ必セリコレニ據テ杉ハ浮寶トスノ文ヲ據テ船靈神及船木村ノ名ニ據ニ此地ニ定ムルハ牽強ニノ至當トシ難シ臆斷ナリト憶ヘリ猶考證モ前證ニ倣ヒテ別異ナシ然レト五十猛命及大屋姫命ヲ奉祀スヘシト云ハ前ノ船木ニ船ノ靈ヲ牽合スルヲ忌テ排スルノ一說ナリ穩當トイヘト其社域未詳ニイタレリ何リ祭神ヲ論スヘキナシ式社案内記此ニ從テ祭神舟靈舟木村ニアリトス船木ハ本郡三瀬村ノ隣比ニノ三瀬川ノ水厓ニアリ舊ト船置ノ畧濁ニノ今舟木ト稱スナルヘシトノ故ハ常ニ河舟多ク往還スル處ニノ今紀州領主ヨリ監船應ヲ置テ用材薪炭等運漕ノ監看アリ三瀬ハ皇大神遷幸ノ地ニシテ倭姫命ノ定祀ノ神社等アルヘシ然レト世紀ニ所傳ナシ式内神社ハ飯高郡丹生郷ヨリ以西ニ會テ所置ナキニ例シテ本郡モ三瀬ヨリ以西ニ所置ナキ處トイフヘシ佐那神社相鹿本太御神社守山神社ノ外ニ以西ニ多ク所置ナキヲ察知ヘキナリ其餘郡ハ狭小ナルカ故ニ郡中ニ充リ多氣飯野度會ハ長大ナルカ故ニ以西ニ會テナシ延喜式ヨリ後ニ民居モ多キカ故ナルヘシ然レハ此棒屋神社モ此地ニ定メガタシ龍瀨近神名帳考正ニ菅生

廿五

村ニアリトス是棒屋菅生訓相似タルヲ以テ臆斷ナリ勢陽雜記拾遺此ニ從ヘリ菅生ハ飯野郡ニ屬シ立利七見ニ隣比ス本郡ト混スヘキニ非ス伊佐和神社ノ式ニ本郡ニ係ルハ本郡飯野ノ郡界ニアル故ニ今古ノ差異ニシテ此例ニアラサルヘシ其餘未其社地ヲ考ヘキナシ古事紀云神八井耳命伊勢舟木直尾張丹羽臣島田臣等祖也ト載ルキハ上世舟木直ノ所居ニシテ祭神ハ神八井耳命ヲ遠祖ナルカ故ニ祀ルト云ハ至當ナリ即綏靖天皇ノ尊兄ナリ船靈或五十猛命トスハ非ナリトスヘシ然レモ此舟木ニ必定スヘキ其徵ナシ故ニ姑ク闕如ス古屋草紙句々廻馳命ヲ奉祀トスト云妄ナリ今其社地祭神ヲ詳ニ考ヘ得ストイヘモ前考證ニ倣テ姑ク此ニ標出ノ所載ナリ猶後稽スヘシ

長箇 下三瀬ノ八町巽位ニアリ 正稅百九十八石紀州田九領ナリ

高瀬 長箇ノ良位ニアリ 正稅八十二石紀州田九領ナリ 度會郡神原ヘイタル舟涉アリ

奈良井 下三瀬ノ一里東ニアリ高瀬ヨリ東十五町ニアリ 正稅七十四石紀州田九領ナリ屬邑

新田アリ

粟生 奈良井ノ東三町ニアリ 正稅二百石紀州田九領ナリ 神鳳抄云外宮小粟生御園一斗

上楠 粟生ノ八町東ニアリ 正稅二百二石 紀州田九領ナリ 屬邑 下楠 本邑ノ東三町ニ

アリ 本邑ト粟生ノ間ニ一里塚アリ

神瀬 下楠ノ良位十五町ニアリ 正稅百十七石紀州田九領ナリ 屬邑 河内新田アリ

朽原 神瀬ノ五十二町良位ニアリ 正稅三百四十石紀州田九領ナリ 屬邑宮野 大林アリ朽

原新田 本邑ヨリ十二町西ニアリ 神鳳抄云内宮朽原御園一石九十二月

朽原神祠 本社南向 五社ノ宮トイフアリ星ヶ池岨明神アリ

柳原 朽原ノ巽位ニアリ 正稅二百十五石紀州田九領ナリ

千代 柳原ノ二町東ニアリ 正稅百四十五石紀州田九領ナリ

東相鹿瀬 千代ヨリ五町東ニアリ山間ニ民居ス旅舎茶酈アリ西國順禮街道ナリ田丸府ヨリ
 西二里 三宅郷ニ屬ス 正税百八十三石紀州田丸領ナリ 屬邑西相鹿瀬 本邑ノ三町西ニ
 アリ東相鹿瀬ハ公牒ニ度會郡ニ隸レリ舊記逢鹿瀬按スルニ舊名大河瀬ナルヘシ豊宮川ノ水
 源ニアリ故名トス然レモ倭姫命世紀鹿完流相^支ノ文ニ據テ相鹿瀬ノ名ヲ填ト謂ヘキナリ
 神鳳抄云相可瀬御園又云内宮逢鹿寺御園一石此ニ有スル處ナルヘシ 子ギ峠 東相可瀬ヨ
 リ野中ノ内成川新田ノ間ニアリ十町條モ登リテ本邑ニ至ル 倭姫命世紀曰活目入彦五十狹
 第天皇廿五年丙辰春三月三日從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令座 中畧 倭姫命詔白久南山未見給 江
 波 吉宮所可在見 申止 詔 氏 御宮所 乎 覓爾 大若子命 乎 遺給 支 倭姫命 者 天照大神 乎 奉宗戴小船 爾
 乘給 氏 御船雜々神財並忌楯梓等 乎 留置 氏 從小河幸行 支 中畧 從其所幸行大河瀬 乎 渡給 止 爲 爾
 鹿完流相 支 是穢 止 詔 氏 不渡坐其瀬 乎 相鹿瀬 止 号 支 今詳ニスルニ伊蘇宮ヨリ狹田田邊笠木
 ナ經テ野尻瀧原ニ迂幸ノ順次ニノ相鹿瀬ハ山林ニ傍テ村邑ハ居ストイヘ此地ニシテ三瀬
 川ノ末村落ノ南ニ流テ堰ニ臨ム故ニ相鹿瀬ノ名アリ
 逢鹿瀬寺 地所未詳 神宮雜事紀神護景雲元年十月三日逢鹿瀬寺永可爲大神宮寺之由被下宣

旨既畢云

野中 東相鹿瀬ヨリ東一里ニアリ 有貳郷ニ屬ス 方俗原ト私稱ス 古圖及明曆中圖度會郡
 ニ隸レリ今本郡ニ屬ス 正税五百十九石紀州田丸領ナリ 屬邑成川新田 本邑ノ西ニアリ
 本邑ハ田丸府城ヨリ西國順禮街道紀州長嶋ノ岐道ナリ 又北ニ街道アリ本郡佐奈ノ内仁田
 四神田ヲ經テ飯高郡丹生ニイタリ同郡河俣谷高見峠ヲ越テ大和州ニ至ル吉野金峯山及紀州
 ノ街道ナリ 河俣越ト稱ス村邑ノ間ニ兩岐ノ巷アリ辻堂アリ吉野及西國街道ノ標石ヲ建ル
 神鳳抄云内宮野中御園一石九十二月
 森庄 野中良位ニアリ 正税二百三十四石紀州田丸領ナリ 屬邑中村アリ
 式内相鹿木多御神社 同處ニアリ方俗八王子ト稱ス 祭神句々廻馳神 度會延經神名帳考證
 云相鹿木多御神社木靈句々廻馳神倭名抄云樹神和名古太万今在森庄村 乎 相可村之東南也
 度會正身神名帳再考證云相鹿木多御神神祭神句々廻神ナルヘシ名義ハ木股生ニテ枝葉ヲ生
 セシムルヲ云上ノウヲ畧シテ且まノ畧濁太ハ濁音ノ字ナリ句々廻馳トハ彼邦ニテ春神ヲ句
 芒ト祀ルニ等シシ木ノ芽ヲ勾ムルニ據リ名ケテカンガムノ老翁ト云ナリかむノ切ク即躡ハ
 カンガマルナリ考ノ久求トナルガ如シ考證ニハ社地今森庄村ニ在ヲ云ナルヘシ相可ノ東南
 ニアリ 今詳ニスルニ延經考證ニ相鹿木多御神社ノ名義ニ據テ倭名抄樹神ヲ古多万ト云木

東相鹿瀬 千代ヨリ五町東ニアリ山間ニ民居ス旅舎茶邸アリ西國順禮街道ナリ田丸府ヨリ
 西二里 三宅郷ニ屬ス 正税百八十三石紀州田丸領ナリ 屬邑西相鹿瀬 本邑ノ三町西ニ
 アリ東相鹿瀬ハ公牒ニ度會郡ニ隸レリ舊記逢鹿瀬按スルニ舊名大河瀬ナルヘシ豊宮川ノ水
 源ニアリ故名トス然レテ倭姫命世紀鹿完流相^支ノ文ニ據テ相鹿瀬ノ名ヲ填ト謂ヘキナリ
 神鳳抄云相可瀬御園又云内宮逢鹿寺御園一石此ニ有スル處ナルヘシ テギ峠 東相可瀬ヨ
 リ野中ノ内成川新田ノ間ニアリ十町條モ登リテ本邑ニ至ル 倭姫命世紀曰活目入彦五十狹
 第天皇廿五年丙辰春三月三日從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令座 中畧 倭姫命詔白久南山未見給 江
 波 吉宮所可在見 申止 詔 氏御宮所 平寬爾 大若子命 平遺給 支倭姫命 者天照大神 乎奉宗戴小船 爾
 乘給 氏御船雜々神財並忌楯梓等 乎留置 氏從小河幸行 支中畧 從其所幸行大河瀬 乎渡給 止爲 爾
 鹿完流相 支是穢 止詔 氏不渡坐其瀬 乎相鹿瀬 止号 支 今詳ニスルニ伊蘇宮ヨリ狹田田邊笠木
 ナ經テ野尻瀧原ニ遷幸ノ順次ニノ相鹿瀬ハ山林ニ傍テ村邑ハ居ストイヘ此地ニシテ三瀬
 川ノ末村落ノ南ニ流テ峯ニ臨ム故ニ相鹿瀬ノ名アリ
 逢鹿瀬寺 地所未詳 神宮雜事紀神護景雲元年十月三日逢鹿瀬寺永可爲大神宮寺之由被下宣

旨既畢云

野中 東相鹿瀬ヨリ東一里ニアリ 有貳郷ニ屬ス 方俗原ト私稱ス 古圖及明曆中圖度會郡
 ニ隸レリ今本郡ニ屬ス 正税五百十九石紀州田丸領ナリ 屬邑成川新田 本邑ノ西ニアリ
 本邑ハ田丸府城ヨリ西國順禮街道紀州長嶋ノ岐道ナリ 又北ニ街道アリ本郡佐奈ノ内仁田
 四神田ヲ經テ飯高郡丹生ニイタリ同郡河俣谷高見峠ヲ越テ大和州ニ至ル吉野金峯山及紀州
 ノ街道ナリ 河俣越ト稱ス村邑ノ間ニ兩岐ノ巷アリ辻堂アリ吉野及西國街道ノ標石ヲ建ル
 神鳳抄云内宮野中御園一石九十二月

森庄 野中長位ニアリ 正税二百三十四石紀州田丸領ナリ 屬邑中村アリ

式内相鹿木多御神社 同處ニアリ方俗八王子ト稱ス 祭神句々廻馳神 度會延經神名帳考證

云相鹿木多御神社木靈句々廻馳神倭名抄云樹神和名古太万今在森庄村 乎相可村之東南也

度會正身神名帳再考證云相鹿木多御神社祭神句々廻神ナルヘシ名義ハ木股生ニテ枝葉ヲ生

セシムルヲ云上ノウヲ畧シテ且まノ畧濁太ハ濁音ノ字ナリ句々廻馳トハ彼邦ニテ春神ヲ句

芒ト祀ルニ等シク木ノ芽ヲ勾ムルニ據リ名ケテカンガムノ老翁ト云ナリかむノ切ク即躅ハ

カンガマルナリ考ノ久求トナルガ如シ考證ニハ社地今森庄村ニ在ヲ云ナルヘシ相可ノ東南

ニアリ 今詳ニスルニ延經考證ニ相鹿木多御神社ノ名義ニ據テ倭名抄樹神ヲ古多万ト云木

多御ニ相似タル故ニ木ノ靈神句々廻馳ヲ祀ルトコロトス木ノ靈ニ據テ本郡森ノ庄ノ名ニ寓
 ノ此ニ祭ル處ナルヘシト解ス意ナリ正身考證ニ祭神ハ句々廻馳神ナルヘシ木多御神社ノ名
 義ハ木股産ノ意ニシテ樹ノ枝葉ヲ生スルヲ云ノ義ナリ句々廻馳ハ樹木ノ靈神ナル故ナリ社
 地ハ前考證ニ雷同スノ注ナリ憶フニ木多御神社ノ名義ハ前考證ニ古多万ノ通語トシ後考證
 ハ木股生ノ畧濁トス孰レ其徵ヲ得難シ龍熙近神名帳考正ニ社地林村ニアリ式社案内記ニ森
 庄村ノ東ニアリ今云八王子ト載スコレニ考證ニ從ヘルナリ勢陽俚諺ハ本郡相可伊蘇寺ニア
 リ所祭大山祇命トス或云森庄村ニ坐ス處トスルハ本郡相鹿瀨村ノ良位ニアリ地名稍ク相合
 フ故ニ相鹿瀨ノ北位ニアル處ノ社号トス案スルニ牽強ナリ相鹿ハ相可ナリ前ノ相鹿牟山相
 鹿上ノ神社ト同例ナリ其北位ナル故ニ木多ト稱ストイヘトモ御ノ字解シカマシ木多御三字
 連續シテ稱スヘシ度會國御神社國乃御神社ノ如シ又考正ニ林村ニ坐スト云モ相可ノ西北位
 ニアル處ノ村邑ナレハナリ然レモ林村ニ式内林神社アリ其他ニ需ムヘキニアラスコレ木多
 ナ北トスノ義ニ從ヒカカシ森ノ庄ハ相可ノ南位二十町許ニアリ此地世上世相鹿ト隸屬スル
 處ナルヤ未知或ハ相可ニ近キ地ニ存ス舊地ヲ遺失ノ後ニ此ニ定タルヤ其是否ハ辨シ難シ勢
 陽俚諺ニ伊蘇寺ノ境地ニアリト云ハ強テ相鹿ノ名ニ合セントスル如シ大山祇命ヲ奉祀スル
 ト云モ其徵ヲ得ス各從フヘカラス是ニ由テ前ニ考證及式社案内記ニ倣テ森庄村ニアリ句々

廻馳神ヲ奉祀スルトコロニ從フヘシ

田中 野中ノ北ニアリ 正税二百二十四石紀州田丸領ナリ 野中及田中ノ名義ハ本郡大杉ヨ
 リ相鹿瀨ニイタリ各山潤林叢ノ間ニ居スコノ地ニイタリ稍ク原野平田ノトコロナリ故ニ名
 ツク故ニ野中方俗原村トモ私稱セリ

四神田 田中ノ十八丁乾位ニアリ 正税三百四十六石紀州田丸領ナリ

油夫 四神田ノ坤位ニアリ 正税四百五十四石紀州田丸領ナリ

式内火地神社 同處ニアリ産神ト云 祭神軻遇突智命 度會延經神名帳考證云火地神社火雷

命油夫村産社此乎油齋也夫火也十月祀之 度會正身神名帳再考證云火地神社ホツチト訓ス
 ヘシ地ハ假字山祇シチイカツチ雷ノコトシ加遇突智ヲ火神トモイフヘシ日本紀第一ニ軻遇突

智娶墳山姫生稚産靈此神頭上生靈與桑臍中生五穀トアリテ靈桑豆麥ノ爲ニ祭ルナリ社地未
 詳油夫村ノ産神ナルカト云フ 今詳ニスルニ延經考證ニ火地神社ノ名ニ據テ火雷神ヲ所祭

トシ油ハ齋ノ訓夫ハ火ノ訓ニ同シ故ニ油夫村ニ産神社地ナルヘシト云解也正身再考證ニ火
 地ハホツチト訓ス山ツチイカツチ軻遇突智ノツチニ同ク猶日本書紀軻遇突智頭上ニ靈桑及

臍中ニ五穀ヲ生スト云文ニ據テ五穀豐登ノ祈ニ此神祭ル處ナリト云然レモ社地詳ナラスト
 釋ス愚案ニ前考證ニ火地ノ社号ニ據テ火雷命ヲ所祭トス再考證此ニ倣ヒテ火地ハホツチニ

ノ即火神駒遇突智ヲ祀ルトスコレ稍ク是ニ近シ考證ニ社地油夫ハ齋火ノ轉訛ス故ニ其邑ノ
 産神ナルヘシト云コレ一説ニシテ是ナルニ似タリ其故ハ油夫ト名ク處他ニ異ニシテ奇ナリ
 未其義ヲ得ス此ニ據ルニ然リトスヘシ油夫ハ佐那神社守山神社相鹿木多御神社ノ地ニ比隣
 シテ式社多シ故ニ火地神社ノ所在ニノ油夫ト名ク云ヘシ勢陽雜記拾遺及式社案内記ニ岩
 内村觀音寺境内ニアリ祭神前ト同シ勢陽拾遺ハ畠田神社及石田神社ノ三處皆駒遇突智命ヲ
 祀ルトス三社近地ニノ同神ト祭スルハ各妄ナリ勢陽俚諺ニ度會郡陽田神社ヨリ十四丁有爾
 郷岡村ニアリトス以上式社案内記勢陽俚諺各異ナリ案内記ハ岩内方俗伊保知ト訓呼ス火地
 ハ伊保知ノ上畧スル處ニ同シ故ニ此ニ牽合スルナルヘシ飯高郡ニ同名アリ俚諺ハ岡村ニ坐
 ストイヘ度會郡ニノ本郡ニ非ス延喜式ト異ナリ古郡ノ差互多シトイヘトモ本郡ニ違シ其
 餘真ヲ得ス從ヒカタシ今姑ク前考證ニ倣ヒテ此ニ從ヘリ猶後ノ訂正ナ期ス處ナリ

五桂 油夫ノ西ニアリ平谷ヘ十八丁 正稅五百八十三石紀州田丸領ナリ佐奈谷ト稱ス大沼池
 アリ水田ノ用ニ設ク方俗五桂池ト稱ス本州第二三ノ大沼ナリ

仁田 四神田ヨリ十五丁乾位ニアリ 正稅三百八十一石紀州田丸領ナリ佐奈ノ内ナリ

式内佐奈神社 同處西ノ入口ニ在ス大森社ト稱ス 祭神二座天手力雄命天石戸別神 度會延
 經神名帳考證云佐那神社二座手力雄神若沙那賣神古事記云手力男神者坐佐那之懸也手力雄

神爲天神御戸開神今在佐那仁田村西稱大森社 度會正身神名帳考證云佐那神社二座古事記
 ニ思兼命ノヲ云テ次ニ天石戸別神亦名謂櫛石窓神亦謂豐石窓神者御門之神也次手力雄命
 佐奈懸ニ在リト文ヲ屬ケタレハ天石窓神ト手力雄神ト二座ヲ此ニ祀ルナリ 今詳ニスルニ
 延經考證ニ佐那神社ノ名義ニ據テ二座ヲ填ルニ天手力男神若沙那賣神トス猶佐那ニ據テ若
 沙那賣神ヲ合祀ト云ハ牽強ナリ從ヒカタシ正身後考證ハ古事記ニ思兼命ノ次ニ天石戸別神
 次ニ手力雄命ト次第スルニヨレハ即天手力雄神ト天石戸別神ト二座ヲ合祭レリト云即天石
 戸別命ハ手力雄神ニ屬スル處ニノ櫛石窓豐石窓各一神ノ名也此説是トスヘシ式社案内記ハ
 前考證ニ倣ヘリ非トスヘシ古事記云手力男命者坐佐那縣又曰大股王之子曙立王次菟上王此
 曙立王者伊勢之品遲部之君伊勢之佐那造之祖舊事紀相同シ佐那造ハ開化天皇ノ曾孫曙立王
 ノ裔ナリ倭姬命世紀曰活目入彦五十狹第天皇廿二年佐奈縣造祖彌志呂宿禰命 爾汝名何問給
 白 許母理國志多備國真久佐牟毛佐向國 止 蒼白 氏 進神田神戶此時飯野高宮ニ坐スノ時佐那
 縣造ノ祖彌志呂宿禰命ノ奉祀セシナリイヅレ佐那縣ハ今云佐奈谷ニシテ所謂長谷神坂前村
 平谷仁田五桂五佐奈油夫四神田西山ノ十邑ナリ世紀ニ所載許母理國ハ隱口ニシテ國ハクノ
 字ナリコモリクハ隱口ノ泊瀬ノ如ク此谷ノ隱々タルニ據レリ下樋ハ非ナリ下日ト謂ン冠辭
 ナルヘシ真久佐ハ真草ニノ萬葉第一真草茹ル荒野者雖有ト云ニ同シ佐向ハフク反ナニノ向

ハ今ノ奈ノ訓ニシテ佐奈ト轉セシナリ内宮延曆儀式帳云眞久佐牟草向國ト載ル如シ伊勢國
 舊跡開書云草向國ハ飯野郡射和ノ北ニ草伏ト云地アリコノ處ナリトイフハ臆斷ナリ佐奈
 谷ハ射和ノ南ニアリ草伏ト云村邑ナシ下樋トノ飯高ノ下村トスルモ非ナリ佐那郷ハ上古縣
 主ヲ所置ニシテ其徵正シキ處ナリ俚諺朽原ノ地ニ奉祀スルトイフハ恐クハ差ヘリ又彌志呂宿
 禰命ヲ本社ニ奉祀スルト云モ世紀ニ據テ牽強ナリ古事及舊事紀ノ典據ニシテ手力雄命ヲ祀
 ルトノ其他ヲ容ルニ及ハス猶彌志呂宿禰命ハ垂仁帝朝ニ曙立王ハ佐那縣造ノ祖開化天皇
 ノ時ナリ垂仁天皇ヨリ以前ニシテ佐那神社ト標シテ此縣ニ魁トスル神社ナレハ佐那縣造ノ
 遠祖ヲ祀ルニ曙王立ヲ奉祀ストイフハ佳ナリ然レモ古事紀ニ天手力男命ヲ佐那縣ニ坐スト
 戴ルキハ姑ク從ヒテ俚諺等ノ異説ハ是否ヲ未論ナリ猶今仁田村ノ西ニ大森社ト方俗稱スル
 ニ據テ天手力男命ヲ伊勢佐那造ノ遠祖ヲ崇敬シテ祀ル處ノ社域ナル故ニ大森ノ名起レリト
 惟ヘリコレニ由テ別ニ其地ヲ考索ズルニタラスト云フヘシ
 ニツ井 同處ニアリ土人傳云古昔弘法大師掘シム井ナリ其一ハ清潔ニシテ其二ハ濁汚ナリ
 奇トスヘシト云
 平谷 仁田ヨリ十三町西ニアリ 正稅五百九十七石紀州田丸領ナリ小字アリ北ニ居ス佐奈ノ
 内ナリ

前村 平谷ノ十二町西ニアリ 正稅五百三十三石紀州田丸領ナリ本邑ノ北ニ小字アリ佐奈ノ内也

神鳳抄云内宮前村御園一斗十二月

神坂 前村ノ北ニアリ 松坂府ヨリ坤位二里 正稅三百四十二石紀州田丸領ナリ佐奈ノ内ナ
 リ 神坂ノ名義ハ守山神社ノ在ルヲ以テ稱スナルヘシ 神鳳抄云神坂御園七斗

式内守山神社 同處ニアリ 産社ト云丹生社ヨリ良位一里 祭神正鹿山祇命 度會延經神名

帳考證云守山神社大山祇神按守鎮護也今佐奈神坂山社此乎舊事記云大山祇亦名正鹿山津見
 神正鹿與坂言通 度會正身神名帳再考證云守山神社正鹿山祇ナリ正鹿ハ眞坂ノ假字其守山
 ノ神社ハ今ノ佐奈ノ神坂ノ社是ナリ眞坂ノ義合ヘリ 今詳ニスルニ延經考證守山神社ハ名
 義ハ守ハ鎮護ナリ山ヲ護ルノ謂ニシテ今ノ佐奈ノ神坂村山ノ社ト俗稱ス處ニ當レリ舊事記ニ
 大山祇命ヲ正鹿山津見神ト名ツシ正鹿ハ眞坂ト言通ス故ニ神坂ノ名ニ適當スト云ナリ正身
 再考證ハ前證ニ倣テ異ナシ案スルニコレ日本書記第一ニ五山祇ヲ載テ大山祇中山祇麓山祇
 正鹿山社鷓山祇ト標出セリ再考證ニモルノ切ヒニテ守山神ト云義ナリ牟山神社ノモ守山
 ノ謂ト同シト云故ニ牟山神社ハ大山祇中山祇ノ二座トス今從ヘリ林神社ハ麓山祇ヲ祀レリ
 ト云モ然リトスヘシ正鹿山祇ハ此神社ニ祀ルト云是ナリ式社案内記ハ五十猛命ヲ奉祀トス
 ト云ハ從ヒカマシ其徵トスヘキナシ再考證ニ鷓山祇ハ相鹿上神社ニ祀ルト云ハ非ナリ龍熙

近神名帳考正ニ守山神社宇爾伊達山ニアリト云故ニ伊達即五十猛命ニ合スルニ據リテ式社
案内記ニ五十猛命ヲ祀レリト云然其社域ハ異ナリ考正所言ニ從ヒカマシ其故ハ正鹿山祇
ヲ祀ルニ據リ守山神社ト稱シ其地ヲ神坂ト後世名クルニヨリテ其微ナキニアラス此處ヲ眞
トスヘシ

摩尼山金剛座寺 同處北ノ山上ニアリ天台宗方俗佐奈ノ金剛山ト稱ス 本尊如意輪觀音寺傳
云大織冠鎌足讚岐州志渡浦ニ面向不背ノ靈玉ヲ得ル祈願成就ノ後建立ス處ナリ 古屋草紙
云藤原不比等志等寺ヲ此地ニ迂ス 境內ニ三葉丁子アリ本邦ニ所在ノ二木ノ内ナリ方俗橄
欖樹ニ誤リ稱ス 高三石紀州領主ヨリ免許アリ 國順禮第十番詠云
ひかしより菩提のうへ木ろれなから出し佛のかけろ残れる

今詮スルニ大織冠鎌子海人ニ寶珠ヲ龍宮城ヨリ奪ハスノ俗譚往昔ヨリ口碑ニアリ俗謠曲ニ
モ多ク作り軍記等ニモ往々引證ス藤原鎌足藤纏ノ鎌ヲ以テ入鹿ヲ誅シ此褒賞ニ大織冠ノ官
ヲ授ク二女アリ一ハ光明子聖武帝后ニ立二ハ光白女ト号ス大唐高宗皇帝ノ后トナリ故ニ萬
戶將軍ニ命ノ唐ヨリ花原磐河濱石面向不背珠ノ三種ヲ南都興福寺ニ贈ルニ讚岐州志渡房前
ノ澳ニテ龍神ニ寶珠ヲ奪ハル鎌足身ヲ潜メ彼國ニイタリ海人ヲ妻トシ託ノ珠ヲ得セシム其
時一男子ヲ産ス即房前淡海公ナリト此說不足論トイヘ凡安ヲ正ス爲ニ微セリ羅山文集十謬

傳詩ニ藤不繼鎌姓依舊ノ句ニ明ニノ天智天皇紀ニ其事蹟ナシ鎌足ハ後世ノ訛ニノ鎌子ト
載テカマスト訓ス鎌倉志等ニ公ノ鎌ヲ埋タル地故ニ鎌倉ト稱スモ其妄ナルト上ニ相同シ又
大織冠ハ孝德天皇紀ニ大小織官七色十三階ノ冠ノ名ニ褒賞ニ非ス光明子ハ鎌子ノ孫不比
等ノ女ナリ三女アリ一ハ宮子ト名ク聖武帝母ナリ二ハ光明子聖武皇后三ハ多比野ト名ク橘
諸兄ノ室ナリ然ハ光白女トイフヘキナシ又唐太宗ハ孝德帝朝ニシテ聖武ヨリ前ニシテ光明
皇后ノ妹ト同時ニ非ス淡海公ハ不比等ナリ續日本紀天平寶字四年八月勅云太政大臣藤原朝
臣勳績蓋於宇宙朝賞未充人望宜依大公故事追以近江國十二郡封爲淡海公房前ハ藤原系圖ヲ
檢スルニ不比等ノ二男ナリ又寶珠ヲ龍宮ニ得タルトイフハ妄譚ナリ日本書允恭紀曰瀆于淡
路而不獲一獸故ト矣赤石海底有眞珠其珠祠島神則當得獸於是海人男狹磯者腰繫繩入海底差
頃之出曰海底有大鰻其處光也亦入探之抱大鰻而冷出乃息絶而死以繩測海底六十尋既而割鰻
腹得眞珠其大如桃子乃祠島神而猶多獲獸也云此ニ倣テ志度浦ニ珠ヲ獲タル事蹟ヲ附會セ
シナリ前條ニ所載鎌子及不比等何ノ因ヲ以テ本州ニ建寺ノ謂アルヤ不知トイヘ凡獲珠ノ說
ハ荒唐ナリ古屋草紙所載ノ三葉丁子ハ瑞香ノ屬ニノ結香花ナリ信飛ノ二州深幽ノ山谷ニ大
樹多シ敢テ奇翫スヘキニアラス然レ凡此地ノ山間ニ有スル希レナリ故ニ賞スヘキニタレリ
長谷 前村ヨリ十五丁西ニアリ松坂府ヨリ坤位三里半方俗丹生ノ長谷ト稱ス丹生ノ隣比ニシ

テ十八丁ヲ隔テタリ又長谷ノ名安濃郡ニアリ故ニ混セサランカ爲ニ丹生ノ名ヲ冒シテ稱ス
或ハ往昔丹生ト一邑ノ如ク後ニ分置スル處トス故ニ丹生ノ名ヲ冒ストイフハ非ナリ今ノ多
氣郡津留古江等モ和名類聚所謂ノ丹生郷ニシテ丹生ノ良位ノ多氣郡ノ境ナリ然レハ丹生ニ近
キ犬牙ノ地ナレハ丹生ノ長谷ト稱スルモ然リ 正稅百二石紀州田丸領ナリ

丹生山近長谷寺 同處山上ニアリ 眞言宗本尊十一面觀世音長一丈八尺勸操僧正作 本堂六
間七間 紀州領主ヨリ高五石免許アリ國順禮處第十二番詠云

大和なるはつせの寺もこれもまたおなし御法の道にころゆけ
異本道にころ入れ 雜記所載孝行天皇開基トイフハ光孝天皇ナルヘシ其據未詳

北島權少將國永集云丹生の泊瀬に春を見けるか枯たる木にも花さくとちかひの有程に
枯す咲梢の花に此寺の春を幾代のかさしとはする
觀音妙智力をたのみて通夜する人多かりければ
高くあふき世々に唱ふる御名なれや聲を觀するちかひ有とて

今詳ニスルニ安濃郡長谷村長谷寺アリ遠長谷寺ト稱ス此山ヲ近長谷寺ト稱スル遠近ノ字ハ
大和州長谷寺ヲ摸スル處ニシテ大和ニ近キヲ稱シ安濃郡ハ遠キ故ニ遠ノ字ヲ冠スルカ如シ當
寺元祿中マテ丹生村神宮寺ノ末院ナリ今故アリテ離末セリ或ハ光明寺ト號ス寛文中住侶快

養法印四方ヲ勸進シテ本堂ヲ造建ス又僧室ハ寛永年中現住政尊律師造ル處ナリ其以前ハ一
茅室ノ中ニ尊貌ヲ安置ス住僧モ其中ニ居ノ雨露ニ侵レ佛軀ノ膠漆モ損ケルヲ貞享中現住快
舜阿闍梨衆縁ヲ募テ修補セリ又元祿三年八月十四日大洪水ニ堂後ノ山頂頽崩ノ本堂ヲ損ス
然レモ本尊ハ恙ナカリシ當今ハ本堂及僧房嚴ニ莊造セリ近時鐘ヲ鑄ル其銘引曰 正六位上
飯高宿禰諸高諱觀勝普化親屬知友以仁和元年所建也亦曰仁和帝敕願也或先倫詔飯高氏後潤
色焉 其飯高諸高ノ事蹟ハ續日本紀第三十一同第三十四ニ載マリ

色太 枳原ヨリ一里西ニアリ 正稅百九石紀州田丸領ナリ 三鹿野 本邑ノ良位ニアリ 森
屬邑小字ナリ

土屋 色太ノ十二町西ニアリ 正稅九十石紀州田丸領ナリ
福壽寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗ナリ 本尊阿彌陀佛

車川 土屋ヨリ廿丁西ニアリ 正稅百二石紀州田丸領ナリ
徳林寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗 本尊阿彌陀佛

向粥見 車川ヨリ二里西ニアリ 正稅三百四十八石紀州田丸領ナリ飯高郡粥見ノ河俣川ヲ隔
テ南ニ居ス故ニ粥見ニ對シテ名ツク 屬邑波留 本邑ノ西ニアリ 相津 本邑ノ南ニアリ

本郡佐原ニイマル山路アリ相津越ト稱ス又向粥見小字アリ 穢多屠人ノ邑本邑ノ南ニアリ

醫王寺 本邑ニアリ 禪宗 本尊藥師佛

波多瀬 向粥見ノ二里東ニアリ 正税三百一石紀州田丸領ナリ 屬邑名古 本邑ノ西ニアリ
或ハ奈古ト録ス河俣川ニ傍フテ居ス故ニ波多瀬ノ名アリ

觀音寺 同處乾位ノ山上ニアリ 黄檗禪宗

光蓮寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗 本尊阿彌陀佛

波多瀬城跡 同處乾位山上ニアリ字ハ小屋城ト稱ス小城ノ意ナルヘシ今其址ニ富士權現ノ祠

ヲ祭レリ波多瀬三郎住セリ 北島物語云六呂木山副波多瀬三人船江ノ本田方ニ預ケラル中

ニモ波多瀬三郎生年十五歳無双ノ容顏ナリ信雄コレヲ惜ミテ一命ヲ助ケントス波多瀬辭シ

云三人同罪ナリ我一人生テ面目ナシ故ニ諸共ニ害ヲ蒙ラント云二人諫ムトイヘモ不用ノ終

ニ三人ハ殺害セラレ又何レモ磔ニカケラル、キ主君ノ爲ニ一命ヲ舍ルコト弓矢ノ面目ナリト

同音ニ謠ヒ戯レ終ニ害セラル寔ニ波多瀬若年ナレモ義ヲ重シク死テ潔ス

片野 波多瀬ノ十町良位ニアリ 正税四百九十五石紀州田丸領ナリ 屬邑多古 本邑ノ東ニ

アリ田林ニ傍テ稍ク原野アリ故ニ名ク

立雲寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗 本尊阿彌陀佛

朝柄 片野ノ南ニアリ 正税五百六石紀州田丸領ナリ 土産煙草ヲ出ス四方ニ鬻ク朝柄多婆

姑ト稱ス 本邑ヨリ粥見ニイタル海道大倭州吉野山上ニ詣ス路ナリ 此間ニ櫻峠ト云アリ

西行櫻ト稱ス花木所傳未詳方俗ノ稱スル處ナリ

古江 朝柄ノ東ニアリ車川ヘ十八丁松坂府ヨリ四里半 正税二百五十四石紀州田丸領ナリ

神鳳抄云二宮五箇山御園廿丁 外宮神領目錄云五箇山御園綿十兩絹四疋布等

五箇篠山城址 朝柄ト古江ノ間ニアリ追手ハ朝柄ノ良位ヨリ東ニ向テ登ル路アリ分明ナリ搦

手ハ古江ノ東ヨリ登ル山上平坦ノ處篠多生ノ鬱茂タリ其餘林樹生ノ詳ニ記シ難シ四壁突出

ノ峯嶮ク山頂ニ其遺址アリ舊ト國司北畠家ノ幕下野呂越前守歷代住セリ其後天正十年北畠

具親麩ク岩ヲ搆フ處ナリ今ニ兵器及磁器等ヲ鑿出ス 五箇ノ名稱ハ今所謂古江朝柄土屋車

川色太ノ五箇ノ邑ナリ方俗五箇谷ト稱ス

津留 古江ヨリ一里北ニアリ飯高郡界ナリ水厓ニ民居ス旅客舍茶園アリ舊圖本各野野郡ニ隸

レリ今本郡ニ屬ス 津留川舟涉アリ大和州長谷街道ナリ即川俣河ノ下流ニノ櫛田川ノ水源

ナリ 津留ノ名義ハ本郡波留ト同ク長谷街道河俣川ノ涉リノ津口ナルカ故ニ名ツク 正税

百七十二石紀州田丸領ナリ

上牧 津留ヨリ東七丁ニアリ田野ニ民居ス舊ト飯野郡ニ隸レリ今本郡ニ屬ス和名類聚抄上牧

下牧ノ郷ニノ牧ヲ比羅ト訓ス上牧中牧下牧津留各飯高郡ニ屬セリ 今屬邑中牧下牧アリ牧

三郷ト稱ス中牧五邑五町東ニアリ下牧今北牧ト稱ス本邑ノ北ニアリ 正税三百五十二石紀

州田丸領ナリ 神鳳抄云飯野郡牧御園是舊本郡ニアラスト云徴ナリ

牧城址 同處ニアリ岡小四郎住セリ北畠家臣ナリ

井内 上牧ヨリ三十一町東ニアリ小田ニ傍テ田間ニ民居ス 正税三百八十六石紀州田丸領ナ

リ 屬邑林村 本邑ノ二町東北ニアリ 西佐伯 本邑ノ東ニアリ

式内林神社 井ノ内林村ノ中間ニアリ 祭神麓山祇神 相可上社ヨリ西一里 度會延經神名

帳考證云林神社木靈木股神稱御井神在林村井内村西 度會正身神名帳再考證云林神社地名

直シニ林村ト云井ノ内村ノ西ナリ祀ル神前ニ見エタリ 今詳ニスルニ延經考證ハ林神社ノ

名ニ據テ多氣郡林村ニアル處ノ神社其地ニ據リテ指ス又林ノ義ニ據テ木靈木股神ヲ奉祀ス

ル處トス正身再考證ハ林神社ハ直ニ林村ニ在リト前證ニ從ヒテ異ナシ祭神ハ相鹿牟山神社

ノ條ニ所言ノコトシ日本書紀第一卷ヲ引據ノ五山祇ヲ出ノ林神社ハ麓山祇ヲ奉祀スル處ト

云前ニ見ヘタリト記スハ是ノ謂ナリ前考證ニ林村ノ名ニ寓ノ林神社ヲ合シ林ニ據テ木靈神

ヲ祭ルト云ト牽強ナリ御井神ト方俗稱スルニ暨テ此地相可川ノ水涯ニアリ其水靈ヲ祀ルモ

誣ヘキニイダレリ然レモ後考證ニ日本書紀五山祇中ノ麓山祇ヲ此ニ祀ルト云ハ是ニ似タリ

姑ク從フヘシ式社案内記及勢陽雜記拾遺古屋草紙各祭神木股神トスコレ前考證ニ倣ヒテ異

ナシト憶ヘリ然レモ未其考ヲ詳ニセサルニアリ猶稽ヘシ

佐伯 井ノ内ノ巽位ニアリ 正税二百七十九石紀州田丸領ナリ 土人傳源義朝ノ臣澁谷金王

丸居寓セシ遺蹟ナリ 俚諺曰此地名ハ弘法大師ノ姓氏ハ佐伯氏ナリ飯高郡丹生ニ三年住シ

玉フキ其氏人隨身ノ此處ニ住セシヨリ名ツケタルナルヘシ云 今詳ニスルニ弘法大師丹

生神宮寺及丹生神社創建ノ因アリ故ニ佐伯ノ氏族ヲ以テコノ處ニ潜居ストイフハ臆斷ナリ

其徴ヲ得カマシ所謂田村鷹ヲ一志郡及飯高郡ノ田村ニ罵リ稱スルカ如シ又左典廐義朝ノ童

金王丸ノ所傳此地ニ經歷ノコトナシ其徴ヲ詳ニセス土俗ノ謬傳ナルヘシ

常樂寺 同處ニアリ東本願寺派專念宗 本尊阿彌陀佛

中村 林村ヨリ三町東ニアリ佐伯ニ屬セリ故ニ佐伯中村ト稱ス本郡森ノ庄中村同名アリ 本

邑ニ方俗山崎宗鑑居住セシト云傳アリ未詳本州ニ伊勢宗鑑ト謚名スルアリ此人若クハ經歷

スル處ト云ヘシ首編ニ載タリ

三疋田 中村ヨリ五町東ニアリ 正税六百九十四石紀州田丸領ナリ

四疋田 三疋田ノ四丁巽位ニアリ 正税千十三石紀州田丸領ナリ 二疋田三疋田ノ名義未詳

相可 四疋田ノ四町長位ニアリ 正税六百十一石大神宮領紀州田丸領入組ナリ 舊名相鹿

延喜 或大鹿 舊事紀 或逢鹿ニ作レリ

式内相鹿ノ上神社 同處西口ニアリ方俗上ノ宮ト稱ス 祭神天兒屋根命 相鹿牟山神社ヨリ
 乾位十一丁 度會延經神名帳考證云相鹿上神社天兒屋根命姓氏錄云大鹿首天兒屋根之命ノ
 後也日本敏達紀云采女伊勢大鹿首小熊女續日本紀云伊勢大鹿首東鑑云文治三年伊勢國散狀
 介大鹿俊光散位大鹿兼重總大判官代散位大鹿國忠今在上相可村森中上宮 度會正身神名帳
 再考證云相鹿上神社今相可村森ノ中ニアリ上宮ト稱ス前ニミヘタリ 今詳ニスルニ延經考
 證ニ相鹿上神社姓氏錄ヲ引テ相鹿大鹿相同シキニ據テ大鹿首ノ始祖ハ天兒屋根命ナリト云
 ナ用テ此神社ニ所祭ハ天兒屋根命ナリトス日本書紀及續日本紀東鑑等ヲ引據テ大鹿ハ今ノ
 相可ト稱スルニ相同ク大鹿首ノ本貫ノ地ナルヲ以テ其祖神ヲ祀ル處ナリト標セリ正身再考
 證前ニ從テ異論ナシ案スルニ古事記敏達天皇卷云沼名倉大玉敷命坐他田宮治天下娶伊勢大
 鹿首之女小熊子郎ツ女生御子布斗比賣命次實王亦名糠代比賣王及舊事紀云淳中倉大珠敷尊
 敏達采女伊勢大鹿首小熊女曰菟名子夫人生二女長曰大娘皇女更名櫻井皇女少曰糠手姫皇女
 更名田村皇女大鹿ノ此邑所住ノ人ニシテ大鹿後ニ相可ト轉スルヲ証トスヘシ然ルキハ其遠
 祖ノ天兒屋根命ヲ奉祀シ上ノ神社ト稱スルノ謂眞ト云ヘキナリ式社案内記祭神天兒屋根命
 トス前考證ニ從ヘリ勢陽雜記拾遺中臣大鹿嶋命大香山戸臣命二座ヲ祀ルトス勢陽俚諺此ニ
 從フ各非ナリ其故ハ相鹿上神社延喜式ニ一座ト云キハ二座ニ填ルハ妄ナリ相鹿牟山神社ニ

座ニ填ツ此ニ大鹿嶋命大香山戸臣命ヲ充ルハ前考證ニ天兒屋根命大香山戸臣命ニ充ルモ穩當ナ
 ラス勢陽雜記拾遺ハ大鹿島命ヲ大鹿相可ノ名ニ據テ此ニ祀ルト云ハ牽強ナリ從フヘカラス
 土人傳云此處ニ大神宮鎮座ヨリ仕奉ル舊家アリ瓶子屋ト稱ス其家ヨリ每例祭ニ瓶子ヲ獻
 ス式アリテ度會郡山田ニ瓶子館某ノ宅ヲ宿トシテ勤仕セリ今其裔村田某ト稱ス此地ニ居セ
 リト云フ此所傳其徵詳ナラストイヘトモ河村倫興著伊勢舊蹟聞書ニモ載タリ
 千鳥瀬 本邑ノ西口上ノ神社ノ前路傍ニ細流アリ神社ノ灯籠ニ千鳥瀬ト彫ノ此處ヲ標ス方俗
 傳云往昔西行上人伊勢斗藪ノトキ黄昏ニ及コ、ニ到リ一ノ伴僧アリ宿ヲ求ントノ此村ニ進
 ミ歩ム此便ヲ待テ遲シ漸ク伴僧立歸テ上人ヲ呼喚ケレハ此流ヲ涉ントスキ千鳥ノ聲ヲ聞
 つかれぬる我を友呼ふちどりか瀬越ぬてあふかに旅寐ころすれ
 此上人ノ咏トス土人ノ口碑ニ遺レリ

式内相鹿牟山神社 同處ニアリ札辻ヨリ巽位小山ニ座ス相可磯部寺ヨリ十一丁 方俗ボツ山
 ノ神ト稱ス 祭神二座大山祇命中山祇命 度會延經神名帳考證云相鹿牟山神社二座中臣天
 兒屋根命大香山戸臣神舊事紀云大山祇亦名正鹿山津見神摘大山與正鹿之字爲大鹿稱牟山牟
 麻音通土爲中央與中臣同理古事紀加臣字顯其意祭主家公文抄云任料牟山禰宜絹一疋在相可
 村稱山神 度會正身神名帳再考證云相鹿牟山神社二座相鹿ハ相可ノ下畧其地ト射和トノ間

ニ川アリテ四方ノ水相落ル故ニ地名トス牟山トハ此下ニ守山神社アルニ據テ考ルニもるノ切ニテモル山神ト云義ナリ日本紀第一卷ニ五ノ山祇ノ名ヲ載テ軻遇突智ノ頭ハ大山祇身ノ中ハ中山祇手ハ麓山祇腰ハ正鹿山祇足ハ鷓^{シキ}山神ト成レリト云ヘハ此二座ハ大山祇中山祇ナリ次ノ林神社ハ麓山祇ナリ又相鹿上神社ハ鷓山祇ナリ鷓ハ假字ニテシハ水ノ義^シハかみ^シノ切^シノ濁^シ零^シ日本紀儀輪上ノ磯城トナリシ例ノコトシ水ノ上ハ山下ノ下ナル故ニ足ノ化スル處ト云相鹿ハ相可ニテ水ナレハ相鹿上ハ即シギ也又守山神社ハ正鹿山祇ナリ正鹿ハ眞坂ノ假字其守山ノ神社ハ今佐奈ノ神坂ノ社是ナリ眞坂ノ義合ヘリ此牟山神社モ今猶相可村ニ在テ山ノ神ト稱ス今詳ニスルニ延經考證相鹿牟山神社ノ名義ニヨリテ延喜式ニ二座ニ填ルニ從テ中臣天兒屋根命及大香山戸臣神ヲ祀ルトス其牟山ノ名ハ牟ト麻音通ス故ニ中央ノ土位ヲ中臣ノ名ニ合シ同理トノ中臣ノ祖天兒屋根命ヲ奉祀シ大香ニ相鹿猶大山祇命ヲ正鹿山神ト云ニヨリ大山ト正鹿ノ字ヲ摘テ大鹿トス此ニ據テ此二神ヲ祀ル處トス注ナリ正身再考證ニ相鹿ハ其地川流アリ水脉ノ相合フ處故ニ相川トス牟山ハ次條ニ守山神社ニ例ノモル山ノ義ニシト零セルナリ日本書記五山祇ヲ標ノ此二座ハ大山祇中山祇命ヲ祀リ次條ノ林神社ハ麓山祇相鹿上神社ハ鷓山祇守山神社ハ正鹿山祇ヲ奉祀スル處ナリトイフ解ナリ考ルニ牟山神社方俗山ノ神ト稱ス處ニノ上世ヨリモ傳習スル處ナルヘシ然レハ前證ニ上爲中

央與中臣同理ニシテ天兒屋根命ヲ祀ルト云ヒ其徵ナシ大山正鹿ノ二字ヲ摘テ大香ハ相可ニ合シ大香山戸臣命ヲ合祀ルト云フ各牽強ナリ從ヒカタシ古事紀正鹿山津見神ニ作ル日本書記正勝山祇ニツクル然レハ正鹿ノミニ非ス若ハ正勝ト云キハ相鹿ニ遇シガタシ其杜撰知ヘシ正身再考證ニ所載各是ナリ從フヘシ然レトモ相鹿上神社祭神ハ別ニ論アリ其條ニ載ス牟山神社式社案内記ニ祭神中臣大鹿島命大香山戸臣命二座トス稍ク考證ニ從ヒテ中臣ノ上祖大鹿島命ヲ合ノ二座ニ填ツ其徵ナシ古屋草紙及勢陽俚諺ハ大山祇命ヲ祀レリトスコレ方俗ボウ山ノ神ト稱スルニ倣フトイヘ正鹿ニアラス勢陽雜記ニ牟山神社ハ相可山ノ神ナリトイフニ從ヘルノミナリ本社ハ後世其地ヲ遺亡セシニ俗稱ボウ山ト云ニ據テ牟音牟ナルヲ以テ轉ノムヤマト前ニ稱セシナルヘキヲ識リテ享保中ニ此地ニ定祀スル處ト必セルナリ猶再考證ニ據テ大山祇中山祇命ヲ祀ル處ニ從フヘシ

磯部寺 同處ニアリ 此寺ノ門前林中ニ小祠アリ方俗磯宮或式内伊蘇上神社トス各非ナリ其故ハ倭姬世紀云活目入彦五十狹第天皇廿五年丙辰春三月從飯野高宮遷幸伊蘇宮令坐又神名秘書云垂仁天皇廿五年丙辰三月自伊勢百船度會玉授伊蘇國爾入座即建神服織社令織大神之御服麻績機殿神服社是也上ノ二說ニ據テ飯野高宮ヨリ伊蘇宮ニ次第シテ遷幸ノ地ナリ神名秘書ニ伊蘇宮ハ神服社是也ノ文ニヨレハ本郡大垣内村服部麻刀方神社ノ地即神服機殿ニノ

伊蘇宮ノ跡ト稱ヘキナリ然ルニ神名秘書裏書云伊蘇國伊蘇宮在多氣郡逢鹿村字ハ古宮本一
 此ニ據テ方俗此處ヲ伊蘇宮ノ舊址トノ享保十五年磯部村ノ住侶及村民等ト胥議ノ神祠ヲ嚴
 重ニ經營シ二宮ト同ク千木鯉木ヲ掲テ磯宮ト誇リ稱セリ故ニ後ニ至リ伊蘇宮ノ址ハ即伊蘇
 上神社ヲ所置ト定メテ式社ノ列ニ入レリ猶磯部寺ノ號アルモ此ニヨレリト謂フヘシ近世寬
 政中ニ村民某其舊墟ノ遺亡センコト患ヘテ伊蘇宮舊址ノ碑碣ヲ建タリ其真ナラサルカ故ニ
 神宮ヨリ禁止セラレ瘞埋シケルトナリ此ヲ以テ其妄ナルヲ知ヘシ是神宮ノ盛舉賞スルニ足
 レリ既ニ神名帳考證ニ神名秘書裏書ヲ引テ云伊蘇宮在多氣郡逢鹿村字古宮本上相可村磯部
 寺ノ前森中ノ社ヲ云磯宮即伊蘇上神社ヲ配セリ是前人ノ非ニノ後人其非ヲ傳習スル處ナリ
 此ニ據テ考ルニ神名秘書流布ノ本ニ裏書ノ存スアリ無クアリ執レ後人ノ加毫スル處ニノ俗
 言ヲ擧テ書スルモ知リカマシ倭姬命世紀ノ裏書ト同ク取舍アリ然モ古典ニアラス徵トシカ
 マキナリ其舊典ニヨレハ倭姬世紀云從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令坐支于時大若子命爾問給久
 汝國名者何白久答曰百船度會國玉掇伊蘇國止白久御鹽濱並林乎奉支此宮爾坐氏此宮爾坐氏
 供進後水在所御井支ト其次ノ文ニ填レハ度會伊蘇國及御鹽濱御井等此地ニアルコトナシイヅ
 ン海瀨ノ地ニ此ニ牽強スルニ合ハス猶神名秘書神服社也トイフニ違ヘリ此文ニ據テ今ノ
 大垣内ノ神服機殿ヲ伊蘇宮ノ舊址ト云ハンモ非ナリイヅレ神服社ハ其時ノ伊蘇宮ニノ大神

織表ノ神殿ナリ細註ニ從此處始在号伊蘇宮ト云ハ前ノ度會ノ玉掇伊蘇國爾入座ノトキノ神
 服殿ヲ始テ伊蘇宮ト稱スル也此ニ始テ稱スルト云キハ度會伊蘇宮ヨリ興リテ此相可ノ地ニ
 伊蘇宮ノ名アルヘキナシ其本文ヲ排斥ノ稍シ後人ノ増加スル處ノ裏書ヲ是トスルハ東家ノ
 婦ノ擧テ倣フニ同シ論スルニ不足僻說ナルハ明ナリ或ハ方俗此寺ヲ指ノ彼伊蘇宮ノ舊址ト
 稱ノ神宮寺ノ如ク惟フハ大ニ非也猶根倉村ノ根倉神社ノ次條伊蘇上神社ノ條ニ詳セリ併稽
 フヘシ 伊蘇宮ノ名ヲ冒ノ村民造立ス宮域ハ相可上ノ宮入口鳥居中間ニ拜殿正面正殿又正
 面外宮建ノ宮左右凡ニ同作ノ社二區中間ニ鳥居左ニ磯部寺正面内宮建ノ社左ニ寶殿右ニ外
 宮建小社二區各並座ス

西山 四疋田ヨリ南ニアリ 正稅三百四十四石紀州田丸領ナリ

矢田 田中ノ北ニアリ 正稅二百六十四石紀州田丸領ナリ

笠木 矢田ノ良位ニアリ下田邊ヨリ南一里十丁正稅六百九十四石紀州田丸領ナリ 屬邑森出

アリ 神鳳抄云笠服庄内宮一石異本五斗九十二月又笠服御房外宮前野御園一斗大歲御園笠
 服外宮神領目錄笠服御園一斗 倭姬命世紀曰活目入彦五十狹第天皇廿五年丙辰春三月三日
 從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令坐中倭姬命詔曰久南山未見給江波吉宮所可在見申止詔御宮
 所乎寬爾大若子命乎遣給支倭姬命者天照大神乎奉崇載小船爾乘給氏御船雜々神財並忌楯梓

等乎留置氏

從小河幸行

支中畧

從其所幸行川盡

支其河水寒有

支則寒河

止号

支其處御船乎留給

氏則其所仁

御船神社

乎定給

支從其所幸行

支須時神笠

乎服給

支其所乎

加佐伎

ニスルニ飯野高宮

ヨリ南ニ遷幸

ノ伊蘇宮

ニ坐シ又小川

ヨリ南ニ遷幸

シ湯田川ヲ遡リテ田丸

狹田及田邊

ヨリ笠木ニイタリ

玉ヲ順途ナリ

笠木ノ舊名笠服

トス今轉

ノ笠木ニ作レリ

勢舊蹟聞書

曰神笠服玉

フハ此處ニ雨ニ遇玉

フヲ云村中ニ倭姬命

ノ小祠今尙

アリ村老傳云古

昔早魃アレハ

此祠ニ零ス心應

アリト中世以來

ノ人多知サル處ナリ

今考ルニ雨ニ遇テ

御笠

ヲ服玉フト云言ニ據テ

零ヲ祈ル也

土羽

笠木ノ八町巽位

ニアリ田丸府

ヨリ西位一里半

正稅九百七十四石

紀州田丸領ナリ方俗

笠木ノ土羽

ト稱ス志摩州鳥羽

同名ナルヲ以テ

笠木ヲ冠ノ稱スナリ

舊時ニ止羽

ト填タルナル

ヘシ

式内大神乃御船神社

同邑ニアリ東ノハシ

森中産神社ト同域

ニ坐ス右方向

産神左方向

御

舟社アリ

祭神皇大神御船神

度會延經神名帳

考證云大神乃御船神社

鳥石楠船神世紀云寒

河御船留給

氏其處ニ御船神社

定給

支古事紀云鳥之石楠船神

亦名謂天鳥船地名

止羽止鳥也在

有爾鄉止羽村

度會正身神名帳

再考證云世紀ニ其河之寒有

支則寒河

止号其處御舟留給

天其

處爾御舟神社

定給

支トアリテ御經行ノ地

ナリ社ノ所在有爾鄉

土羽村度會多氣兩郡

ノ交ト神

名秘書ニアリ今鳥羽

トイクニ據テ鳥石楠船

ノ神ヲ祀ルト云ハ巧

ニ過タル說ナリ唯舟

ノ止塲

ナルヘシ舟ノ靈ヲ祀

ルナルヘシ今此邊小川

アリ上古ノ寒河ナリ

今里人笠木ノ鳥羽

ト云此社

ノ邊ニ鳥羽茶屋

トテアルハ相可射和

ノ路ナリ當ニ二社

アルコト延賢神主攝

社參詣記ニ記セ

リ此ニ零ス

今許ニスルニ延經考證

ニ大神乃御船神社

ノ名義ニ據テ倭姬命

世紀ニ大神乃御

船神社ノ名義

ニ據テ倭姬命世紀ニ大神

遷幸ノトキ寒河ニ御船

留リ給ヒテ其處ニ御船

神社定

給フト云文ニヨレハ

古事記ニ鳥ノ石楠船神

ハ亦天鳥船ト名ク此

ニ祭神ハ此御船ノ縁

ニ據テ

祭ルト云義ヲ含メリ

故ニ鳥ノ石楠及天鳥船

ノ神名ニ據テ其地

ヲ止羽ト名ク止ハ鳥

ノ謂ナリ

ト云解ナリ正身再考證

ハ倭姬命世紀ヲ引徵

スルハ前考證ノ如シ

神名秘書ニ土羽村

ハ度會多

氣二郡ノ交ニアリ

ト云鳥羽ト云ニ鳥石楠船

神ヲ配合スルハ巧說

ニシテ土羽ノ名ハ御舟

ノ止

リ塲ノ畧ナルヘシ

故ニ舟ノ靈ヲ祀ルト云

佳ナリ此社傍ニ鳥羽

茶屋アリ當處ニ二社

アリ攝社

參詣記ニ記セリト釋

セリ愚按ニ倭姬世紀云

從其所幸行川盡

支其河水寒有

支則寒河

止号支其

處御船乎留給

氏即其所爾

御船神社

乎定給

支皇大神遷幸ノ順路

ヲ詳ニスルニ垂仁天皇

廿五年

三月飯野高宮

ヨリ度會伊蘇宮

ニ坐ノ南山ニ宮處

ヲ覓ントテ度會郡小村

河ヨリ狹田及田邊

多

氣郡寒河ノ地

ヲ歷テ御舟ヲ停

ム處ニ此神社ヲ奉祀

ス處ナリ後號伊蘇宮

ヨリ小河ニ船ヲ浮

テ

水源ヲ探リ湯田川

ヲ遡リ田丸ノ地

田及田邊

ヨリ此河流ヲ涉

リ盡シ此處ヨリ

笠木ニ到ルノ順

五十一

五十一

次ナリ考證ニ古事紀ヲ引テ鳥石楠船神及一名天鳥船ト記スルヲ此ニ徴ノ其祭神トス鳥石楠
 鳥船ニ據テ止羽ト名起レリト云ハ各牽強ニ非ナリ鳥石楠船ハ皇大神所乘ノモノニアラス
 大神乃御船神社ト名ク何ノ石楠船ヲ假スノ足レリ猶土羽ト書ス止羽ニ非ス再考證ニ此ヲ斥
 ノ止羽ハ御舟ノ止リ場ナルヘシト云鳥石楠船神ヲ祀ルト云ヲ排スルハ是ナリ止場ト填ルハ
 臆斷ナリトイヘトモ然ナルヘシ神名秘書云御船社大神乃御船神也前社在宇爾郷土羽村神祇
 本源御船社一座大神御船神在宇爾郷土羽村度會多氣兩郡交也此ニ據レハ土羽ハ舊名ナリ既
 ニ神名秘書ハ度會神主行忠著ス處正和五年度會家行淨書ニ正保四年度會延良後ニ延佳ニ
 作ル校合ノ本アリ既ニ正和中ヨリ土羽ノ字ヲ填ル處ニ其來ル久シ考證ニ止羽ニ作ルハ牽
 強猶度會多氣兩郡ノ交也トイフハ舊本ニナル後人ノ加フルトコロナリ其故ハ延喜式ニ度會
 ニ隸セリ今多氣ニ屬ス此ヲ以テ強テ度會ニ屬セントスルトコロニシテ書スナルヘシ今古群
 ノ差ヒニシテ混駁スル處トイフヘシ儀式帳ニ祭神大神御蔭河神トノスルハ非ニシテ傳寫ノ
 誤リナリ御船神ニ從フヘシ内宮儀式帳ニ云御船神社一處稱大神乃御蔭川神形無倭姬内親王
 代定祝正殿一字長七尺弘五尺高八尺玉垣一重方各二丈坐地二町東南ハ公田西ハ百姓家北ハ
 御刀代田右ノ社隨破壊之時國郡司以正稅稻修造如件以前祝部等大神宮司ト食住之移送伊勢
 國司云云當地ニ二社アリ度會延賢攝社參詣記ニ載ストイフハ次條ノ牟彌神社ニ其號ニ詳

ニセリ御船神社牟彌神社ノ外ニ村中ニ一小祠アリ方俗倭姬命ヲ祀ルト云猶伊勢國舊蹟聞書
 云大神御笠服玉フハ此處ニ雨ニ遇玉フヲ云今尙村中ニ倭姬命小祠アリ村老言フ古昔ハ旱魃
 アレハ此祠ニ雩ス必ス驗アリ中世以來ノ人不知トコロナリト云フ憶フニ方俗ノ弊習ニシテ
 其倭姬命ヲ奉祀スト云ハ俗傳ナリ 土羽茶屋ハ東池上ヨリ上田邊ニイタル中間ニアリ旅賃
 茶圃一字アリ本邑土羽ヨリノ出ル處ニシテ爾名ク田丸ヨリ相可ニイタル街道ナリ御船神社
 ノ邊ニアラス本邑ニ二十町餘ヲ隔テリ猶寒河ノ號ハ次條ニ詳カニス式社案内記ニ祭神鳥石
 楠船神此考證ニ從カヘリ非トスヘシ

式外牟彌乃神社 土羽御船神社ヨリ四丁北ニアリ 祭神大水上兒寒河比賣命 内宮延曆儀式帳云大水上兒寒河比女命形無右神社倭比賣乃御時爾 祝并御刀代田宛奉宮也 云号田社 氏爲供奉宮祝 倭姬命世紀云從其處幸行河盡 支 其河之水寒有 支 則寒河 止号 支 其處御船 乎留給 氏即其所仁 御船神社定給 支 伊勢舊蹟聞書云今田丸城ノ南ノ邊ヨリ土羽村ニ傍ヒテ小流アリ俗ニ佐宇胡ト云方處モ好ク稱ヒタルハ寒ノ河ノ誤ニテ是ナルヘシ鎮座本縁ニハ寒河ヲ佐宇賀宇トイヘリ今又小侯町ノ西ニ新田ト云處トノ堺ニ土橋アリ俗ニソウガウノ橋ト云此橋ノ流ノ土ヲ尋レハ即土羽村ノ南ノ佐宇胡ナリ此佐宇胡實ニ此ニ出タル寒河ナレハ此小侯村ノ橋モ寒河ノ橋ナルヘシ 今詳ニスルニ此寒河ノ水源ハ本郡油夫村山中ヨリ流出テ森ノ庄土羽ノ南ヲ經テ度會郡田邊及田丸城南ヲ流レ中樂妙法寺村ニ注キ湯田ニイタル此ニ湯田川ト稱ス湯田ヨリ南ニ流テ離宮院舊址ノ北ヲ經テ小侯村ニイタリ街道ヲ通ノ此ニテ橋ヲ架ス是寒河橋ニシテサウガウ橋トイフ此處ヨリ東ニ流レテ野依村ノ南ヲ經儀村ノ北ニ注キ小川村ニイタリ涉舟アリ小河ノ涉ト稱ス此ヨリ東ニ至リ有瀬村ノ東ヨリ東海ニ入ル是倭姬命世紀ニ小河宇久留ノ地ヨリ遷幸ノ次第ニノ前ニ云河ヲ盡シ支ト所載ハ此土羽ニイタリ河流盡マ

ルニ似タリ今古ノ差異ニノ今檢スルニ笠木ヨリ油夫ニイタリテ水源ヲ究ムヘシ此處ニノ前條御船神社ヲ定祀リ又内宮儀式帳ニヨレハ遷幸ノ時此牟彌神社モ定祀セルニ至レリ世紀ニ御船社ノミアリテ此文ナシ祭神寒河比女命ハ此地ノ神ニシテ其地名ヲ帶タルナリ攝社案内記ニ寒河比古命寒河比賣命二座トス然レモ内宮攝社二十四座ノ内ニ非ス今儀式帳ニ從ヒテ寒河比賣命一座トスヘシ儀式帳十五處名社ノ内ナリ前ニ延賢攝社參詣記ニ此處ニ二社アリト云ハ御舟神社ト此神社ノ義ナリ猶寒河ノ所據ハ後號度會郡小川及小侯條ニ併稱ヘシ荒蒔 相可ヨリ八町東ニアリ 正稅三百四十四石紀州田丸領ナリ雜記荒收ト記セリ今荒蒔ト錄ス 神鳳抄云外宮荒蒔御園一本志ニ作ル非ナリ

五佐奈 荒蒔ヨリ十五町巽位ニアリ 正稅七百三十四石紀州田丸領ナリ

西池上^{イナク} 荒蒔ヨリ十町巽位ニアリ 正稅七百三十八石紀州田丸領ナリ 神鳳抄云池上御園又云槻本御園傍注云池上外宮神領目錄云池上御園一石五斗内六九十二月度々進之 大沼本邑ト東池上ノ間北ニアリ水田ノ用ニ設ク本州二三ノ大池ナリ此池沼ニ據テ村号ニ稱セリ東池上 西池上ノ九丁東ニアリ上田邊ヘ西一里十三丁 正稅六百二十一石紀州田丸領也 兄國 荒蒔ノ東十三丁ニアリ 正稅六百四十一石紀州田丸領也 屬邑陰陽アリ 雜記所載明曆及諸圖本ニ無シ一色雜記所載諸圖ニナシ 舊名伊呂上ナリ式内伊呂上神社坐ス 伊呂衣

ハ兄ノ舊訓今ノ弟國伊呂止ハ弟ノ舊訓ニノ兄弟ノ村邑ナリ然ルヲ後世國ノ字ヲ加ヘテ其二
 字ニ填ルナリ國ハ倭姫命世紀所謂味酒鈴鹿國草蔭阿野國百張蘇我國千々五百枝刻竹田國等
 ノ如ク其郡縣村邑ヲ上古ニ國ト稱スルニ同シ即和名抄兄國ヲ魁トス處アリ 神風抄云内宮
 伊呂上御園九斗六九十二月飯野ニ隸セリ或云朝東御園二斗九月徵古錄ニ東長ノ訛ナリト云
 式内伊呂上神社 同處ニアリ産神ト稱ス祭神未詳 山添神山神社ヨリ東三丁
 朝長 兄國ヨリ六町東ニアリ 正税 紀州田丸領ナリ 屬邑下朝長本邑ノ東ニ川ヲ隔テアリ
 神風抄云朝長御園二斗九月 一本長東ニ作ル傳寫ノ誤ナリ
 弟國 朝長ノ東ニアリ 正税三百十石紀州田丸領ナリ
 河田 弟國ノ五町東ニアリ正税八百五十一石紀州田丸領ナリ 移多本邑ノ東ニアリ 神風抄
 云内宮河田御園六斗
 平忠盛墳墓 同處ニアリ往昔黃銅ノ錐子ヲ此地ヨリ鑿出ス其餘石窟處々ニアリ又磁器等ヲ往
 々鑿出セリ 今稽ルニ桓武天皇十代後胤出羽守平正衡其子安濃津三郎平貞衡ヨリ平正盛及
 其男平忠盛ニ至リ本州所住ノ歷代ハ伊勢伊賀ノ二州ニ跋扈ノ事蹟アリ既ニ安濃郡產品忠盛
 胞衣塚ノ條ニ載ス 背書國誌云攝津國兵庫浦經干嶋平相國清盛公碑曰清盛者勢州河田産也
 ト記セリ讚岐守平正盛此處ニ住ンテ當國ノ司タリシト此里ニ住玉ヒケルトモイヘリ又忠盛

モ此處ニテ清盛ヲ誕生アリシナリ 此餘平家物語第一及大系圖ニミヘタリ 今詮スルニ平

氏ノ本州ニ受領ハ正盛忠盛ハ更ナリ然レハ其生卒ノ地本州ニ所在ハ他ノ指ヲ容ルニ及ハス
 源平盛衰記云忠盛近衛院御宇仁平三年癸酉正月十五日行年五十八ニテ卒シケリ此地ハソノ
 時ノ壘埋ノ古墳ナルヘシ然レトモ國誌所謂清盛ノコノ地ニ生誕及攝州兵庫經島ノ碑文ヲ引
 據ストイヘ平家物語等ニ據レハ忠盛ノ實子ニ非ス孰ソ本邑ニ生誕スルヲ得ン妄ナリ猶
 攝津州ノ田部郡兵庫浦眞光寺ノ城南ニ十三層高二丈六尺跌石五尺一寸ノ石塔婆アリ勒曰西
 勝園寺平貞時弘安九年二月日立之云云其餘文字見ルヲ得ス今詳ニスルニ鎌倉北條七代最
 勝園寺平貞時造立スル處ナリ故ニ弘安ノ年月ヲ銘セリ國誌所謂ハソノ眞ヲ檢セスシテ暗ニ
 臆斷スルトコロニ何ソ荒唐ノ言ヲ設テ後人ヲ惑スニイタレリ 古屋草紙云忠盛屋敷跡ア
 リ伊勢國司職ニ任セラルトキノ住居ノ址ナリ云

岩内 河田ヨリ十町良位ニアリ 正税百九石紀州田丸領ナリ 岩内ノ名義ハ飯高ニ所謂ノ岩
 内ト異ナリ

上村 岩内ノ三町良位ニアリ 正税千百六十一石紀州田丸領ナリ田領勝ニ加納遠江守領トス
 今古ノ差ナルヘシ

池村 上村ヨリ八町異位ニアリ 正税千九十五石紀州田丸領ナリ 屬邑西村 本邑ノ西ニア
 五十七

リ舊名池田ト稱スナルヘシ 神風抄云内宮池田御厨一斗五升十二月

金剛ヶ坂 池邑ノ良位十八丁ニアリ官道ニ民居ス岩内ヨリ東十三丁 正税三百五十二石紀州

田丸領大神宮領入組ナリ 屬邑竹川本邑ノ異位官道ニアリ 平尾本邑ノ西ニアリ 文祿三

年豊臣氏檢地ノ時竹川大神宮領四百石免除ナリ祭主官司二宮禰宜知行スルトコロナリ

式内竹ノ神社 竹川村ニアリ里俗八王子ト稱ス祭神大彦神

坂本 金剛坂ノ六町良位ニアリ 正税五百四十二石志州鳥羽領ナリ 神風抄云内宮坂本御園

三石八斗五升八合

馬上 坂本ヨリ十三町二十七間良位ニアリ 正税五百四十二石志州鳥羽領ナリ 屬邑東村

算所等アリ

中海 馬上ヨリ六町十六間北ニアリ 正税百五十三石志州鳥羽領ナリ 神風抄云中麻績御

園三斗十二月

式内仲神社 同處ニアリ方俗生土神トス 祭神豊城入彦命

佐田 馬上ヨリ六町四十五間良位ニアリ 正税千三百七十二石志州鳥羽領ナリ 屬邑 深田

本邑ノ西ニアリ 小藪本邑ノ南ニアリ神風抄云佐田御園七斗及深田御園 外宮神領目錄云

深田御園五斗

前野 佐田ノ北ニアリ 正税六百四十三石津領ナリ

腹太 前野ノ乾位ニアリ 正税二百五十四石津領ナリ 腹太ノ名義ハ宇留布都ノ轉訛ナリヲ

ノ字ルト通音ツノ字トノ通音ニシテ神社ノ名ニ據テ舊名宇留布都ナルヲ腹太ト後世ニ轉ス

ナリ本邑ハ飯野及本郡ノ界ニアリ二郡ニ隸レリ 神風抄云内宮腹太御園

式内宇留布都神社 同處ニアリ方俗生土神ト稱ス祭神填安神

志貴 腹太ノ良位ニアリ 正税五百六十石津領ナリ舊名佐岐ナルヘシ後世轉訛ナリ志佐通音

佐岐ノ栗柄神社ノ名ニ據テ其徵ヲ得タリ志貴ハ大倭州ノ山ノ名ニ同シ

式内佐岐栗柄神社二座 同處ニアリ方俗生土神ト稱ス 祭神饒速日命宇麻志麻治命腹太村宇

留布都神社ヨリ北ヲ去テ五丁

田屋 志貴ノ東ニアリ 正税二百三十三石津領ナリ

養田 田屋ノ東ニアリ 正税二百五十八石津領ナリ 屬邑 丹川 本邑ノ異位ニアリ雜記所

載養田丹川ヲ内座ノ屬邑トス 神風抄云外宮丹河御園四石四斗五升此外神田二丁外宮神領

目錄云丹河御厨四石六九十二月一石宛

式内大分神社 同處ニアリ方俗十二社權現ト稱ス 祭神未詳

内座 養田ノ良位ニアリ 正税二百三十一石津領ナリ

中村 内座ノ乾位ニアリ 正税六百七十九石津領ナリ

大垣内 中村ノ西ニアリ 正税二百八十八石津領ナリ 舊名腹村ナリ

式内服部麻刀方神社二座 魚見社ヨリ東へ八丁 同處ニアリ 方俗神服機殿或ハ下館ト稱ス

麻績機殿ヨリ十九町ヲ隔テリ田圃ノ間ニ林丘アリ 鳥居正面本社左ニ八幡右傍ニ春日社

同瑞籬ノ内ニアリ左傍ニ小祠雅産靈笛ノ宮二字アリ右傍ニ小祠石神寅社奏社田宮四字アリ

本社右傍ニ鳥居ニ神服機殿其後ニ齋館ヲ建 今檢スルニ社域四丁四方左右ノ二殿ヲ方俗東

寶殿西寶殿ト稱ス春日八幡ヲ祠レリ瑞籬ヨリ右ニ二間長八間ノ機殿及拜殿アリ鳥居ノ前ニ

檀木二岐ニ分ツ老樹アリ神木ト稱ス舊記ニ境内東西六十六丈南北七十八丈ト社域ヲ載タリ

祭神天棚機命皇大神御靈二座機殿儀式帳云此機殿昔纏向珠城朝廷倭命皇女傳奉大神齋奉

飯野之高宮于時機殿立長田郷是處立社号麻績社亦名河崎社是大神御靈也 中畧 然後飛鳥淨

清原朝廷大來内親王齋奉大神此時始而立此機殿更發供奉大神御衣于時更立此機殿天智天皇

即位七年八月三日夜依而殿燒亡使處造假殿九月御衣勤仕依宣旨也其後兩機殿別々立之相去

各三十丈 神宮雜例集曰神服機殿在飯野郡流田郷服村麻績機殿在同郡井手郷右兩機殿皇大

神宮御鎮座之當初建立而麻績機殿承曆三年被宣旨移造之 延喜式大神神衣祭條云四月九月

神衣祭大神宮和妙衣二十四匹荒妙衣八十四匹荒祭宮和妙衣十三匹荒妙衣四十四匹和妙衣者服部

氏荒妙衣麻績氏各自潔齋始從祭月一日織造至十四日供祭 神名秘書云舊記云神衣者皇大神

宮御座高天原之昔人面等遠祖天八千々姬殖桑葉於天香山以取蠶之御糸織供進御衣於大神御

垂跡之刻彼神達奉載而具御機具天降御座之以降人面職掌等爲其末葉以女子者号織子以男子

者稱人面職掌不違天宮之例以四九兩月十四日所謂進之御衣也 今詳ニスルニ倭姬命世紀與

書曰垂仁天皇廿五年丙辰春三月十六日伊勢國度會國玉掇伊蘇宮 爾 入座即建神服部社令織大

神ノ御服麻績機殿ノ神服織社是也又曰神服機殿倭姬命入座飯野高丘宮 爾 作之機屋令織大神

之御服從高宮而入座磯宮因立神社於其地曰名服織社又曰同二十六年冬十月天照太神草薙劍

度會五十鈴河上鎮座同與齋宮于宇治縣五十鈴河上大宮邊令倭姬命住居即位八尋機殿令織大

神御衣号宇治機殿是也又曰磐余饗栗宮御宇丙午ノ年竹連磯部通二氏建此郡焉以上ノ說世紀

ノ本文ニ非ス或異說ヲ舉テ附翼ス處ナリ既ニ飯野高宮ニ遷座ノ時神服機殿ノ名アリ即飯野

多氣同郡ニ延喜式内神社ニ混スルカ如ク今ノ服部麻刀方ノ地ニ所建ナルヘシ又伊蘇宮ニ

入リテ遷座ノキ立神社立於其地ノ章ニ據レハ伊蘇ノ地ニ似タリ然レモ其遺址今詳ナラス嘗

テ神社ヲ其舊地ニ建テ大神ノミ伊蘇宮ニ遷座モイヘリ其後五十鈴川上今ノ内宮ニ鎮座ノト

キハ内宮ニ遷シ建ラル故ニ清寧天皇三年本服織社ニ遷スト謂クハ内宮ヨリ今ノ地ニ遷サレ

タルナリ然レモ孝徳天皇二年竹連磯部直ス二氏此郡ニ建トイフトキハ此トキニ今ノ大垣内

ニ所達ニ似タリ然レハ清寧朝ハ内宮ヨリ始ノ伊蘇宮ノ地ニ遷シ又後ニ今ノ地ニ遷スニ似レハ其伊蘇ノ地舊址ヲ遺失スルニヨレリ機殿儀式帳ニ檢スルニ飯野高宮ニ齋奉ル時機殿ヲ長田郷ニ建麻績社或河崎社トイフニ據レハ既ニ此時今ノ地ニ建タルニ必セリ麻績社ト云ハ今ノ如ク麻績神服ノ二殿ヲ分別セスノ併セテ麻績社或神服殿ト稱セルナリ後ニ天智天皇即位七年八月兩殿燒亡ニ因テ別々立之相去各三十丈ノ章句ニヨレハソノ二殿ヲ分テ置シナリ然レモ各三十丈ヲ相去トイハ又今ノ麻績神社井口村ノ地ニハ非ス服部社ノ域外ニ稍ク相當レリ然レハ麻績神社ニ今ノ如ク十九町ヲ隔タルハ何ノ時遷セシヤ其典據ヲ未見神名秘書神宮雜例集ニ據テ流田郷服村ニ在トイフキハ服部麻刀方其清寧孝德ノ朝ニ孰レ此地ニ所建ニ其舊地タルコト明ナリ猶本殿ノ地トノ麻績神社ハ其次ニ亞リ孝德帝朝ヨリノ舊地ト罵ルニ堪タリ今ノ上館下館ト下館ト稱スハ遺憾ナリ然レモ麻績神社ハ以西ニアリ路ノ土ナリ本社ハ下路ニアリ故ニ稱スナルヘシ況ヤ和妙ヲ織ルノ地荒妙ニ次クノ理ナシ御糸ノ郷名コトニ起レリ 度會延經神名帳考證云服部麻刀方神社二座櫛稻田姬神天棚機姬神類聚大補任云神服機殿鎮守四ノ宮寅宮按麻刀方者寅宮出雲風土記云久志伊奈多美上子麻奴良比賣命美實也麻奴良圓也稻爲陰武藏國虎拍神社能登國椎葉國比咩神社推當作檀配此神賀志波賣鹿葦津姬之轉語方者與機言通ス四ノ宮ハ棚機姬神四與利音通織之畧語也蓋爲陽世紀云日本建尊比々

羅木ノ八尋鉾根奉獻即倭姬皇女貴財 止爲天 八尋機殿圓方機殿是也隱狀 天 皇大神御靈奉崇度會正身神名帳再考證云服部麻刀方神社二座俗下館ト云大垣外村ニアリ服部ハ上ニ住スル如ク機織ニテ氏ナリ麻刀方ハ圓形ノ假字ニテ方ハ紋ヲ云允恭記ニ佐羅羅餓多爾之枳能辟毛ト云哥ノ辭ハ月形ノ錦ノ紐ナリ月ノ異名ヲサ、ラエオトコト云ヘリ月形ヲサ、ラガタノ錦ト云又神中抄ニ月面ノ小車ハ小車ノ錦ナリトアリテ圓形ノコナリ古ハ服部氏此機殿ニテ此錦ヲ織レハナルヘシ祀ル處天棚機姬命ト皇大神ノ御靈二座ナリ世紀ニ日本建尊比々羅木ノ錦根乎 奉獻即倭姬皇女貴財 止爲天 八尋機殿圓方ノ機殿是也隱狀 天 皇大神御靈ト奉崇云 今詳ニスルニ延經考證ニ服部麻刀方神社二座ニ據テ類聚大補任ニ所載神服機殿ノ鎮守四ノ宮寅宮ト云ハ出雲風樂記ヲ引徵シテ久志伊奈太美土與麻奴良比賣命ノ美ハ實ナリ麻奴良ハ圓ナリ伊奈太ハ稻田ニノ稻ハ陰ニ屬ス故ニ即稻田比賣命其寅宮ト稱スルハ武藏國虎拍神社ノ名ニ應シ拍ハ能登國椎葉圓比咩神社椎ハ檀ノ誤ニノ即加志比賣ニ配ス鹿葦津姬ノ轉語ニノ陰神ナリ方トイフハ機ト言通ス即天棚機姬神ニ配セリ四ノ宮ト稱スルハ四ハ利ト横音通スルニ據テ織ヲ畧ナリ蓋ハ陽ニ屬ス此ニ據テ櫛稻田姬神天棚機姬神二座ヲ祀ル處ナリ猶麻刀方ハ倭姬命世紀ニ日本建尊比々良木ノ八尋ノ鉾根ヲ皇大神ニ奉獻シ倭姬命貴財トナシテ八尋ノ機殿ニ收メ奉リ大神ノ御靈ト奉崇ト云文ニ據リ傍注ニ八尋機殿圓方機殿是也ト載ルニ

據テ麻刀方ハ圓方ニ相同シト云註解ナリ正身再考證ニ服部麻刀方神社大垣外村ニ在服部ハ
 機織ノ零麻刀方ハ圓形ニシ月形錦ヲ所織ノ謂ナルヘシ故ニ機殿ノ神ナルニヨリテ天棚機姫
 命ト倭姬命世紀ニ所載ノ圓方機殿ニ所崇ノ大神ノ御靈ト二神ヲ奉祀ノ二座ニ填ル處ナリト
 解セリ前考證ニ類聚大補任及出雲風土記延喜神名帳等ヲ引徵ノ祭神櫛稻田姬神天棚機神二
 座ニ填ト云ヘ凡其註雜駁ノ牽強臆斷ナリ倭姬命世紀圓方機殿ノ傍註ヲ採テ解スルハ是ナリ
 後再考證ニ服部氏月形錦ヲ所織ニシ麻刀方ノ名アリト云ハ誣ヲリ其天棚機姫命及倭姬世紀
 所載八尋機殿ニ比々羅木ノ鉾根ヲ皇大神ノ御靈ト崇ムト云ニ據テ此神社ニ天棚機姫神皇大
 神御靈ヲ併祭ルト云微意ヲ撫テ今此二神ヲ二座ニ填ルヲ眞トスヘシ前考證ハ從ヒカマシ龍
 照近神名帳考正社地未考ト云勢陽雜記拾遺ハ大垣内村ニ在トス式社案内記祭神天之戶旛姫
 命天御杵命二座トス案スルニ此二神麻刀方神社ニ祀ル處ノ引據ナシ猶伊勢名所圖會祭神二
 座伊刀麻神麻刀方神ト云コレ神系ニナシ神社ノ號ニ據テ杜撰スル處ナリ各從ヒカマシ服部
 伊刀麻神社ハ本郡出間村ニ坐ス此ト別ナリ其麻刀方ノ名ハ異說アリ
 万葉集第一舍人娘子從駕作歌
 丈夫之得物矢手插立向射流圓方波見爾清潔之

家集

躬恒

梓弓ゐるまとかたに満つ沙のひるあひがたみよるをころまで

名寄

知家

人しれの音をころなかめまとかたの湊の千鳥浪にわれつゝ

加茂真淵万葉考云神代卷ニ彦火々出見尊ハ山ノ幸オハシテ弓矢モテ鳥獸ヲ得玉ヘハアチ矢
 サチ弓ト云其意ヲ得テサチヤチ最ハヤクノ世ヨリサツヤト云ツラン獵人ヲサツ人ト云薩
 チフ國ノ名モ然リ今本ニ是ヲトモヤト云ハ誤レルフ伊勢風土記ニ麻湏良遠能佐都夜多波佐
 美牟加比多知伊流夜麻度加多波麻乃佐夜氣佐トアルニテ知ヘシ立向ハ的ニ向フ射流田方波
 上ハ序ニサ的形テフ處ニ云カケタリ神名式ニ伊勢國多氣郡服部麻刀方神社アレハ此ノ浦回
 ノ名ナリ彼風土記云的形浦者此浦ノ地形似的故以爲名也今既跡絶成江湖也トイヘリ又紀由
 章伊勢名所和歌拾遺追考云仙覺法師云的形ハ伊勢國ナリ風土記云八雲御抄ニ紀伊國トア
 リ當國風土記ニ載ス況ヤ多氣郡麻刀方神社アリ一説ニ志摩國浦江ノ隈ニ的矢テフ浦里アリ
 若ハ是ニヤ江湖トナリシ處ナレハ儘ニ知リ難キナルヘシ愚案ニ伊勢名所拾遺及勢陽雜記拾
 遺勢陽俚諺等ニ本州ノ名勝トノ先輩其地ヲ詳ニセス稍ク万葉考名所拾遺追考等ニ此麻刀方
 神社ノ名ニ據テ祭徵ス嚮ニ前考證再考證モシカリ然レトモ紀伊國或志摩州及躬恒家集名寄
 知家ノ詠ニヨレハ其地今ノ麻刀方神社ノ地ヲ填ルトイヘトモ海濱ニアラザルヲ以テ稍ク疑

越セリ八雲御抄ニ紀伊志摩ノ有トスルハ万葉集云二年壬寅冬十月大上天皇幸于參河國時
 哥ト載スソノ次ニコノ哥アリ大上皇ハ持統天皇紀州及本州參州等ニ行幸ノ時陪從ノ舍人娘
 子カ所詠ニシテ事蹟ハ日本持統記ニノセタリ然レハ紀伊國ノ名勝ト定メラルナルベシ或ハ
 志广州的矢浦ノ名ハ相似タルトイヘドモ其地懸隔ニシテ大ニ差ヘリ今ノ村名ニシテ臆斷ナ
 リ直淵引據スル伊勢風土記云太々徵スルニ足レリ然レトモ世本和銅風土記尺天長風土記
 ト稱スル本ニ此文ナシ所謂蠶簡殘編ナリトイヘモ其全本ハ更ナリ眞ノ風土記海内ニ遺リ好
 本ヲ襲藏シテ此ニ引據スル處ニヤ其否ヲ不知万葉考ハ近世ノ人傑ノ撰ニノ世ニ公スル處ナ
 レハ僞妄ニアラサルヘシ此ニ據テ惑ヲ生シ躊躇スルニ及テ其地ニイタリテ檢スルニ今田園
 叢林ノ中ニアリ然レモ東海ヲ隔テ稍ク廿町許東黒部村ニ及ヘリ又十町許ニ垣内田ニ限リ
 江川アリ水源ナシ上古ハ東海ヨリ入ル水脈ノ形アリ然ルニ柿木原出間村ニイタリ又小川ア
 リ其南ニ川尻村アリ今江村ノ後ト名クヘキ地ニアラス田野ニアリ各地勢ヲ看ルニ上世ハ東
 海ヨリ潮水ノ入ル江淮ノ涯ナルヘシ既ニ一志郡三渡ノゴトク今古ノ形勢大ニ異ナリ寔ニ夏
 虫ノ疑氷ニ同シカルヘシ千歳ノ朦霧ヲ披テコノ地ニ必セリト憶ヘリ好古者流此ニ至リ游テ
 其眞ヲ究ムヘシ然レトモ麻刀方ノ名ハ前ニ圓方機殿ノ義ヲ用テ神宮ノ舊典ニ據ルトキハ強
 テ海涯ノ的形ニ似タルト云ニアラス強テ万葉集及歌帖ニ據テ稱スルトキハソノ地ヲ檢シテ

知ヘシ其穩當ノ說ニ從ハ、前後ノ二者證ニ倣テ後人ノ鑿說ニノ排スヘキナリ今稍ク圓形機
 殿ノ注ニ從テ其神社ノ號及奉祀スル處ノ神ヲ定ムト謂ヘシ

神守 牛草ノ良位ニアリ 正稅二百二石津領ナリ 屬邑出間ノ東ニアリ雜記ハ本條ニ載タリ
 神守ノ名義ハ流田上神社坐ノ流田郷ノ惣社ナリ故ニ祭神守警ノ意ナルヘシ、神風抄云神
 守御園七斗

式内流田上神社 同處良位一町許ニアリ方俗八王子ト稱ス拾遺大垣内神服殿ノ内宿宮ト稱ス
 ヲ考正ニ從テ稱セリ往昔ハ其地未詳ニ據テ龍熙近モ其地ヲ遺失セシナリ 祭神填安比賣神
 式内服部伊刀麻神社 同處出間良位ニアリ方俗生土神トス 祭神天八千々姬命 土古路村國
 ノ御社ヨリ西去一丁 度會延經神名帳考證云服部伊刀麻神社陸奥國飯豐比賣神社伊刀飯豐
 也麻與賣音通舊事記云大御食都姬神於頭生蠶神名秘書云神服機殿三狐神皇字沙汰文云御氣
 津神機殿坐ス按與麻續神同今在出間村之東社是乎服部機殿之北也 度會正身神名帳再考證
 云服部伊刀麻神社服部機殿ノ北ニ在トイフ今出間邑ノ東ナリ服部ハ機織ヲ切トナリ伊
 刀麻ハ未女ナリメノ用ヌナリ糸女ハ織子ヲ云神名秘書云舊記曰神衣祭者皇大神宮御座高天
 原之昔人面等之遠祖天八千々姬殖桑葉於天香山以所蠶之糸供進御衣於大神云天降御座之
 時以降人面職掌人等爲末葉以女子者号織子以男子者稱人面職掌不違天宮例コレニ據レハ祀

ル處ハ八千々姫命ナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ服部伊刀麻神社ノ名義ハ陸奥州ニ飯豐比賣神社アリ伊刀ハ飯豐ノ零麻ハ賣ト通音ナリ故ニ飯豐比賣ニ同ク舊事紀ヲ引據ノ大御食都神ノ頭ニ蓋テ生神名秘書ニ神服機殿ハ三狐神トノスルニ御氣津三狐ト同轍ニシテ皇字沙汰文ニ御氣津神ハ機殿ニ座ス文句ニ據テ前條麻續神社ニ所祀ノ御氣津神ト同神ナリトイフ今出間村ノ東ニアリテ服部機殿ノ北ニアル故ニ此社ナルヘシト云正身後考證ニハ服部ハ機織ノ伊刀麻ハ糸女ノ訛ニシテ麻賣通音糸女ト云ハ機織ル處ノ婦女ヲ指ナリ神名秘書云以女子者織子ト号シトイフニヨレリ猶皇大神宮高天原ニ御坐ノヒ人面等ノ上祖天八千々姫桑ヲ天香山ニ殖テ所蠶ノ糸ヲ以テ大神ノ御衣ニ供進ト舊記ニノスル處ニ從テ此神社ニ所祀ハ天八千々姫命ナリト決セリ考ルニ前考證ハ麻續神社ニ同ク祭神大御食都比賣命ニ填ノカ爲ニ飯豐比賣及三狐神等ノ例文ヲ徵スト雖モ前條ニ註解ス如ク神名帳神服機殿三狐神及皇字沙汰文御氣津神機殿ニ坐スト云ハ今麻續神社ノ風祠ニアル處ノ三狐神社ニ本殿ハ此神ニアラサルヘシ猶此神社ト二社ニ同神ヲ祭ルヘキ謂ナシ各臆斷ナリ正身後考證ニ神名秘書ニ據テ人面等ノ上祖天八千々姫命ヲ祀ルナリ別ニ異ナシ考證ハ麻續神社ニ混淆ノ其真ヲ得難シ出間邑ノ東ニアル所ナルヘシト云ハ真ナリ伊刀麻ノ名今考ルニ出間伊都麻ト訓ス伊刀麻ノ轉訛ナリ然レハ此地ニ必セリ式社案内記相同シ勢陽雜記拾遺ハ今ノ垣内邑ノ下館ノ機殿トス

非ナリ古屋草紙ハ服部麻刀方神社ヲ下館ニ充リ古屋農父同著ノ書ニノ矛盾スルハ何ノ妄ナリ各祭神大御氣比賣命トスコレ前考證ニ從ヘリ未其真ヲ得ス姑ク後考證ニ倣ヒテ天八千々姫命ヲ奉祀スル處トイフヘシ

垣内田 神守ノ乾位ニアリ 正稅九十五石津領ナリ今垣内ト稱ス雜記所載垣内田トス舊名ナリ 神風抄云壺方御園三斗

式内須麻漏賣神社 同處巽位ニアリ方俗坪形社ト稱ス 祭神天鈿女命 流田上社ヨリ乾位四

丁 度會延經神名帳考證云須麻漏賣神社猿女若上祖天鈿女命高魂命之子也按須麻反切佐也須麻漏猿也在流田郷垣内村東南隅 度會正身神名帳再考證云須麻漏賣神社祀神須麻漏賣命ハ猿女命ナリ須麻ハサヲ延タル言ニテサマノ切サトナルナリ流田郷垣内邑ノ東南ニアリ

今詳ニスルニ延經考證ニ須麻漏賣神社ノ名義ニ據テ須麻ハ反切サナリ須麻漏ハ猿ニ轉ス賣ル女ナリ故ニ猿女若ノ上祖天鈿女命ヲ祀ル處トス即流田郷垣内邑ノ東南ノ隅ニ坐ス神社ナリト云後再考モ此ニ從テ異論ナシ憶フニ前後考證モニ須麻漏賣ハ猿女ノ轉ニシテ其遠祖天鈿女命ヲ奉祀スルニ據リ式社案内記祭神此ニ從ヘリ即内社地モ流田郷垣其村ニアリト云今閱スルニ垣内ナシ多氣郡大垣内邑アリ然レモ其社地ヲ指ヘキナシ多氣郡地其田村後世零ノ垣内ト云式社案内記ニ垣内田村ノ巽位ニアリ坪形ノ社ト稱スト云ニ據テ其地ヲ詳スルニ本邑

ヨリ巽位ニ方十五間ノ鬱林アリ小祠アリ上世ヨリ由緒アリテ邑民ニ彦右衛門某者此ヲ掌レ
リト云方俗坪形社ト稱スル神風抄所載壺方ノ御園ノ地ナルカ故ナリ勢陽雜記拾遺ニ垣内村
ニアリト云古屋双紙ニ大垣内ニアリトスコレ伊刀麻神社ヲ混スルニ似タリ猶同著ニノ兩端
ノ妄説ナリ勢陽俚諺ハ本郡佐奈ノ内仁田村ニ在ト云荒唐ナリ各從ヒカカシ祭神及社域各前
後ニ考證ニ從ガヒテ此ニ標出ス

東黒部 垣内田ノ乾位ニアリ飯野郡西黒部ニ對シ名ク 正税五百六十五石津領ナリ 屬邑川
原本邑ノ東北ニアリ 篠鉾 本邑ノ乾位ニアリ 濱垣内本邑ノ良位ニアリ、東塩濱北ニア
リ 土産 食鹽ヲ燒テ四方ニ貨買ス黒部塩ト稱ス 此浦ニ老松樹アリ吹井ノ松ト稱ス方俗
根アカリ松トモ云 北畠國永集云 大淀よりはるかのかみに千とせをも經ぬらんと思ふほ
どの松貳本ありわたりの人に尋ねければふけるの松とも申又根あかりのまつとも申なりと
こたへ侍りぬ皆人寄松戀といふ事をよみけるほどに
浦波も袖ころぬれめ磯のまつ根にあらはれて戀んものかは
人にかはりて

とひ來ぬはさしもふけるの浦風は松よりいとつれなかりけれ
柿木原 神守ノ良位黒部ノ東南ニアリ 正税二百二石津領ナリ

土古路 柿木原ノ巽位ニアリ 正税二百四十三石津領ナリ

式内國御神社 同村里ノ北ニアリ方俗八王子トイフ生土神ト稱ス 祭神大歳神兒土御但神

北藤原畠田社ヨリ坤位六丁

蓮華寺村 大垣内ノ北ニアリ 正税五十五石津領ナリ

牛草 蓮華寺ノ乾位ニアリ 正税四十九石津領ナリ 神風抄云内宮牛庭御園一斗十二月舊本

飯野郡ニ隸レリ今此ニ標ス

式内牛庭神社 同處ニ舊址アリ社宇廢亡ス祭神牛大山作命 同處南へ一丁許田間ニ老松一樹
アリ物見松ト云其根下ニシヤクシ宮牛若宮ト云小祠アリコレ牛庭神社ノ遺蹟ナルヘシ牛庭
神社下蛸路牛ヶ峯ニアリトイフハ非ナリ参考スヘシ

川尻 土古路ノ東ニアリ 正税二百七十三石津領ナリ

北藤原 川尻ノ良位ニアリ松坂府ヨリ東二里正税百二十三石津領ナリ明曆中圖ニ北出ト稱ス
神風抄云藤原御園二石五斗二升九合

式内畠田神社 同處ニアリ生土神ト云祭神三座軒遇突知命填山姫命稚産靈命

御炭山 同處ニアリ 雜記所載御炭山名所ナリ古昔藤原村ヨリ天子ノ御車牛ヲ献シ其後女御
ノ黛ヲ貢セシヨアルニヨリ里ノ名ニ藤原ノ賜ノ黛ヲ燒タル處北藤原ノ濱邊ニ少ク原野アリ

コレヲヒスミ山ト云ナリ或云御炭山ナラント云ヘリ引懐中抄云

ゆくさきの見すみの山をたのむにもこひをや神に手向けつゝ行

今詮スルニ古屋草紙及神風徴古録齋王ノ御黛ヲ焼タル處ナリ壺土器ヲ焼献ルト云俚諺曰在原業平齋王恬子内親王ニ別レテ尾張國ニイタルノキノ咏ナリ御炭山同郡ニアリ故ニ再會チ云カケタル意ナリト杜撰ナリ又藤原ノ邑名ニ據テ駕牛ヲ獻シ其姓ノ名ヲ賜フト謂フモ方俗ノ漫ナリ齋王ノ用ニ黛ヲ貢セシトイフモ邇キニ似テ其徴ナシ此歌ハ夫木集ゆくさきのみすみの山をたのむにもこれをろ神に手向つゝゆく讀人しらす伊勢名所拾遺ニ引據ノ其地ヲ詳ニセス案スルニゆくさきつゝ行曰字冠尾ニアリ猶哥ノ意解シカダシ恐クハ謬傳ナリ藤原ヲ賜フハ車牛ヲ獻ス事蹟ニ據レハ度會郡立花村ハ橘ヲ賣ノ其姓ヲ賜フトイフヘシ方俗ノ謬言其徴ナキニイタレリ即立左ハ大神宮立花ノ御園ナリ按ニ此ニ云みすみの山ハ御園ノ山ナルヘシ島田神社ノ御園ノ地ナリ故ニ神ニ手向ルノ詞コ、ニ合ヘリトイフヘシ然レトモ神風抄本郡ニ島山御園ノ名ナシ式内島田神社ハ坐セリ其神ノ御園山ノ地ナルヘシ齋宮近キ地ナル故ニ後世謬傳ノ其眞ヲ遺失セシ也

南藤原 北藤原ノ南ニアリ 正稅百九十一石津領ナリ 屬邑中藤原アリ 南北ノ二邑ノ中間ニ民居ス 此地東海ニ臨テ海船ノ湊集ス處ナリ藤原河口ト稱ス稻木川ノ海ニ入ル處ニ遠

淺二町許海上ニ船カ、リアリ

濱田 南藤原ノ東ニアリ 正稅百八十二石明曆中所載ハ公領トス今志州鳥羽領有馬領入組也

海瀨ノ田圃ニ據ルノ名ナリ 神風抄云濱田御園三斗九十二月内神田一丁一段眞奈胡御園

舊本飯野郡ニ隸セリ 外宮神領目錄曰濱田御園六月鹽一斗菓子九月二斗鹽十二月米鹽一斗

式外眞奈胡神社 同處ニアリ 倭姬命世紀曰活目入彦五十狹茅天皇二十二年癸丑冬十二月廿

八日遷飯野高宮奉齋四箇年 中畧 亦大若子命 乎 汝國名何問給白久 有張蘇我國千々五百枝刻竹

田國蒼白 支其所 爾 御櫛落給 支其所 乎 櫛田 止 号 給櫛田社 乎 定給 支 從是所而御船 爾 乘給其河

乃 後江 爾 到坐爾時魚共自然集出御船參乘 支 爾時倭姬命見悅給 支 其所 爾 魚見社 乎 定賜 支 從其

幸行 奈留 御櫻奉神參相奉 支 汝國名何問給 支 白久 白濱眞名胡國 止 蒼白 支 其所眞名胡神社ヲ定

給 支

白良濱 同處ニアリ

山家集

西行

浪寄るしらくの濱のからす貝ひろひやすくもたもほゆる哉

全

全

はなれたる白良の濱の沖の石くたかてむすふ月のしら浪

夫木

寂念

雪の色にねなししらゝの濱千鳥聲さへさゆる曙のろら

夫木

能宣

浪立る松はみどりの色なるをいかゝ白良の濱といふらん

全

長明

誰にかは君とかたらん玉拾ふ白良わたり秋の夜の月

長久二年齋宮貝合

讀人しらす

月かけの白良の濱のしら貝は浪もひとつに見へわたるかな

名所拾遺云長久元年哥合

躬恒

月かけもしろこの濱の白貝は浪もひとつに見へわかぬかな

全追考云前ノ長久二年齋宮しらゝの濱ヲしるこみへわたるを見へわかぬニ引直シ躬恒ノ哥

トノ同集ニ二首ヲ載タルハ不審ナリ 今稽ルニ名所拾遺云白子濱白子ノ町ノ東ノ方ニアル

濱ナリ云此注アリ故ニ前輩此哥ヲ菴藝郡白子ノ條ニ載ス其徵未詳非トスヘシ

寛治三年四條宮哥合

よみ人しらす

かもめゐるしらゝの濱の水底にろの玉見ゆる秋の夜の月

天福三年哥合

家隆

心あてにしらゝの濱にひろふ石の巖とならん世をしらすして

名寄

讀人しらす

はるくとしらゝの濱の白貝は夏さへふれる雪かどろ見る

雜記所載古哥二首

全

幾夜ねん白波よするしらゝ濱はまの松風に松葉折しき

月夜にはねくらの森もくからすましてしらゝの濱いかならん

全 遷幸要畧ヲ引テ云如此ナレハ白濱ハ大淀ニイタリ玉ハ又前ナリ然ハ今ノ濱田村ナルヘ

シ當國ノ名所白良ノ濱ト云モ此處ナランカ此哥ノツゞキ根倉村白良濱ハ並ヒタル名所ナリ

又紀ノ國ニアリ云 今詮スルニ倭姫命世紀遷幸要畧等ニヨレハ大神遷幸飯野郡櫛田ヨリ

御船ニ乗同郡魚見ニイタリ其次ニ白濱眞奈胡國其次本郡大淀ニイタル次第ノ順途ニノ大淀

ト魚見ノ中間ニアル處ナリ雜記所謂濱田ニ充ツ臆斷ニ似タリトイヘハ濱田ノ名ニ據テ白良

ノ濱ノ徵ニ近シ又古哥ヲ引據スルニ其集不詳トイヘハ土人ノ口碑ニアリ根倉森隣比犬牙ノ

地ニシテ其處ニ讀合セタルハ愈々此地トスヘキノ證ナリ猶神鳳抄眞奈胡御園飯野郡ニ隸入

セリコレ遷幸ニ飯野郡櫛田ヨリ順路ニノ舊ハ飯野ニ属セシ處ト云ヘシ今古郡ノ差タルナリ

或云紀州ノ名區トシ或志陽畧誌云未詳其處或云荅志或云在御座浦トノ志州ニ隸ルノ微ヲ載ス又伊勢名所拾遺云白良ノ濱ハ其處知難シ荅志嶋ニシロカ濱トイフ處アリコレナラン或云本郡三瀬村ニ眞名胡瀬眞名胡神社ヲ祀ル同名ニシ此地ニ據ルナルヘシ既ニ前輩諸論紛紜トノ未其微ヲ得ス稍シ勢陽雜記發明ヲノス是トス紀州ノ名アルハ所謂志呂浦アリ又志州ノ有トスルハ所謂荅志郡鳥崎白カ濱アリ各其地ニアラス本郡二瀬ハ遷幸ノ順次大泥ノ邊ニ非ス懸隔セリ前ノ長久二年齋宮哥合ハ本郡齋宮ニ近キ名所ヲ摘テ咏スル處ナレハ志州紀州ノ有ニアラス天福三年哥合ハ海石ヲ咏セリ眞名胡ハ眞砂ニシ今俗マナコ砂ト云眞砂ノ轉ナリ砂石ノ名ニシテ此地ノ形勢ヲ編リタルナルヘシ此咏モ齋宮石ナトソノ哥合ノ内ナリ凡テ前説白浦白カ濱等ノ白ノ字ニ據テ其集ノ所出ヲ詳ニセスノ他州及他郡ニ隸スルハ妄ナリ各方位モ懸ニ違ヘリ濱田ハ白良濱ノ轉ニシ後世ニ呼フ處ト惟フヘシ

八木戸 濱田ノ七町巽位ニアリ 正稅六百四十三石有馬領志州鳥羽領入組ナリ明曆中公領也 藥師寺 同處ニアリ本尊藥師佛

根倉 八木戸ヨリ坤位十町廿間ニアリ正稅六百廿五石明曆中公領ナリ今有馬領鳥羽領入組也 式内櫃倉神社 同處アリ村中寺前ニ鳥居アリ山大泥竹佐々布江社ヨリ乾位十二丁 祭神宇賀御魂神 方俗御玉社ト稱ス 度會延經神名帳考證云櫃倉神社櫃當作根宇賀魂神儀式帳云竹

首吉比古五百枝刺竹田 乃國止 白櫛田根椋神御田進 支 按根稻之上畧在根倉村今稱御玉社宇賀魂之片言歟當土古路之東南 度會正身神名帳再考證云櫃倉神社考證ニ櫃當作根根倉稻倉ニテ所祀則倉稻魂ナリト云是ナリ是外宮御鎮座ノ根倉ノ御田献リタルコアリテ後根倉物忌同父トテ大物忌ト共ニ外宮ニ勤仕セリ故ニ外宮儀式帳其田ノ穗ヲ神酒ニ造リ奉リ神嘗祭ニ所大神宮湯貴ノ大御饌又三節祭並ニ時々ノ幣帛使ノ時大物忌ト共ニ忌齋侍ルニ所ノ神殿造リ掃淨ノ奉リテ年別ノ祭ニ仕ヘ奉ル又十箇日爲一番宮守護宿直仕奉ルトアリ今猶子良物忌一句ヲ一番トシテ交替スニ所ノ神殿トハ次ノ社ナルヘシ當社ハ根倉村ニアリ土古路ノ東南ナリ云 今詳ニスルニ延經考證ニ延喜式舊ト櫃倉ニ作ル根ノ誤リナルヘシ延曆儀式帳ニ竹首吉比古大神遷幸ノキ五百枝刺竹田ノ國ト荅言ノ櫛田根椋ノ神田ヲ進ルト云文ニ據リ根ハ稻ノ上畧ト云ヘシ稻穀ノコニ屬ノ祭神宇賀魂神トス社宇根倉村ニアリ御玉社ト稱ス御玉ハ宇賀御魂ノ畧言ナルヘシト注セリ正身再考證ニ根倉ハ稻倉ノ稱ニシテ前考證ニ宇賀御魂ヲ祭ルト云ニ從ヘリ此外宮鎮座ノ根倉御田奉獻ノコニ因テ後世根倉物忌及父外宮ニ勤仕ス外宮儀式帳ヲ標出スル如シ前ニ云ニ所神殿造リ掃淨ノ奉リ年別ノ祭ニ仕ヘ奉ル文ニ據ルニ二所ノ神殿下稱スルハ延喜式次條ノ伊蘇上神社ト此根倉神社ノ二殿ノ義ナルヘシト云解ナリ愚按ニ延喜式ニ櫃倉ニ作ルニ據テ本郡ヲ考索スルニ櫃倉ト云地ナシ孰レ傳寫ノ誤ナル

ヘシ根倉物忌ノ在職スル處ハ神酒ヲ掌ルニヨリテ奉祀スル處ノ神ハ御酒殿ニ同ク宇賀御魂命ニシテ方俗御玉社ト稱スルニ據テ根倉村ノ所建ト云ハ前考證名是トスヘシ再考證ニ外宮儀式帳所載二所神殿ト云ハ此神社ト次條ノ伊蘇上神社ヲ指スト云ハ猶發微ノ卓見ナリ前輩伊蘇上神社ハ相可村磯部寺ノ前ニアリト云未詳非トスヘシ次條伊蘇上神社ノ下ニ詳セリ外宮延曆儀式帳云根倉物忌無位石部稻依女右人行事ト定任日後家雜罪事祓淨氏立忌館造氏年別從春始忌敬氏根倉乃御刀代田乎佃奉氏其御田稻乎神酒造奉神嘗祭爾二所大神由貴乃大御饌備奉又三節祭時々幣帛使參入時與大物忌共忌齋敬侍父無位石部吉繩右人行事與物忌共副齋敬仕奉又根倉社二所神殿造理掃淨奉氏年別供奉云云 全書九月十五日神嘗祭條云大物忌父我佃奉禮留拔穗乃御田稻乎火无酒造奉次氏仕奉次大神宮司乃所宛奉二箇神郡人夫乃所進庸米乎火向神酒造奉次根倉物忌乃作仕奉禮留神酒供奉畢此等ノ文ニヨリテ櫃倉ノ誤ヲ知ヘシ神名帳考正御王社ニ作ル又此社ヲ古屋草紙國御祖神ニ作ル非ナリコレ考正ニ從ヘリ勢陽俚諺相同シ各從ヒガタシ其徵著明ナリ式社案内記ハ根倉村ニ在祭神宇賀御魂命トス是ニ考證ニ倣ヒタルナリ

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之三終

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之四

式内伊蘇上神社 度會延經神名帳考證云伊蘇上神社大彥命儀式帳云難波長柄豊前宮御宇竹村立屯倉磯部眞夜手助督仕奉支續日本紀云寶龜六年伊勢國多氣郡人敢磯部忍國等賜姓敢臣按字書敢勇也敢阿部阿閉並同磯有功訓伊蘇志神書秘書裏書云伊蘇宮在多氣郡逢鹿村字古宮本上相可村磯部寺前森中社云磯宮 度會正身神名帳再考證云伊蘇上神社外宮儀式帳根倉物忌石部稻依女同父吉綱ハアレハ伊蘇上ハ姓ノ石部ニテ所祀ハ物忌ノ祖御田奉リシ人ナルヘシ是上ニ云二所神殿ノ一ナリ考證ニ神名秘書裏書ノ相可古宮本ト記セリ磯宮ナリト云ハ非ナリ當社ノ古地モ根倉村ニ在ヘシ未考 今詳ニスルニ延經考證ニ伊蘇上神社ノ名義ニ據テ儀式帳ヲ引テ多氣郡竹村ニ屯倉ヲ建テ磯部眞夜手ヲ助督トシ仕奉ルト云文ニ由テ磯部伊蘇上ノ訓同シキノ示ス又磯部姓ハ續日本紀寶龜六年伊勢國多氣郡ノ人敢磯部ノ忍國等ニ敢ノ臣ノ賜ノ其敢ハ即勇ノ字ニノ後世阿部阿閉ト云ニ相同シ磯ト云謂ハ勳功ヲ伊蘇志後ニイサチント訓ス即神忠ノ功アルノ故ト云義ヲ含メリ其伊蘇上神社ハ神名秘書裏書ヲ引テ伊蘇宮人多氣郡逢鹿村字ハ古宮本ト云ニ據レハ上相可村ノ磯部寺ノ前ノ森ノ中ニアル祠ヲ磯ノ宮ト云此ヲ伊蘇上神社ト一ナリト云解ナリ正身再考證ハ伊蘇上ハ石部ニ同ク上ニ所出ノ

根倉神社根倉物忌石部稻依女同父吉綱各石部姓ニテ二所神殿造奉リ淨掃仕奉ト云キハ二社
 アルヘキナリ故ニ此伊蘇上神社モ根倉ニ舊址アルヘシ祭神物忌ノ祖祖神皇大神ニ御田奉獻
 セシ人ヲ祀リタルナルヘシト云釋ナリ愚按ニ前考證ニ續日本紀磯部姓ニ敢ノ臣ヲ賜ヒシ事
 實及此本郡ニ磯部姓ノ人前世ヨリ居住スルハ然リ磯ハ有功ニ伊蘇志ト訓ス敢ハ勇ナリ阿
 部阿閉ニ作ルト云モ各是ナリ神名秘書裏書ヲ引據ノ本郡相可村磯部寺ノ前ノ小祠ヲ磯宮ト
 稱スルニ據テ此伊蘇上ノ神社ニ混合スルハ大ニ非トスヘシ磯部寺ノ伊蘇宮ト稱スルハ倭姫
 命世紀云活目入彦五十狹茅天皇廿五年丙辰春三月三日從飯野高宮遷幸于伊蘇宮令坐又神名
 秘書云垂仁天皇廿五年自伊勢國飯野高宮遷于伊蘇宮今坐神服社是也然ルニ神名秘書裏書ノ
 文ニ據テ方俗相可村磯部寺ノ前ニ享保五年寺僧及村民等書議ノ千木鯉木ヲ設ク造宮ヲ儼ノ
 即皇大神遷幸ノ伊蘇宮ノ舊址ニ罵リ祀レリ故ニ方俗此處ヲ磯宮ト稱シ後世ヲ惑ハスニ至レ
 リ猶近時式社案内記等ニ此ニ伊蘇上神社ヲ配合ノ式内ノ神社トス是前考證ニ既ニ伊蘇上神
 社ハ即磯宮ナリト誤レルニ據リ或ハ其寺ヲ磯部寺ト稱スルニ由テ伊蘇上神社ニ同名ナリト
 臆シ此ニ祀レルナリ磯部寺ハ舊時ノ姓氏人此地ニ多ク所居スルニ據リ磯部ノ名ヲ寺號ニ犯
 シタルナルヘシ故ニ後人流毒ヲ傳ヘテ今ニ暨ヘリ磯宮ノ舊址ニモ伊蘇上神社ノ地非レハ相
 可村磯部寺ノ條ニ載ス併稽ノ其非ヲ亮ムヘシ猶此伊蘇上神社大彦命ヲ祀ルト云ハ其徵ヲ得

カマシ敢臣ノ始祖ト云ヘキ義ナレモ此根倉神社ニ附屬スルモハ多氣連 祖宇賀彦神子吉比
 古吉比賣二神ヲ奉祀スナルヘシ再考證ニ大神ニ御田奉獻セシ根倉物忌ノ磯部氏ノ始祖ヲ祀
 ルナルヘシト云ハ姑ク從ヒカマシ世紀ニ御田獻センハ吉比古ナリ伊蘇上石部相同ニ據テ其
 姓氏ノ祖ヲ祀ルト云ハ難シ磯部ハ本郡ノ地名モイフヘシ近江州栗太郡石部驛ニ石部山アリ
 万葉集

白まゆみいろへの山の常盤なる命あらはや戀つゝおらん

新勅撰

家隆

夏衣ゆく手も涼し梓弓いろへの山の松の下かせ

舊名石部いろべト訓ス大和州石上ノ例ナリ今イシベト俗稱ス驛中ニ二處神社アリ上神社ト
 云吉比女命ヲ祀レリ下ノ社ハ吉比古ヲ祀ルナリ是石部磯部ト同義ニ其由緒アル故ナリ然
 レハ此ニモ吉比古吉比賣命ヲ祭リテ伊蘇上神社ト稱ス磯部ニ伊蘇上ト書テ上ヲ部ニ通スル
 ハ延喜式近江國甲賀郡鹿塩上神社今カシホベト訓ス本州度會郡田上後ニ田邊ト書スニ相似
 リ式社案内記大彦命ヲ祀ルトス是考證ニ倣ヘルナリ又勢陽俚諺祭神姫大神トス是相可磯宮
 或ハ伊蘇上神社ニ合ノ伊蘇宮遷幸ノ地トスルカ故ニ姫大神ヲ奉祀スルトイフ僻説ナリ非ト
 スヘシ其社域ハ再考證ニ倣ヒテ根倉神社ノ次條ニ序ノ根倉村ノ地ニ舊墟アリヤ其眞否ハ追

テ稽フヘシ故ニ此ニ標出ス

行部 根倉ノ坤位ニアリ佐田ヨリ良位十七丁十六間 正税三百六十石志州鳥羽領ナリ明曆中
圖ニ公領トス今古ノ差ナリ

山大淀 行部ノ巽位ニアリ根倉ヨリ十八町南ニアリ 正税八百二十一石舊秩ハ加納領今鳥羽

領ナリ 大淀ハ三邑ニ分ツ東大淀中大淀山大淀ト稱ス 山大淀ノ名義ハ松林岡丘ノ傍ニ民

居ス故名ツク 神鳳抄云内宮大淀御厨供祭物三石六九十二月

式内竹ノ佐々夫江神社 同處生土神ノ同社域ニアリ 祭神未詳

中大淀 山大淀ヨリ巽位ニアリ 正税八百九十六石舊牒ニ加納領今志州鳥羽領ナリ 東大淀

ト山大淀ノ中間ニアリ故ニ名ツク

式内竹ノ大與杼神社 同處ニアリ 柏村加須夜神社ヨリ北十五丁 度會延經神名帳考證云竹ノ

大與杼神社豊玉彦神海水靈肥前國與止日女神社山城國與杼神社今稱水垂明神世紀云海蓋大

與度爾與度美氏 御船令幸行其時倭姬命悅給氏其濱爾 大與度社定給在大淀浦 度會正身神名

帳再考證云竹大與杼神社大淀村ニアリ世紀御經行ノ地櫛田魚見ノ例ナリ竹ノ字ヲ冠レル社

号ハ皆多氣郡ノ其ト云フナリ和名抄多氣竹舊ト清音ナルヲ濁音ニ呼語ナリ世紀曰海蓋大與

度爾與度美氏 御船令幸行其時倭姬命悅給氏其濱爾 大與度社定給後ニ祀ル神ハ海童神ナルヘ

シ 今詳ニスルニ延經考證ニ竹大與杼神社ノ名ニ據テ肥前國與止日女神社山城州與杼神社

各與止與杼ハ淀ニ同ク此大與杼ニ例シテ其社地ハ倭姬命世紀ニ皇大神遷幸ノキ海蓋大與度

止與度美テ御舟遷幸スルトキ倭姬命悅喜シ其處ニ此神社ヲ定祀ス其地名モ此遷幸ノキノ文

ニ據リテ名ク處ナリト云義ニ解セリ正身再考證前考證ニ從ヒテ別異ナシ竹神社竹大與杼及

竹佐々江神社等各多氣郡ニアル處ノ謂ナリ前考證ハ祭神豊玉彦神ヲ定ムルハ其海蓋ノ地ニ

ノ大與杼ノ名ニ起リテ海水ノ靈ヲ祭ルト云ナリ再考證ハ海水ノ靈ヲ博ク見テ豊玉彦命ニ限

ラス海童神ヲ祀レリト斥セルナリ愚按ニ勢陽雜記拾遺等ニ大淀ニアリト云フ詳ナラス今東

大淀中大淀山大淀三邑アリ東大淀ハ度會郡ニ係レリ中大淀山大淀ハ本郡ニ屬ス式社案内記

ニ中大淀村ニアリ祭神豊玉彦命是考證ニ從ヘリ神名帳考正此社ヲ水垂明神ト稱スト云此山

城州水垂村ニ坐ス式内與杼神社ノ俗稱ヲ假ル處ナリ度會清在舊址聞書云大與度ハ今大淀村

トイフ俗訛テ於伊津ト云與度牟ト謂フ和語外國ニハ澱ノ字ニ當ルト云万葉集ニ不行ト書テ

ヨドムト訓シタリ大與杼ノ社詳ナラス今大淀村ノ邊度會多氣兩郡ノ界ニ天王子ト稱スル小

祠アリ村老云此祠古ノ大社淀ト稱セリ今ハ社号ヲ呼者ナシト云ヘリ是清在カ所著ハ延享中

ノイナリ或云大淀ハ上中下ト三邑ニ別タリ今山大淀ト云處ニ此村ノ氏神ト稱シ二社並ヒ座

ス舊ト佐々牟江橋ノ邊リニ在トシテ此ニ遷セリ其年月ハ不傳ト云今閱ルニ其社域ハ方十間

許アリ小祠ナリ山大淀ノ産神ト稱ス是ハ前條竹佐々夫江神社ニノ大與村神社ニアラス故ニ
舊昔佐々夫江橋ノ邊ニアリテ其社号ニ稱セシヲ證トスヘシ此本條ト混駁スルカ故ニ此ニ詳
ニセリ

八十四

小野湊 同處ニアリ 小野古江及流蘆流江小野江橋等國風ニ咏セリ

金葉集

參議師頼

いせの海小野の古江に朽果て都の方へ歸れとろおもふ

此哥は俊頼朝臣伊勢の國にまかる事ありて出立ける時人々馬のはなむけし侍りけるに讀る
續後撰 よみ人しらす

續古今 いせの海の小野の湊の流江のなかれても見ん人のこゝろを
中務卿親王

新後撰 湊こす夕風涼しいせの海の小野の古江の秋のはつ風
衣笠内大臣

新千載 いせの海の小野の湊のかのつから逢見る程の浪の間も哉
藤原基任

流芦の末葉も見へす成にけり小野の湊の五月雨の頃

全 藤原爲重

名寄 いせの海の小野の湊の入汐に流江遠く鳴ちどりかな
光俊

全 かけるふの小野の古江にこす汐の湊やいつこ春の夕暮
人丸

全 御祓する小野の湊の松にころ幾代は經しと問ふへかりけれ
光俊

草庵集 塩むかふ小野の湊の流江に猶漕かねてとまる伊勢ふね
頼阿

新千載 伊勢の海や小野の古江をはるくと湊をかけて澄る月影
津守國冬

夫木 なかれ江の伊勢の濱萩打るよき涼しき風に飛螢かな
倍實

藤浪は咲こほれたる流江にとまらぬ春の日數をろしる
長明伊勢記曰御祓の橋といふ所ありこれは霜月新嘗會の祭に齋宮御しほあみたまふとて濱

八十五

へ出給へるゆへにかく名付たる也もとは爰をば小野の古江といへはかの江の橋といふを
聞てよめる

夫木

長明

うしほ汲齋のいも井年ふりてや、栲にけりかの、の橋

雜記所載小野古江トハ大湊ノ坤ノ方ニアリ今俗ニ古河ト云處ト云宮川ノスソナリ流江流芦
ナト咏セリ近來ノ湊ハ往昔古河ノ方ニ有シナリ其際ニ何レノ時ニヤ新ニ川出來テヨリ今ノ
湊ニ人家繁クナリタリト古老ノ傳ナリ此邊ニノ齋内親王潮ムスヒ玉フトテ坐マシ御祓ナト
モ有トイヘ凡其處定カニ知難シ或書ニ小野ノ古江ハ三渡雲出川ノ間ニアリト云不審是ハ誤
ナルヘシ 今考ルニ士佛參詣記ニ鈴鹿河或ハ雲出川ノ邊ト記シ名所拾遺ニ度會郡ニ隸シテ
大湊ノ坤方ニアリト注ス然ルニ雜記此所傳ヲ引テ度會郡大湊及雲出川ノ説ヲ設タルナリ故
ニ方俗倣ヒテ大湊ノ江淮ヲ指シ小野湊及小野ノ古江ト罵リ稱セリ後号ニ詳ニス 度會延賢
正齋居通曰小野湊小野古江同處ナリ其處今分明ナラス梵燈庵袖下集匠材集俱ニ小野湊鈴鹿
河ノ末海ニ出タルヲ申スナリト云ハ非ナリ士佛參詣記ニ雲出川ノ早キ浪ヲ凌キ小野ノ古江
渡リ申ス名所ヲ過キ行ニモト有テ次ニ松風イト寒キ三渡リノ濱ニモ着ヌト云雲津三渡ノ間
一里此中間ノ海邊ニ小野湊トイフヘキ處ナシ伊勢名所拾遺集ニ小野古江ハ大湊ノ坤方ニア

リ俗ニ古川ト云處ノ由古老ノ傳ナリト有レトモ此説モ覺東ナシ齋宮式ニ五月十一月晦日隨
近川頭爲禊八月臨尾野湊爲禊トアリ五十一月晦日ハ六月十二月月次祭ニ參向ノ禊八月晦日
ハ九月神嘗祭ニ進ミ坐スノ禊ナリ近河ハ竹川ナリ齋宮ハ宮河ノ西ニアリ大湊ノ古河ノ小野
湊トスルキハ八月晦日便宜ノ海ヲ置テ遠處ノ大湊ニ赴キ玉ハンモ覺東ナシ行路三里許モア
ルヘシ旁其謂ナシ又雲津三渡ノ間ノ海濱トスルキハコレモ又三里許其上下樋小川ヲ越テ御
禊シ玉ハンヲ甚有ヘカラスコ、ヲ以テ見ルニ小野湊ハ大湊ノ海邊ナルヘシ僻見トイヘ凡其
證ニアリ 伊勢物語ニあくればおはりの國へこゑにけり又むかし男狩の使よりかゝりきに
けるに大湊のわたりにやとりて 闕疑抄云大湊ハ伊勢尾張の道の渡り口なり長明海道記ニ
申の斜に湯井の濱に落つきぬれば暫し休みて此ところを見れば數百艘の舟艦をくさりて大
津の浦に似たり千万宇の宅軒をならへて大湊のわたりに異ならず是大湊ハ湊ナルヲナ知ヘ
シ況ヤ大湊ノ村翁往古此浦ニ尾張ヘノ湊アリト云傳レト何ノ處ニヤ今分明ナラスト云ヘリ
コレ其證一ナリ

拾遺集

源兼隆

大湊の御禊幾世になりぬらん神さひたてる浦の姫松

新古今

齋宮女御

むすめの齋宮に俱して下り侍りて大淀の浦にみるきし侍るとて

大淀の浦に立浪かゝらぬは松のかはらぬ色を見ましや

是圓融院御宇ニ村上天皇ノ御女規子内親王齋宮ニ立玉フキ其母微子内親王朱雀帝ノ母ノ齋宮重明親王ノ御

母俱下リテ大淀浦ニテ咏シ玉フ處ナリ此時齋王規子内親王御輿シ玉フコ詞書ニ見エタリ大

淀浦即尾野湊ニ非ンハ何ソ此處ニテ御輿シ玉ハンヤコレ其證ニナリ 齋宮式ノ近キ河ハ竹

川ナリ竹川ハ齋宮ヨリ十五六町許大淀ハ一里餘アリテ行程ノ順宜シ六月十二月ニハ近河ノ

竹川ニテ御輿シ玉ヒ九月神嘗祭ノ齋ニハ遠キ海邊ニテ御輿ナシ玉フニ宮川ヲ不渡齋宮ノ

北ニ其使リアリ是其證三ナリ 此故ニ尾野湊ハ大淀ノ海邊一處ノ名ナルコト疑ナシ 延喜

齋宮式曰五月十一月晦日隨近河頭爲祓八月朔日臨尾野湊爲禊其三時祭日十五日齋内親王向

離宮 注云私曰是可爲多氣河云彼河於祓河祓所森并在河頭 雜記引此文曰其三時之祭日八

月十五日齋内親王向離宮ト云ハ妄ナリ八月晦日ノ禊ニ何ソ前ノ十五日リ離宮院ニ入テ參

向ノ理アラシヤ恐ハ八月ハ謬寫ナリ三時ノ祭日ハ六月十五日九月十六日十二月十六日ナリ

故ニ其祭日ノ前十五日ニ參向ノコト傳ル處ニシテ八月ノ字衍文ナリ其詳ニ正セヨ 拾遺

云在原業平此處ニ來リケルニ賤男馬ヲ池ノ傍ニ除ケタリケレハ

淺茅生の賤か草刈る道せはく行かふ袖に駒よけの池

今稽スルニ車舍馬駐ト方俗ノ稱スル舊址アリ業平ノ事蹟ヲ傳ヘタリ然レモ彼大淀ノ松ニ比

ノ業平ノ事蹟トスレモ此哥ハ風調其人ノ作ニ非ス近世ノ俗謠ナリコトニ據テ詳ニスルニ大

神遷幸ノ地トイヘモ猶古街道ニアラス馬駐メ車舍リ等ノ名アルハキニアラス憶フニ齋内親

王御輿ノ時ノ遺址ナルヘシ

大淀松 山大淀ノ良位ノ海濱ニアリ方俗業平松ト稱ス 伊勢物語曰むかし男狩の使よりかゝ

りさけるに大淀のわたりにやとりていつきの宮のわらはへにいひかけける

見るめかるかたやいつころ棹さして我におしへよ海士の釣舟

むかし男伊勢の國なりける女又ぬわはて隣の國へいくとていみしう恨ければ女新古今讀人不知ト

載ス

大淀の松はつらくもあらなくにうらみてのみろかゝる波かな

むかし男伊せの國にゐていきてあらんといひければ女

大淀の濱に生てふみるからに心はなきぬかたらはねとも

といひてまし／＼つれなかりければ男

袖ぬれて海士のかりはすわたつ海のみるをわふにてやまんとやする

夫木

俊成女

九十九

大淀の霞吹ろふ松風に恨てのみやかねるかりかね
御裳濯集

定家

さなくとも秋の面影大淀の松はつらしとら風ろ吹
拾遺

源兼隆

大淀の御祓幾世に成ぬらん神さひ渡る浦の姫まつ
新古今

齋宮微子内親王

大淀の浦立浪のかねらすは松のかはらぬ色を見ましや
千五百番

後鳥羽院

かすくにかもふ心は大淀の松をうらみる浪の音かな
天文十一年大神宮千首

新大納言

松に吹風も涼しく大淀のけふの御祓を神やうけけん
夫木建保三年百首

順徳院

大淀の浦路のとけき春の日にかすみろ残る松のむら立
夫木

家隆

霞ゆく松さへつらし大淀の浦立浪のかねる厂かね
新葉

關白左大臣

大淀の恨みよとの契りかは松もつれなき心つくしや
拾遺愚艸

定家

つらからぬ松も戀らく大淀の霞はかりにかゝる浦浪
全

全

大淀の松に夜ふくる浪風を恨てかねる友千とりかな
千五百番

宗良親王

しるらめや君かつらさは大淀の恨てかねる浪をかるへて
建保三年百首

如願法師

大淀の霞吹拂ふ松風に恨てのみやかへる厂かね
全

雅經

大淀の松はつらくも霞まねと浪路隔てかへる厂かね
建保三年百首

行意

君か代の例やいつく大淀のうらに宮ろふ春の姫松

九十一

全

タ九十二
兵衛内侍

月かけをまつはつらくて大淀の浦立浪に霞む夜の月

有家

夫木
大淀の松とやつくる古郷に恨みぬかたにかゝる雁かね

家隆

玉吟
大淀の松のちきりもふりぬとも今もかはらぬ歸る波かな

北畠權少將國永集
人みな大淀の松をみて哥よみけるに

大淀やつれなき松の風たにも波間静けく月をみる哉
名に聞いていとふりにし悔しさも猶あまり有る大淀の松
こと問へはこたへぬ松はつれなくて波よりくる大淀の松

大淀浦

風雅集

俊頼

大淀の濱の真砂を君か代の數にとれどや浪も寄すらん

正三位知家

新拾遺

家集

源順

いせの海にけふはきかねと大淀の濱のみるめろしるくも有哉

新古今

定家

大淀の浦にかりほすみるめたに霞にたへて歸る雁かね

新六帖

衣笠内大臣

大淀の浦のみるめもよりぬへし奥つ塩風浪にふくなり

御集

後鳥羽院

大淀の浦風かすむあけほのに雲井の雁の音つれて行

拾玉集

荒木田成定

敷嶋やみちくる塩の大淀やみるめもあかす蟹の釣舟

建保哥合

範宗

大淀の浦にむれるる友鶴の遊ぶ日影の空ろ長閑き

全三年百首

康光

全 俊成女 九十四

全 大淀の春の浪路に行雁のうらみて歸るあかつきの空 定衡

全 もしは焼海士のたく繩春くれは霞るふかき大淀の浦 家隆

全 大淀の海士の乙女子春なれば神のはつものみるめ刈なり 行能

夫木 大淀のうらめしとなき曙も袖をうはさぬ春の月影 正三位忠定

全 大淀のみるめは夜半に歸る雁聲にも鳴ぬこゝろのみかは 慈鎮

全 大淀のみるめはうとく成ぬとも浪にかりかね秋を忘るな 全

名寄 大淀のよどの花貝拾ふても千尋はかりのあやめをる引 西行

全 せと口にたけるうしつの大淀のよとひろこゝるもなき歎哉 全

全 いかにせんけふ大淀の浦に来てあやめや引ん貝やひろはん 仲正

大淀のつみのおもにをふるしねきて浦山しくもくたるかり舟

今詮スルニ古屋草紙徴古録等ニ曰大淀ノ姫松トテ倭姫命遷幸ノキ大神ノ神輿ヲ居ヘ四方ノ

浦ヲ眺玉フ處ニテ一木ノ松アリ故ニ姫松ト云大淀乃御被いく世に成ぬらん神さひわたる浦

の姫松ノ哥コ、ニ據レリト云愚按ニ大神遷幸ノキ車駕ヲ停ムノ意トシ齋王出諫ノキノ駐馬

車舍等ヲ謬リ傳ルナリ姫松ノ咏ハ今ノ一株ノ老松ヲ指ニ非ス凡テ此浦ニ松ヲ咏スルハ海瀨

ノ列松ヲ指セルコ必セリ度會郡二見ノ詩繪松ト稱スルカ如シ上件ノ一老松ハ往昔ヨリ有ス

ル處延寶元年暴風ニ枯倒セルヲ其時ノ代官應古郡文右衛門重年和哥ノ道ニモ志アリテ古樹

ノ絶タルヲ惜ミ又今所在ノ松樹ヲソノ址ニ栽繼テ二首ノ咏ヲ副タリ 幾世經て朽にし松と大淀のうらみてかゝる浪に問はや 君か爲繼てろ加ふる大淀の松のちとせに八千代添へとて 其時大神宮禰宜從三位度會常和其松ノ幹ヲ以テ文臺ヲ造リ家藏トスト云フ 又齋居通ニ伊

勢物語源光行海道記ヲ引證ノ往昔本州ヨリ尾州ノ渡口ト載ストイヘ東關ノ街道ハ桑名郡ニ論スル如ク津嶋ノ渡是本街道ナリ潜ニ尾州ニ通スルハ河曲郡長太及此地ヨリモ便道ナルヘシ在原業平ノ本州履迹ノ事實ハ伊勢物語ニ所傳ノ如シ一條禪閣ノ説ニ大淀ハ伊勢ノ國名所ニ尾張ヘ行海路ノ渡口ナレハナリ其渡口タルコトモ明ナリ然レモ例ノ作物語ニ其徴トシ難キモ明シイツレ齋宮ニ近キ本郡ノ地ナレハ然ル所傳モ有ヘキナリ

大淀城址 同處ニアリ永祿十二年國司北畠中納言具教入道不智齋陰棲スル處ナリ 伊勢兵亂記云永祿十二年北畠中納言具教卿織田信長襲來ルノ由聞ヘシカハ多氣ハ要害宜シカラストテ先ツ一志郡細頸ニ屋形ヲ造リ移リ玉ヒ其後細頸ニハ日置大膳亮ヲ置飯高郡大河内ニ城郭ヲ構ヘ嫡子信意ヲ居ヘ置大河内御所ト申ス具教卿ハ多氣郡大淀ニ隱居ノ入道不智ト申ケル云

鱗尾 中大淀ノ乾位ニアリ 正稅百三十石大神宮領ナリ或ハ平尾ト録ス 文祿三年豊臣氏檢地ノキ百三十石除地ナリ 諸本鱗尾ニ作ルハ非ナリ或ハ鱒尾ナルヘシ日本書記第一緒廣鱒ヲヒレモ訓ヒレ尾ノ義ナリト云フ然レトモ鱒ハ伊呂古ノ訓ニシテイロヲナルヘシ然ルカ後世ニ轉シテ平尾ニ訛レル也

鱗尾城址 同處ニアリ一名智積寺城ト稱ス飯高郡大河内城ノ與力智積寺某所居ナリ

上野 鮮尾ノ西官道ニアリ方俗明星ノ上野ト稱ス旅貨茶店多シ 正稅五百十石大神宮領ナリ 文祿三年檢地ノ除地ナリ凡テ此邊ヲ明星ト名ク本邑ハ本ト明星ト稱シ又中村其南ニアリ新茶屋ト中間ナリ 新明星方俗新茶屋ト稱ス 神風抄云齋宮上野御園

長松山安養寺 同處ニアリ 禪宗本尊十一面觀音 雜記所載洛東東福寺痴兀大惠佛通禪師ノ草創佛殿方丈堂塔數千アリシカモ時勢衰ヘ三百五十年ノ星霜ニ伽藍朽果テ古ノ寺地ノ跡ニ纒ノ草庵ヲ營本尊並佛通禪師ノ木像ノ影ノミアリ故アリテ大神宮參詣ノ客當寺ニ來リ茶湯ヲ喫スレハ不淨垢惡ノ輩モ忽内外清淨ナルヘキ神約アリテ此寺ニ羣詣シケルカ寺門頽廢シ古例ヲ行フコトモナク今ハ門前ノ在家ニ執行ヒ渡世ノ業トナリ又安養寺ハ上野ノ内ナリ明星茶屋ハ下有爾ノ内ナリ次第ニ繁榮ノ明星茶屋ヨリ又新茶屋ニ及ヒ數多ニナリ又其根本ノ安養寺ハ再興ノ志願モナクイト淺猿シ 此道場ノ始ノ由緒里諺ニ云ルハ佛通二宮大神ニ日參ス正月元日ノ曙外宮ヨリ内宮ニ詣ストテ小田橋ヲ過ルニ傍ニ女ノ死骸ヲ抱テ悲泣スルヲ見ル禪師其故ヲ問フ答云コレハ妾カ母ナリ今夜死ス夜闌ナルニ壘ントノ首ニ頂キコ、ニイタレリ貧女ノ憂患ニ勞レテ如此ニ及ヘリト云フ禪師哀情ヲ發シ自ラ死者ヲ負其墓ヲ探リ壘埋シ廻向ノ件ノ女ニ別ル今日垢穢ヲ受タリトテ參宮ノ志ヲ停メ舊途ニ歸ントスルニ行歩不進ノ脚蹶セリ且怪ミ思テ參途ニ歩スルキハ速ニ行歩ス眞ニ神明モ納受シ玉フヨトテ 下ノ水

ニ垢離ヲトル故ニ此水今ニ濁リテ清ク澄ルコトナシト傳ヘリ又内宮ヨリ歸途ニノ外宮ニ詣ス
 高宮坂ノ邊ニシテ老翁忽然トシテ現シ吾ハ此地ノ神ナリ汝參宮ノ志念虛實ヲ試シ爲ニ小田橋頭
 ニシテ化女ト現セシハ即吾ナリ汝眞實ヲ感スル因テ眞心清淨ノ火徳ヲ許シ與フヘシトテ其行
 處ヲ失ス又神宮ニ再拜ノ歸リ然ヨリ佛通安養寺ヲ建參宮ノ行客ニ清淨ノ火ヲ施ス此故ニ此
 寺ニ清ノ火ト額ヲ掲ケ此地ノ産業トナルコトナリ明星茶屋ノ名ハ明星ノ出ルキ神明ノ示現ニ
 遇玉フ故ニ云傳ヘリ此外ニ東明寺ト稱ス一寺存スナラン其事佛通ノ遺記ニ見ヘタリ云
 今詳ニスルニ佛通大惠禪師舊ト菴藝郡窪田郷光明山安養寺ヲ創建ノ住シ夢中ニ大神ノ託ヲ
 蒙リ奠茶ヲ詣人ニ喫セシメテ汚穢ヲ濯ト云所傳彼寺ニアリ佛通眞言ノ光賢闇梨ニ其寺ヲ授
 與ノ又當院ヲ建ノ遷リ仕ス事蹟前號窪田ノ條ニ詳ニセリ故又流傳ノ此寺ニ於テ茶店ヲ構テ
 前ノコトク喫茶セシム後世ニイタリ神宮領ナルカ故ニ禰宜祠官ノ輩コレヲ拒ミテ禁シ停ム
 今荒廢ノ其經營ナシ度會郡宮古廣泰寺ニモ釋玄虎藏主開基ニシテ靈告ニ應シ同傳アリテ奠茶
 ナ喫セシム是モ後世祠官等ヨリ拒ミ停ム今其流習亡シ然ルニ開山佛通ハ徳治正和中ノ存世
 ニシテ今ニイタリ四百餘年ニ暨ヘリ惣ノ後世ニイタリ太神ニ賤者ノ今ノ如ク詣スルハ慶長以
 來ノ幣風ナリ上世ハ勅使公卿及王將軍諸侯僧徒ノ外妄ニ詣スルノ例ナシ然ルニ慶長以後ノ
 群詣スルニ從テ浮屠氏ノ僞妄ノ巷説ヲ設テ衣糧ニ充料ニスルノ謀ナリ其故ハ徳治中開山ノ

此此地及菴藝郡ノ街道ナシ何ソ此コトヲ設ル有ンヤ猶惟フニ中世本郡齋宮ノ地ヨリ度會郡
 湯田小俣ニイタル街道ハ四隅曠荒ノ野ニシテ民居モ無ク宿驛モナシ故ニ喫茶ノ渴ヲ凌ク便ナ
 シ院内ニ憩テ喫茶スル處ナリ然ルチ後季ニ及テ神明ヲ汚蔑スルノ説ヲ設テ誣ルニイタレリ
 天野信景遺屍云勢州明野明星茶坊清火ハ安養寺三世能信ハ佛通ノ弟子寂雲カ弟子能信ナリ
 百日參宮ノ死死者ヲ自ラ葬テ參宮ヲ憚リシ神夢ノコトアリテ宮中ニ入シヨリ清火ノコトナシ
 ケルトナリ是京師君山國阿ノ故事ト一般ニシテ皆浮屠ノ私意ニ出タリ能信ハ外宮一禰宜三位
 家行ノ子ナリ故ニ眞福寺ニ神書多シ云 尾州大湊眞福寺ニ二宮ノ神典ナシ今ニ藏スルハ此
 僧徒ノ傳ヘタルナリ祠官竜瀬近等カ其遺亡セル補フニ此寺ニ需テ眞福寺本ト稱スルモ是ナ
 リ 猶所傳ニイフ小田川ノ水佛通浴スルノ後常ニ濁レリト檢スルハ當今ニモ及テ錦河内水
 田ノ末流ニシテ夏月ハ汚濁スル多シ其上流ハ山淵ノ間ニ出ル處ニシテ曾テ濁ルニアラス小田ノ
 流ハ上世ハ橋梁ナシ貞觀中ニ大内人商主ノ女溺死ノ事蹟アリ度會郡山田妙見堂ヘ條ニ載ス
 歩涉スルニアラスノ溺水ノ患アルコト必セリ小田橋ノ名ハ其後神宮雜事紀ニ稍ク出タリ執レ
 其徒ノ鹵莽ノ訛傳タルコト明ナリ 又一説明星ト名ク由緒ハ此寺ノ域内ニ明星ノ降臨スト傳
 フ古井アリ明星水ト名ク據テソノ地ニ稱スルトコロ也 今考ルニ雜記所載佛通神明ニ值遇
 ハキ明星出現ノ遺事ヲ傳ヘリコレト同シカラス明星ノ説ハ釋氏ノ常談ナリ明星井ト稱スル

ハ處々寺院ノ域内ニ多シシカルニ今明星茶園ノ名ヲ唱フ他州ニ及フハ本州ノ履迹ノ多キニ
據ルヘシ亦異事也

齋宮 上野ノ西官道ニアリ 舊名鳥墓トイフトイヘ非ナリ本郡饗村ノ舊名ナリ 正稅千七
百五十石大神宮領ナリ文祿三年檢地ノ除地ナリ 齋王宮ノ上世建タル處ナレハ今ニイタリ
地ニ名シ處ナリ 外宮神領目錄云齋宮柑子御園蓋一斗菓子九月二斗蓋十二月米一斗蓋一斗
神鳳抄云外宮齋宮柑子御園六斗

齋王宮舊墟 同處ニアリ方谷野ノ宮ト稱スルハ非ナリ野宮ト稱スルハ郊外ニ造ル處ノ名ニシ
テ帝城ノ内ニ伊勢群行ノ前ニ假居シテ齋潔シ玉フ地ナリ 前々大平記卷十三云承和元年八
月皇子久子内親王ヲ伊勢齋宮ニ立ラルヘキ勅定ニテ先野宮ニ入奉ル是一千日ノ間祓ヲシマ
マハソ爲ナレハ華表叢祠ノ外ハ假屋ニ摸シ賀茂ノ齋院ノ野宮ハ紫野ニアレハヨレ又有柄川
ニ經營立ラレタリ云云ノ如シ洛西嵯峨野及西院村等ニ遺址アリ其嵯峨小倉山ノ巽ニ舊址ノ
存スルハ後醍醐帝ノ祥子内親王ノ趾ナルヘシ野宮ニ齋居シ玉フマテニテ元弘ノ兵亂ニ及テ
齋宮ニ群行ナク退下ナリ又洛西西院ノ五丁許西ニ舊址アリ凡テ齋王ヲト定シ皇女常殿ヲ出
テ來年ノ九月マテ別殿ニ遷リ齋戒シ翌九月ヨリ郊外ノ殿ニ移リ第三ノ九月マテ坐シ又野外
ノ黒木御殿ヲ經營ノ其次ノ九月マテ坐ス前後三年一千日ノ間ナリ前ノ如ク潔齋居ノ野宮

ヨリ伊勢齋宮ニ群行ナリ野宮ト稱スルハ第三次ノ齋居ニノ野外ニアル故ニ名ク
拾遺 齋宮女御

のゝみやに齋宮の庚甲し侍りけるに松風入夜琴といふ題をよみける

琴の音に峯の松風かよふらしいつれの緒よりしらへるめけん

續古今

入道前大政大臣

雪のわたしのゝみやにて

榭さす柴の垣穂のかすくに猶かけろふる雪の白ゆふ

玉葉集

潔子内親王

のゝみやより出給ふとて

すゝか川八十瀬の波はわけもせて渡らぬ袖のぬるゝころ哉

上件ノ咏ニテのゝみやに齋宮云云齋宮ハ内親王ヲ指ス八十瀬波わけもせて云云今ノ齋宮ニ

入玉ヲヨリ以前ノ稱ナリ 此野ノ宮ニテ眞ノ齋王宮ト稱スルニ非スナリ居ノ宮ノ名ナリ玉
葉集詞書ニ西四條の齋宮のもとに花につけてつかはしけるとノスルハ西四條ノ假宮ニノ其
方地ヲト占ノ定置ル處ナレハ其帝王ノ世ニ變リテ一處ノ地ニ非ス本州ノ齋王宮ハ官舎玉室
ナリ訛ヲ正スヘシ又方俗其齋宮ノ森ト稱スルノ東ニ齋王宮ト稱ノ二處ニ分ツト云然レモ訛

ナリ齋王齋宮別處ニアラス今檢スルニ齋宮ノ舊址ト稱ノ街道ノ東ニアル處ハ其宮ノ背ナ
 リ上古ハ街道モ異ニ今ノ地ヨリ良位一志郡一志驛飯野郡立利清水高木本郡坂本ヲ經テ齋
 宮ニ入ルノ順次ニシテ其東ヨリイマルヲ正路トス今ト異ナリ今齋王宮ノ森ト稱スル地ハ良
 位ニ去四丁許鳥居ヲ標シ額ヲ掲タリ所俗ノ所作ニシテ此地ヲ齋王ノ居シ玉ヲ殿舎ノ跡ナ
 リトス古跡ト稱ス此森ノ前路ヲ經テ北ノ口ヨリ入ルヲ舊路トス又齋王退下ノ所ハ森ノ南ノ
 路ヨリ出即南門ナリ中右記曰永久二年公卿勅使條云二月二日午刻過齋宮北面方神寶通南門
 前ト是ナリ 延喜齋宮寮式曰凡天皇即位者定伊勢大神宮齋王仍簡內親王未嫁者卜之又遣使
 奉幣大神宮爲告卜定齋王之狀也凡齋內親王定畢即卜宮城內便所爲初齋院祓禊而入至于明年
 七月齋此宮更卜城外淨野造野宮畢八月上旬卜定吉日臨河祓禊即入野宮自遷入日至明年齋於
 此宮九月上旬卜定吉日臨河祓禊參入於伊勢齋宮凡齋內親王臨預定監送使參議一人 或以中納
 辨一人史一人六位以下官下一人齋內親王發日所司預設御座大極殿天皇御後殿神祇官五位中
 臣進御麻時刻御大極殿齋內親王下輿入就殿上坐事訖向大神宮 西宮記云著唐衣裳玉鬘等天
 皇以小櫛加額 今詳ニスルニ齋宮ハ王者親テ神ヲ祀リ坐スルノ齋居ノ殿ノ稱ナリ日本神功
 紀云更造齋宮於小山田邑三月壬申朔皇后選吉日入齋宮親爲神主小山田ハ大倭州ニアリ神功
 皇后ノ齋居ニ此ノ齋宮ノコニアラス倭姬命ノ齋居スル處ハ日本垂仁紀云其祠立於伊勢國

因與齋宮于五十鈴河上是謂磯宮云云其後五百野皇女群行以往歷代皇女奉仕殿宇ヲ齋宮ト稱
 シ其舊址ハ今ノ此處ニアリ類聚國史曰天武天皇二年夏四月丙辰朔己巳欲遣待大來皇女子于天
 照大神宮而令居泊瀨齋宮是潔身稍近神之處也是城外淨野ニ所造ノ野宮ニ又上古齋宮ト稱
 ス名ノ始原ニ今ニ於テ齋宮ト稱スハ本郡此地ニ舊名ヲ存スルニ止レリ 西土所謂周語曰
 王者即齋宮 卓氏藻林曰漢雋齋宮天子居齋之所 後漢書周澤傳曰嘗臥疾齋宮其妻哀澤老病
 闕問所苦 倭姬命世紀云活目入彦五十狹茅天皇廿六年丁巳冬十月甲子當奉遷于天照大神於
 度遇五十鈴河上 留中寮 爾時皇大神倭姬命 乃御夢相諭宣 吾高天原仁 坐長戶押張原如見見志
 間敷 爾國々大宮所 是所在鎮 利定給 止覽給 支于時倭姬命並御送驛使安部武停河別命和珥彦
 田尊命中臣國摩大鹿島命物部十市根命大伴武日命並度會大幡主命等 爾御夢狀 於具令教知給
 支于時大幡主命悅白 久神風伊勢國百傳度會縣 乃佐古久志呂五十鈴宮 爾鎮里 定里 給止 國保 支
 給 支于時送驛使朝廷 爾還詣上倭姬命 乃御夢 乃狀 乎細返事白 支爾時天皇聞食 大鹿島命 乎祭
 官 爾定給 支大幡主命 於神國造兼行大神主 氏定給 支神館 乎造立率物部八十友 乃詣人等率雜々
 乃神事 乎取奉 留大玉串 乎供進因茲與齋宮宇治縣五十鈴河上大宮 乃際 爾令倭姬命居坐焉 同
 記齋頭曰天照大神誨倭姬命曰是神風伊勢國即常世之浪重浪飯國也傍國可憐國也欲居是國故
 隨大神教其祠立於伊勢國因與立齋宮于五十鈴河上是謂磯宮 類聚國史此文ト相同シ此トス

デニ本宮ノ傍ニアリ然レ正同紀即建八尋乃機屋令天棚機姫乃神乃孫八千々姫命令織大神乃御衣營猶在天上之儀焉謂号宇治磯殿是一名磯宮也ノ注ニ據レハ磯宮ノ稱ハ齋宮ノコニアラズ機殿ノ名稱ニ似リ然レ正後條ニ倭姫命老耆ニ及テ五百野皇女ニ代ラシメ自ハ磯宮ニ座ノ據アリ然レハ宮居ノ意ニ相シキ據テ磯宮ヲ齋宮ノ別名ニ惟ヘルニ據レリ同紀大足彦忍代別天皇景行廿年庚寅歲爾倭姫命年既耆老不能仕奉吾氏奴止宣氏齋内親王爾可仕奉物部八十氏人々乎定給天十二司寮官等乎波奉移五百野皇女久須姫命即春二月辛巳朔甲申遣五百野皇女皇大神乃御杖代止志天多氣宮乎造奉天齋慎美令侍給伎伊勢國齋宮群行始是也爰倭姫命波宇治乃機殿乃磯宮在坐居給江里奉日神乎祀古止無倦焉續日本後紀云承和六年癸未日災于伊勢齋宮燒官舎一百餘宇遣左衛佐從五位下田口朝臣房富費絹百匹綿三百屯調布五十端存問齋内親王十二月己酉朔庚戌遣參議從四位上行春宮大夫兼右衛門督文室朝臣秋津奉珍幣於伊勢大神以齋宮燒損也類聚國史云天長九年九月依多氣齋宮遠離大神宮每度無使卜定度會離宮以爲齋宮焉今依火災卜定多氣宮地可爲常齋宮之狀同令此使祈申於大神宮齋王ノ次第ハ五百野皇女ヨリ後四百八十四年第九十代後宇多天皇皇女辨子内親王ニイタリ七十一王奉仕ナリ六十三女ハ皇女十一女ハ親王ノ女通計七十一世後醍醐天皇皇女祥子内親王ニイタリ元亨ノ一女ハ度會小事ノ女ナリ

亂ニ及テ群行ナシ前齋王ト稱シ南朝ニ長慶門院ト稱ス此馭宇ヨリ齋宮群行ハ斷絶シテ今ノ廢地トナレリ度會清在每事問云凡テ豐鋤入姫命ヨリ起テ祥子内親王ニイタル七十一代ナリ例文或先規錄等ニ七十三代ト記スルハ誤ナリ又天子一代ニ齋王必一人任定スルキハ七十一世ニ限ルヘカラスト答云用明天皇皇女酢香手姫敏達天皇十四年ニ任シ推古天皇二十九年マテ奉仕シ玉ヒタル後舒明皇極孝德齋明天智ノ五代ノアヒメナル故ニヤ齋王中絶シケリ故ニ一代要記云齋宮自此五代中絶云云

山家集

西行

いつかまたいつきの宮のいつもれて御住連のうち塵を拂ん
 今稽ルニ圓位上人ハ後白河天皇建久中ニ至リ存世ナリ然ルニ其詞書云いせに齋王おはしまさて年經にけり齋宮木立はかりさうと見へてついで垣もなきやうになりたりけるを見てト載ルハ妄ナリ第五十八世亮子内親王保元元年ニ齋王ニ立玉フヨリ第六十三世潔子内親王建久九年退下ニイタリ四十二年ノ間齋王斷絶ノ事テ無シ何ニ據テ此咏ヲ載ノ又注スルソヤ其謬ハ五十八世亮子齋居三年群行ナシ第六十世休子同前群行ヲ不遂シテ薨セリ第六十一世功子同前群行ナク三年齋居ノミナリ凡テ九年空居ノ事趾アリ此等ヲ斷絶ノ如ク惟ヘル注者ノ辨論ニヤ其是否ヲ不詳ソノ世ニ存スル上人ノ注ニハアラサルヘシ

全

爲家

思ひやる齋の宮はあとふりて花咲残るかきつはた哉

長明家集ニモノセタリ是祥子内親王ヨリ後ノ廢絶ノ遺址ヲ詠セシナリ 今本邑ヨリ良位古
路ト稱スル處ノ二十町ノ沼ニ花當浦ノ地ニ布テ多ク生スル處アリ花事ノト紫雲ノ裏ニ遊フ
カ如シ近世騷客文人多ク看觀シテ賞ス方俗ドンド花ト稱セリ其地ノ方言ナリ或云コレ雜記
所載花園ノ舊址ノ遺種ナルヘシ然リ夫木爲家ノ咏ニ暗ニ合ヘリ 今齋宮ノ森ト稱スル舊址
ハ方四町許ナリシモ今ハ縦ニ長五十間横二十間許ノ松林ニ黒木ノ鳥居ヲ建タリ其中ニ古池
アリ是木ノ葉池ノ趾ナリト云又拾遺云御河池有明池アリト稱ス御河ハ齋宮ノ御溝ニ其混
ノ深キトコロヲ云ナルヘシ然レハ此宮域ノ内ニ有ヘシ

齋宮家集

ことしかひの御河の池のあやめ草長きためしに人もひかなん

又有明池ハ其舊址トテ本邑地藏院ノ境内ニ小沼ヲ指テ稱セリ傍ニ碑ヲ建タリ
不可得求心叟

いにしへも今もかはらて有明の池には月の影も残れる

其尙古ノ咏藻ハ貴ヘシ然レモ其地ノ是否ハ未詳 本朝語園曰延久年中伊勢齋宮ノ畔ニ狐ヲ
神体ニシタル詞アリ村民是ヲ祭テ怖ル其狐矢ニアタリ疵ヲツク或ハ既ニ死ス此射タルモノ
科アリシト諸卿論レ之師大納言經信卿曰白龍之魚勢懸諸之密網トハカリ云玉コレハ射タ
ルモノ、科ニアラス出タル神ノ誤リニ治定ス云云 史館若話曰延久年中伊勢齋宮寮畔有狐

祠邑民祭之如神其狐偶中矢而傷云云 百練抄卷五後三條天皇延久四年十二月七日藤原仲季

勘罪名配流土佐國於齋宮邊依射殺白專女也 今詳ニスルニ白專女ハ神祇拾遺云稻荷神宇賀

御魂^中伊弉諾尊^上伊弉册尊^下專女ニ狐ノ由縁ニ據テ本狐ヲ安置ス又鎮座傳記云宇賀美多麻

神三狐神同座神也故名專女神又類聚神祇本源云專女ニ狐神又新猿樂記云伊賀專女又河海抄

云伊賀國ニテハ白狐ヲトウメ御前ト云今稻荷ノ神前ニ今俗白狐ノ像ヲ置ハ此謂ナリ鎮座本

紀云宇賀美多麻神是伊弉諾尊伊弉册ニ桂尊ノ所生又日本書紀神代篇云伊弉諾尊伊弉册尊

飢時生兒号倉稻命ウカノミコト、訓ス今稻ルニ宇賀美多麻ヲ是等ノ説ニ據テ齋宮ノ畔ニ

祀ルニ其本祠ハ此後ニ廢類ノ今度會多氣飯野三郡ノ内舊豪ノ家ニ庭砌ニ多ク白狐ヲ祀ル

小祠アリ神宮ノ地舊家ニモ多シ此齋宮ノ所祀ニ倣ヒテ所祀ナルヘシ延享年中ノコロニイ

タリ五月ノ晚昏ニ麥藁ヲ戸々ニ三日ツ、焚ク何レヨリ始ムト云ヘルコトモナク又觸告ルコトヲ

ナシ三日ニ及又不過一モアリコレヲ稻荷殿ノ御參宮ト稱ス其由來ヲ不詳度會郡ノ村邑及神境ニモ然リ其後度會ノ村邑ニ六月ニ蝗ヲ送ルト稱ノ三日ノ間炬火ニテ田間ヲ鼓吹ノ農民ノ徘徊群集スルアリ神境モ又然リ其稻荷神ノ參宮ト稱スル俗諺ニ相同シ其遺事ナルヘシ度會清在園爐閑談ニモ載タリ 齋宮舊址ノ南ニ天神ト稱ス祠アリ街道ノ傍ニ黒木ノ鳥居ニ奇異ナル繩ヲ以テ籠ノ如ク垂ル注連ヲ引リ鳥居ヨリ八町東ニ本祠アリ是鳥居ノ正面ハ本祠ニイタルノ間齋宮方域四町ノ内ニノ築垣ノ中央ニノ所謂天神ハ齋宮寮官社十七社ノ内ナルヘシ其南街道ノ傍ヲニ書馬堂ト稱スル小宇アリ異説區々ナリ按スルニ方域四丁ノ内ニシテ背面ノ傍ニ寮馬ヲ置ル廡ノ舊址ナルヘシ宮廡ノ所置トシテソノ他ノ背ヲ容ルニ及ハス 本邑及竹川等ノ村邑ニ菅笠ヲ製シテ土産トシ四方ノ詣人ニ鬻ク齋宮笠ト賞ス今稽ルニ治承四年庚子九月鎌倉幕府頼朝アリ長史彈左衛門藤原頼兼ニ判物二十八ヶ條ノ内笠縫モ長吏ノ配下タリト見ヘタリ然ルニ本邑ノ笠縫ハ内宮延曆儀式帳ニ云御笠縫内人ノ神職コノ處ニ居シテ調進スルトコロニシテ後世古ヘニ倣テ四方ニ貨買スルトイヘトモ長吏ノ配ニ預カラサル處ナリ 或云往昔齋宮ノ坐セシキ毎年十二月晦日ノ夜大禊アリテ幣馬ヲ献セシ例ニ任セ齋宮廢絶後書馬ヲ以テ代リニ献ル遺事ナリ今世俗神社ニ幣馬ノ代リニ書馬ヲ献スル權輿トスル處一説ナリ

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之四終

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之五

笛川 齋宮繪馬堂ヨリ半町許東南ニ渠溝ニ小橋ヲ架セリ今笛川橋ト稱ス細流ニノ河ト云名ニモ非ス今古ノ差ナルヘシ新刊名所圖會云此邊ニ佐々夫江ノ森アリシ故ノ名ナリ業平中將齋宮下密通ノ時相圖ノ笛ヲ吹シヨリ名起レリト云 今稽ルニ新奇ノ俗説ナリ佐々夫江本郡トイヘ此地ニ非ス源義經ノ妾靜女ノ笛ヲ調セシ處ト拾遺ニ所載ヲ倣テ僻説ヲ設タルナリ

散木奇哥集

俊頼

いせの齋宮に侍る頃石なとりの石あわせといふ事をせさせ賜ひけるによめる

笛川のいしなとりつゝ見へつるは音に萬代を吹なかせとや

名寄

常盤なる竹の都の石なれはうれしきふしもかるへてろける

此哥モ齋宮石合ノ時ニ相同シ

建長八年百首歌合

音に立て恨みやせまし笛川の瀬による竹のかのかうきふし

雜記所載ハ名寄ニアリトス

名所拾遺注云 此哥判者實俊朝臣云笛川の瀬により竹一ふしありてめつらしく聞ゆ侍れ文

選長笛賦龍鳴水中不見已截竹吹之聲相似といへり今此寄是を思へるにころ尤優美哉かなど云云

百十

蓮光寺 官道ノ右傍齋宮舊址ノ西ニアリ小堂ナリ一丈ノ阿彌陀ノ像ヲ置ク舊記所見ナシ新刊名所圖會云度會郡中村菩提山ニ天平神護二年丈六佛ヲ造ル弘長二年ノ燒亡ニ同郡小俣村大佛山ニ持行キ後ニ此處ニ安置スト云 今稽スルニ度會郡中村神宮寺ノ本尊ハ今ニ其寺ニ存セリ又續日本紀所載ノ大神宮ニ奉納ノ佛軀ハ今其所傳ヲ詳ニセス神宮寺ニ存ス處トイヘ凡其徵モ得ス此蓮光寺ニ所置ハ稍ク一丈許ニ及ヘリ前説未詳ナリ又此堂供養ハ應永中國司北畠家合戦ノ時戰死ノ士追薦ノ爲ニ所造ニ佛背及足跣座ニ數十人ノ連署ノ逆修アリ 齋宮ヨリ離宮院ニイタル舊路ハ此蓮光寺ノ傍ヨリ西ニ到リ下有爾村ニ出テ本教寺ノ前チ東ヨリ南ニ折テ湯田郷大佛山ノ麓チ過リ湯田村ニ至テ離宮ニ入ル本路ハ今ノ小俣ヨリ至ルニハアラス湯田ヨリ北西ノ間ニ其院ニ入ルヲ正路トセリ前ニ所載松坂府ヨリ山田ニ至ルノ今ノ街道ハ上古ノ正路ニハ非ス其今古ヲ聞ノ其方位ヲ正シ辨論スヘシ

中村 齋宮ノ南ニアリ中有爾ニノ都テ以下三邑ヲ有爾郷ト私稱ス有爾ノ名義ハ丹土垣土ノ謂ナリ 正稅七百五十石神領ナリ 文祿三年豐臣氏檢地免除 竹川四百石 齋宮千七百五十石 上野五百十石 有爾ノ中村七百五十石 平尾百卅石 合三千五百四十石ノ内ナリ 惣

有爾ト稱ス

式内大海田水代大刀自神社 同處ニアリ 舊名宇田今方俗小清水ト稱ス小キ叢林ニ坐ス祭神未詳 度會延經神名帳考證云天海田水代大刀自神社海神豐玉姬命天當作大齋宮式云大海田社同之白當作自倭名鈔云謂老女爲負和名度之水代言掌水古事記云綿津見大神曰見作高田者汝命營下田吾掌水在齋宮南宇田即櫻社之北也宇田海田之畧語 度會正身神名帳再考證云天海水代大刀自神社齋宮式ニ大海田ニ作ル天字ハ大ノ誤ナリ又考證ニ白ハ自ノ誤ナリト云是ナリ大海田ハ此邊ノ田深ノ廣ケレハ海ニ准ヘル地名ナリ水代ハ御刀代ノ畧濁御刀代ハ神田ヲ云外宮儀式帳ニ根倉物忌無位石部稻依女及高宮物忌無位神主種刀自女ノ職掌ノ下ニ御刀代田チ作り始シ老女チ大刀自ト云ヘリ地主ノ神チ祭ル例櫻大刀自ノコトシ社地齋宮ノ舊跡ノ宇田サシラノ宮ノ北ナリ此宇田ハ海田ノ假字ナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ天海水代大刀自神社ノ名義ニ據テ延喜齋宮式ニ大海田社ト作ルキハ大海田ニ作ルヘシ世本神名式大刀自ニ作ル誤ナリ大刀自トス刀自ハ老女ノ謂ナリ古事記ヲ引徵ノ綿津見神其兄ニ啓之言ノ下ニ吾ハ水ヲ掌ントアルニ據テ水代ハ掌水ノ言ナリ掌水大刀自ト云ニ據テ海神豐玉姬命チ此ニ祭レリ社地ハ海田ハ今宇田ノ轉畧ニ據テ齋宮ノ南宇田ノ地ナリト云注ナリ又正身再考證ハ大海田ハ此地ノ水田チ海ニ譬タル名ニ水代ハ即御刀代ノ畧濁ナリ外宮儀式帳ヲ引據ノ

百十一

石部稻依女等ノ御刀代田ヲ佃リ始メタル老女ヲ此地主ノ神ト奉祀セルナリ朝熊神社櫻大刀自神ノ例ノ如シト云解ナリ 愚按ニ前考證大海田大刀自ノ誤字ヲ看破スルハ是ナリ古事紀海神ノ言ニ據テ海神豊玉姬命ヲ此ニ祀ルト云ハ牽強臆度ナリ從ヒ難シ正身徑考證ニ大海田ハ此地ヲ海ニ譬ヘタリト云既ニ豊宮崎大海原ト古典ニ稱ス如ク其水田ノ廣深ヲ譬喩スル例多シ其地ニ御刀代田ヲ佃リ始ム處ノ遠祖ノ大刀自ノ神ヲ祀レリト云ハ卓見ナリ從フヘシ然レモ其神名ハ未詳式社案内記祭神豊玉姬命トス非ナリ竜照近神名帳考正ニ齋宮ノ南宇田ニ坐ス櫻宮ノ北ナリ是前考證ニ從ヘリ今檢スルニ櫻宮ノ北三町ニアリ勢陽雜記云宇田ハ齋宮ノ南有爾村ノ乾ニアル田畠ノ字ナリ二千石許ノ領處ナリ今宇田ト云里ハナシ齋宮竹川有爾等ノ里ニ據テ耕作スルナリ散木和哥集伊勢ノ齋宮に侍る頃宇田といふかたに曙に鴨の羽ねかく音のしけるを聞てよめる

曙の宇田の畦よりたつ鴨のはねかく音や万代の數

勢陽雜記ハ名寄古屋草紙ニ夫木集ニ載ルトス前ニ云宇田ハ村里ナシ田ノ小字ナリ其社地ヲ聞ルニ有爾郷ノ中村ニ屬ス宇田ノ田間溝渠ニ小叢林アリ方俗小清水ト稱ス祭神ハ後再考證ニ從テ其名ヲ未詳トス後昆稭考スヘキナリ

式内宇爾櫻神社 中村ヨリ北八町同世古村ノ東ノ山ニ坐ス 祭神天德日命 度會延經神名帳

考證云宇爾櫻神社木花開耶姬命按與開耶言通穀木靈也今在有爾中村之北稱櫻社 度會正身神名帳再考證云宇爾櫻神社有爾郷ハ古來贊土師ノ居ル處ナレハ土師ノ祖ヲ祀ルアルヘシ日本紀第一天穗日命是土師連等ノ祖也トアリ宇爾ノ名義ハ大垣ニテハヲ零シカノ用ラナリ此例前ニミヘタリ櫻ハ假字ニテ前村ナリカミノ切クナリ今祀ル地ハ中村ノ北ナリ中村ト云ハ前徑アルノ名ナルヘシ南面ニノ北ハ前ナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ宇爾櫻神社ノ名ニ據テ木花開耶姬命ヲ祀ルト云ハ牽強ナリ正身考證ニ前村ニ有爾ノ土師遠祖天穗日命ヲ祀レリト云ハ至當トスヘシ其故ハ今中村ノ名アリテ前後ノ地名ナシ其地ヲ圖スルニ或云中村アリ乾位八町許世古村ノ東ノ丘ニ座ス處ナリ神殿ナシ式社案内記ハ有爾中村ノ北ニアリ護村宇爾神社ヨリ乾位十町ニ坐スト云非トスヘシ中村ハ本郡ニ二邑一ハ土羽村ノ坤位ニアリ一ハ上野村ノ乾位ニアリコレ有爾郷ナリ前ニ云護村ヨリ巽位ニアリ乾位ニ非ス今云世古村ハ前村ニ下有爾アリ是後村ニシテ其中間ニ居ス故ニ中村ナルヘシ然レハ今世古村ノ東丘ニ在ル處ヲ眞トスヘシ各後考證ニ從フヘシ前證及式社案内記ニ今中村ノ北櫻宮ト稱スニ填レハ未詳トイフヘシ猶後稽ノ訂正スヘキナリ

護村 中村ノ東ニアリ 正稅四百八石紀州田丸領ナリ 護村ノ名義ハ今齋宮村ニ御笠總ノ内人ノ餘裔ノ遺習ナルヘシト憶フニ據テ又此ニ護村ノ名アルハ御護チ神宮ニ献タル遺事アル

ハシ今其ノ亡シ不知トイヘテ御笠縫ニ近キ村邑ナレハナリ内宮儀式帳御笠縫内人無位乙部
淨磨右人ト食定補任之日後家被清齋慎供奉職掌御笠二十二蓋御糞廿領忌敬供奉具頭月記條
云 外宮儀式帳云御笠縫内人無位石部宇磨右人行事ト定任日後家雜罪事被淨 氏 大神乃御
笠御糞高宮御笠御糞并所管神社二十四處神御笠御糞 乎 作儲 氏 每年四月十四日奉進又三節祭
雜行事他内人共供奉 云又四月例條云此十四日御笠縫内人作奉禮 留 御笠御糞進奉始大神宮
高宮次諸所管神社廿四處奉進

式内宇爾神社 同處ニアリ方俗羽根美社ト稱ス 祭神填守神 度會延經神名帳考證云宇爾神
社填安神土靈宇爾與波爾言通世記云隨尺神之訓土師物忌 乎 定置取宇仁之波邇造天平土在
同鄉同村稱埴社 度會正身神名帳再考證云宇爾神社埴安神ヲ祀ル此里人世紀ノ故事ニ依テ
天平瓮ヲ造リシカ今ハ其形狀ヲ不知朝夕ノ御饌調進ノ土器ヲ作リテ外宮ヘ獻スレハ其翁靈
ヲ祭ルコト明ナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ宇爾神社ノ名義ニ據リ宇爾ト波爾ト言通ス即倭
姫命世紀宇仁之波邇ヲ取テ天平瓮ヲ造ルノ本據ニ因テ埴安神ヲ奉祀スル處ニ同鄉同村ニ
アリ埴ノ社ト稱スト云正身再考證前證ニ倣ヒテ異ナシ土靈ノ神ヲ祀ル處明亮ナリト解セリ
愚按スルニ延喜式内ニ宇爾神社有貳神社字ハ異ニ訓ハ一ナリ其本郡ニ二處ニ祀ル處ハ怪
ムヘシ然レモ其祭神ハ異ナルヘシ宇爾神社勢陽雜記ハ宇爾村ニアリトス然レモ宇爾ハ惣名

ニノ村邑ハ區別アリ妄ナリ勢陽拾遺ハ宇爾中村ニ坐トス非トスヘシ前考證同鄉同村ニアリ
トスルモ孟浪ナリ竜照近考正ハ宇爾櫻神社同域ニアリト云式社案内記ニ宇爾鄉櫻村ニアリ
今明根美社ト稱ス方俗稱スル處羽根ハ埴ナリヘシ是宇爾波爾ノ轉ニ據レリ然レハ宇爾神社
ニ必セリト憶ヘリ名所圖會ニ上有爾ニアリトスルハ妄ナリ祭神天穗日命トス既ニ前條宇爾
櫻神社ニ所祀ニ此ニ載ス同神ヲ二處ニ祀ルヘキ謂ナシ此神社ニ所祀ハ前考證ニ從テ贊土師
ノ崇敬スル處ニ埴安神ヲ真トスヘシ式社案内記ニ後條有貳神社モ埴安神ヲ奉祀スルト云
二處ニ同神ヲ祭ル處猶詳ナラス此ニ脚躰セリ然レモ延經考證ニ發明セリ此ニ從フモハ前輩
ノ所說各非トスヘシ有貳神社ノ條ニ注セリ今宇爾神社ハ前考證後考證ニ倣フテ埴安神ヲ所
祀ニ從ヘリ

式内國生神社 同處東位字鳥墓ト云有貳社ヨリ南三丁ニアリ 方俗天王ト稱ス 祭神倉稻魂
命 度會延經神名帳考證云國生神社内宮儀式帳初神郡度會多氣飯野三箇郡 下ニ難波長柄
豊前宮御宇有爾鳥墓村造神序 氏 爲雜神改行仕奉 支 而難波朝廷天下立評給時以十鄉分 氏 度
會山田原立屯倉トアレハ高河原ノ神序以前ハ此有爾ニテ神序ハ即國府ナリ祀神宇賀御魂命
ナルヘシ河原座國生ト此社ト一例ナリ狹田坂手及間國生ニ祀ル處又一例トス社地鳥墓村ノ
古名今ニ存スルヤ否テ不知 今詳ニスルニ延經考證ニ國生神社ノ名義ニ倣式帳ヲ引據ノ國

生神ノ兒大國玉命ト云キハ大國玉命ハ素盞鳥尊ノ子ナレハ國生神ハ素盞鳥尊ニノ國生ノ名ニ應ノ此ニ所祭ト云ナリ楠ハ國津ノ零語ニノ今下楠村ノ産神方俗八王子ト稱スナルヘント云解ナリ正身再考證ハ國生ハ國府ト同訓ノ義ニシテコフト云内宮儀式帳ヲ引テ難波長柄豊前宮ノ朝ニ多氣郡有爾鳥墓村ニ神序ヲ延神政ヲ執行ヒ難波朝廷^仁度會山田原ニ屯倉ヲ建ルト載ルニ據レル山田ノ高河原ニ建ル前ハ此有爾村ニアリテ神序ノ地ハ即國府ナリ神稅ヲ收藏スル處ナレハ倉稻魂命ヲ必ス祭ルヘシ河原坐國生神社モ神序ナレハ同例ニシテ其餘狹田國生坂手國生大間國生神社ノ號モ其國ノ府ナル故ニ其地名ヲ上ニ冠シメテ稱スルナリ悉ク神序屯倉アルニ非レ^レ其地ヲ上古ハ鈴鹿國伊蘇國ト世紀ニ載シ如ク狹田國坂手國ト稱ノ其邊ノ第一ニノ國府ト稱スルヲ國生ト訓ス假用スル處ノ例ハ同シト云義ナリト釋セリ愚按ニ國生ハ國津ニ同シカラス國生クナリト訓スルモ本訓ニ非ス國府ノ義ニノクニフト呼ヲ是トスヘシ然ルキハ前考證ニ楠ハ國津ノ略ニノ下楠村産神八王子ニ充ツハ從ヒ難シ猶國生神ハ素盞鳥尊定僻見ナリ既ニ狹田坂手大間各國生ノ名アリテ其神ハ異ニノ素盞鳥尊ニ非ス總テ二宮ノ所攝ノ神社ニ國生ト稱スルハ前ノ國府ノ義ニノ其地ニ屯倉ヲ置處ヲ掌シ神也然レハ素盞鳥尊ニ定祀スルニ非ス此ニ標出スルハ宇爾村ノ屬ニノ藪村ニ所在ニ定ムヘシ是狹田坂手ニ同ク宇爾ノ國生ノ地ニ所建ノ神社ナルハ再考證内宮儀式帳ヲ引テ有爾鳥墓ニ神序ヲ

造ト云ニ據テ此地ニ神社モ所建ナルヘシト云ハ卓見ナリ此ニ從テ今藪村ノ東ニ在ル方俗天王森ト稱スルヲ充ヘシ式社案内記モ此ニ同シ然レ^レ祭神素盞鳥尊トス其社地ハ發明スト云ヘ^レ祭神ハ前考證ニ從ヘリ未真ヲ得ス竜淵近神名帳考正ニ國東山白山權現ナルヘシト云是祭神素盞鳥尊ト云考證ニ從ヒテ國生ハ國東ノ名ニ適ヘリト憶フニ據レリ國東山ハ度會郡ニ係レリ本郡ニ非ス殊ニ郡界ニ遼遠ニノ混ス可ニ非ス前ノ下楠ト云モ本郡ニ屬スト云ヘ^レ其地ハ遼遠ニノ延喜式社ノ有スル處也各從ヒカマシ鳥墓ハ或云齋宮村ノ舊名ト云非ナリ其真ハ未難得ト云ヘ^レ孰レ宇爾郷ノ内ニノ疑クハ藪村ノ東天王ノ地ナルヘシ祭神ハ方俗牛頭天王ト稱スルキハ素盞鳥尊ニ通シト云ヘ^レ後世他社モ八王子牛頭天王ト俗稱スル多シ真トシ難シ猶國生ノ號アリト云ヘ^レ國府ノ義ニ從ヒテ屯倉ノ所建トス狹田坂手大間ト同神ニ非ス掌穀ノ神ヲ祀ルヘシ再考證ニ從ヒテ倉稻魂神ヲ奉祀スル處トスヘシ姑ク是ニ從ヒテ別ニ替テ容ルニ及ハストイヘリ

式内大國玉神社 度會延經神名帳考證云大國玉神社大己貴命一名也今上楠村産社稱明神此乎度會正身神名帳再考證云大國玉神社考證ニ此ニ社上楠村下楠村ノ産神歟ト記セリ按スルニ以上ノ例ハ國府大國玉ノ上ニ地名ヲ冠ラセ^レ此ニハ不然有貳社ト並載タルニテ有貳國府ノ神社ナルヲ知ヘシ大國玉モ此例ニ准ス神名未考地主ノ神ナルヘシ 今詳ニスルニ延經

考證ニ大國玉神社ノ名義ニ據テ大國玉ハ大己貴命ノ一名ナリ故ニ此ニ祭祀スル處ニ前ノ國生神社ニ素盞鳥尊ヲ祀ル處ナレハ此ニ其兒大己貴命ヲ祀リ下楠ニ素盞鳥尊ヲ配シ此ニ大己貴命ヲ合ス上楠ノ産社方俗明神ト稱スル處ナルヘシト云意ナリ正身再考證ニ考證ニハ上ノ二社上下ノ楠村ニ祭ル處ナルヘシカモ然レモ前ニ所載ノ度會大國玉狹田坂手大間河原坐國生神社ト云如キ各地名ヲ上ニ冠ムル例ナレモ此神社ハ國生トノミ云處ハ前條ノ有貳神社ノ其次ニ並載タルカ故ニ他ノ例ニ准フ云キハ有貳神社ト云ヘキナリ然レハ此ニ習ヒテ大國玉神社モ有貳大國玉神社ニ其地主ノ神ヲ所祀ナルヘシト注セリ愚按ニ延經考證ニ前ノ國生社ニ素盞鳥尊ヲ祀ルト云ニ從ヒテ此神社ハ其兒大國玉命ヲ祀ルト云義トイヘモ前ノ國生社ニ素盞鳥尊ヲ祀リ下楠ニ在ト云テ排斥ノ從サレハ此神社ニ大國玉命及上楠村ニ在ル處ト云モ從難シ再考證ニ有貳國生大國玉神社ト次第ノノスル處度會大國玉神社ノ例ニ准フ有貳大國玉神社ト稱スヘキヲ畧スル處ト云ハ各卓見ナリ從フヘシ故ニ其地ヲ閱スルニ有爾三郷ノ間ニ指ヘキ社域ナシ式社案内記云大久保村ニアリ今云辨天ト云ニ從ヒテ考ルニ度會郡ニ屬ノ蛇野神社及鴨神社ニ近シ各神名式度會ニ隸ノ本郡ノ有スルニ非ス其地二郡ノ界ニモアラズ邈ニ遠シ前ニ駁雜スルノ例ニ異ナリ然レハ其杜撰ナルヲ知レリ從ヒカマシ故ニ此神社ノ地及祭神ヲ詳ニセス然レモ孰レ有貳神社ニ並ヒ祀リテ宇爾此村ニ邇キ處ニ其社域ハ

ルヘシ其地ニ失ヒテ當今知カタシトイフヘシ後考證ニ地主神ヲ祀ルナルヘシト云モ然リ其社域ヲ不知ハ其祭神ヲ定ムヘキ由ナシ猶此ニ闕如ノ後稽ヲマツモノナリ

式内石田神社

祭神豐宇氣姬命有爾石田ノ地ニ係テ其舊然ヲ得スト云ヘモ此ニ標出ス 度會

延經神名帳考證云石田神社出雲國風土記云伊弉志都幣命世紀云御饗奉神參相 支國名問給白

濱真名胡國 止白其所真名胡神社定賜長久元年齋宮歌合歌白良濱濱田村産社此乎 度會正身

神名帳再考證云石田神田考證ニ濱田村ノ産神乎又宇爾村ノ田ノ字ヲ石田ト云姫神ト云處アリ

トト記セリ按ニ社地此處ニノ祀ル神豐宇氣姬ナルヘシ田ノ名義アル社三ヶ處流田ハ川ニ接

ヲ窪田也流田上社ハ森ノ邊ノ良田ナリ石田ハ礪礪ノ瘠地ナリ此三等アルコト其意アルヘシ島

田ノ二社ニ三座ヲ祀ルハ是ニ對セシナラン 今詳ニスルニ延經考證ニ石田神社ノ名義ニ據

テ出雲風土記ヲ引テ伊弉志都幣命ノ号ノ似タルヲ合ス又倭姬命世紀ヲ徵ノ皇大神遷幸ノキ

御饗ヲ献ル神參會スルニ倭姬命汝國名ヲ問答テ白濱真名胡國ト言ス其處ニ真名胡神社ヲ定

祀スル處ナリ又長久元年齋宮ノ歌合ニ月かけの白良の濱の白貝は浪もひとつに見へわたる

かなノ白良濱世紀ニ所謂真名胡國ト同ク今ノ濱田村ニ其處々所祭ノ産社ナルヘシト云注

ナリ正身再考證ニ考證ニ濱田村ノ産社ナルヘシ又宇爾村ノ田畝ノ字ニ石田ト云アリト記セ

リ此處ニ石田神社ヲ置ル處ニシテ稻田ノ地ナルハ穀食ノ神豐宇氣姬命ヲ奉祀スルナリト惟

ヘリ流田流田上社石田ノ三社本郡ニアリ卑澤肥良确瘠ノ三等ヲ符スルハ其義深シ故ニ島田神社ニ三座ヲ祀ルハ此對表ナルヘシト釋ス愚按ニ考證石田ノ名ニ據テ伊昆志都幣命ヲ所祭ニ充ルハ牽強ナリ猶倭姬命世紀ニ白濱眞名胡國ト齋宮哥合ノ所咏白良濱ニ合スルハコレナリ然レモ眞名胡神社ハ別區ニシテ石田神社ニ非ルヘシ濱田村ニ石田ト云地名ナシ産土神ノ社ト外ニ小祠一區アリ是眞名胡神社ナリ再考證ニ宇爾村田畝ノ字ニ石田ト云方俗姫神ト稱ス處アリ是石田神社ニ姫神ノ稱ニ應ノ豊宇氣姫命ヲ奉祀スト云是舊ト龍照近神名帳考正ニ所載ニシテ此ニ從ヘルナリ此説是ニ似タリ式社案内記ニ本郡養田村方俗十二處權現ト稱スル社ヲ石田神社ニ充ツ祭神豊宇氣姫命ト云是石田養田名ノ相似タルニ據テ牽合シ考正再考證所載ノ祭神ヲ此ニ倣ヒ配スルトミヘタリ前ニ石田姫神ト稱スルニ據リテ穀食ノ神ニシテ豊宇氣姫命ヲ合スル處ニシテ養田ニシテ適當ニ非ス眞トシカマシ或云養田良位ニ内座村アリ田畝ノ間ニ社宇ノ存スヘキ鬱林アリ然レモ社殿ナシ其地ハ各耕田ニシテ濶邀ナリ後世ニ社地モ耘鋤ノ失ヒタルニ似リト云此モ臆斷ナリ至當ニ非ス勢陽俚諺ニ高木村ニ在トス然レモ本郡ニ非ス飯野郡ニ係レリ其眞ヲ得ス龍照近考正及正身再證ニ倣ヒテ姑ク本郡宇爾石田ノ田間ニアリトス然レモ其地ヲ亡ノ今考索ルニ難シ故ニ此ニ標ノ後稽ヲ俟モノナリ

式内有貳神社 宇爾村本郷ノ乾位ヒサ、池ノ前ニ坐ス方俗三本榊ト稱ス社殿ナシ 祭神忌比賣命 度會延經神名帳考證云有貳神社世紀云采女忍比賣ト造天平賀八十枚今在宇爾郷下宇爾村稱忍比賣社 度會正身神名帳再考證云今忍比賣神社ト云世紀ニ采女忍比賣天平賀八十枚造ルトアリ今詳ニスルニ延經考證ニ有貳神社ノ名義ニ據テ此社域宇爾郷下宇爾村ニアリテ方俗忍比賣社ト稱ス忍比賣ハ倭姬命世紀ニ天平賀八十枚ヲ造ルト載ルニ據テ其神ヲ此ニ祀レルナリト云解ナリ正身再考證此ニ從テ別異ナシ延喜式内ニ宇爾神社有貳神社各同訓ニノ字ヲ換ヘテ二社アリ世紀所載ノ忍比賣此地ノ字仁之波邇ヲ取テ天平賀ヲ造リ始シヨリ土師物忌父天平翁ヲ造リ始シヨリ土師物忌父天平翁及諸土器ヲ造リ皇大神宮別納置及朝夕ノ御饌ノ具ニ供進セシヨリ今ニ至リ此地ノ土人士器ヲ造リ備進スルノ例トナレリ字仁波邇ノ名ハ即丹生埴土ノ義ニシテ此土器ヲ造リ獻スルヨリノ名ニシテ其祖神ヲ此神社ニ祀リ有貳神社ト号スルニ據テ地名モ此ニ宇爾或有貳ノ名アリ有貳ハ遠祖忍比賣命ヲ祀リ宇爾ハ土靈神埴安神ヲ祀ル處ニシテ靈神ト祖神ノ異ニシテ二社ト云仁波邇ニ起リテ崇敬ノ祀ル處ナレハ同名ヲ舉タルナルヘシ然レモ字ヲ異ニシテ混同セサルカ爲ナリ此崇祀ノ義ヲ不詳カ故ニ式社案内記ニ埴安神ヲ此ニモ祭トス古屋草紙ハ土師宿禰ヲ祀ルト云土師ノ所建ナレハ強テ土師宿禰ヲ祭ルト云ヘ共此ニ所據ナシ河曲郡土師村ノ土師神社ノ所由ト此ハ異ナリ各非トスヘシ勢陽雜記宇爾神社ヲ混淆ス此モ詳ナルヲ不得故ナリ式社案内記ニ宇爾村産社ヲ充タリ非ナリ

賣命 度會延經神名帳考證云有貳神社世紀云采女忍比賣ト造天平賀八十枚今在宇爾郷下宇爾村稱忍比賣社 度會正身神名帳再考證云今忍比賣神社ト云世紀ニ采女忍比賣天平賀八十枚造ルトアリ今詳ニスルニ延經考證ニ有貳神社ノ名義ニ據テ此社域宇爾郷下宇爾村ニアリテ方俗忍比賣社ト稱ス忍比賣ハ倭姬命世紀ニ天平賀八十枚ヲ造ルト載ルニ據テ其神ヲ此ニ祀レルナリト云解ナリ正身再考證此ニ從テ別異ナシ延喜式内ニ宇爾神社有貳神社各同訓ニノ字ヲ換ヘテ二社アリ世紀所載ノ忍比賣此地ノ字仁之波邇ヲ取テ天平賀ヲ造リ始シヨリ土師物忌父天平翁ヲ造リ始シヨリ土師物忌父天平翁及諸土器ヲ造リ皇大神宮別納置及朝夕ノ御饌ノ具ニ供進セシヨリ今ニ至リ此地ノ土人士器ヲ造リ備進スルノ例トナレリ字仁波邇ノ名ハ即丹生埴土ノ義ニシテ此土器ヲ造リ獻スルヨリノ名ニシテ其祖神ヲ此神社ニ祀リ有貳神社ト号スルニ據テ地名モ此ニ宇爾或有貳ノ名アリ有貳ハ遠祖忍比賣命ヲ祀リ宇爾ハ土靈神埴安神ヲ祀ル處ニシテ靈神ト祖神ノ異ニシテ二社ト云仁波邇ニ起リテ崇敬ノ祀ル處ナレハ同名ヲ舉タルナルヘシ然レモ字ヲ異ニシテ混同セサルカ爲ナリ此崇祀ノ義ヲ不詳カ故ニ式社案内記ニ埴安神ヲ此ニモ祭トス古屋草紙ハ土師宿禰ヲ祀ルト云土師ノ所建ナレハ強テ土師宿禰ヲ祭ルト云ヘ共此ニ所據ナシ河曲郡土師村ノ土師神社ノ所由ト此ハ異ナリ各非トスヘシ勢陽雜記宇爾神社ヲ混淆ス此モ詳ナルヲ不得故ナリ式社案内記ニ宇爾村産社ヲ充タリ非ナリ

考證ニ下字仁村ニヨリ忍比賣社ト稱ス社ノ字アルニ據テ承應中ハ社宇存セリト憶ヘリ今ハ廢ノ舊址ノミヲ遺セリ其地ヲ閱スルニ宇爾本郷ノ乾位ヒサ、池ノ前ニアリ方俗三本神ト稱ス社殿ナシ或下有爾ノ乾位云其故ハ下有爾ト本郷ノ中間ニアル故ナリ猶土師ノ事實ハ悉ク舊典ヲ引據ノ左ニ標出ス考知ヘシ 雜記所載有爾村土器ヲ產業トス爾大神宮遷宮ノキホウロツテ三千三百三十三ヶ此處ヨリ獻スルナリ又每歲六月十七日九月十七日六月十六日九月十六日此式秘法密ノ苞ト云テ藁ニテ造タル苞一ツツ、爾宮ノ宮殿ヘ獻納セリ此包何タル物ト云コチ人ニ不語獻之者ヲ秘密ノ禰宜ト云子孫相續勤行ス此神祭ノトキ有爾村ヨリ童子十人許雞冠ヲ冠リ爾神前ニヒヨクト云詞ヲ唱フ俗ニヒヨクノ祭禮ト云 御鎮座本紀曰二所大神宮乃朝大御氣夕大御氣乎日別爾齋敬供進奉亦隨大神之訓以土師氏爲物忌職造天平免諸土器類天供進亦開化天皇孫子丹波道主貴苗裔ハ小童女寶殿御飾賜天奉開寶殿亦素蓋鳴尊子冰沼道主率御窺神大神嚴香來雷水戸神嚴罔象女新神嚴山雷御飯炊滿供進奉又曰天平賀隨天神之訓土師物忌父取字仁之波瀾造天平免敬奉諸神宮別八十口柱本並諸木本置之是則天下泰平吉瑞諸神納受之寶器也 寶基本紀曰隨天神地祇之訓土師物忌取字仁口保止伎十五口奈戶三口以上十二口志摩國與伊勢國二國仲界之神祭物庵戶十二口奈戶十二口林井口已上神祭物六十六口度會宮進御食神祭物御庵十五口御庵戶十五口御保止伎十五口御奈戶十五口

御樽十五口御波布十五口御波志十五口御碓十五口御裝十五口已上朝夕御湯貴神物百六十五宮禰宜以下高宮物忌以上合六十八人恰忌庵戶廿七口櫓九口保止伎九口奈戶十八口水戸九口以七十二口同宮倍料水戸十二口水真料六十口高佐良井二口片佐良百廿口以上供給料三百口同四口同宮月別一度進上一年料御食料 御水戸廿四口御高佐良四十八口御片佐良百廿口上真利百廿口御杯三百六十口御保止伎十二口以上御食料器六百八十四口云 陶器作内五十位儀部主磨 古人古食定補任之日後 祓禊齋慎供奉職掌陶器物作進五所宮之雜器物四御水百六十五口御食料御酒缶九口御瓶六口御波佐布六口御比良加廿一口御坏古廿口以上御人無食料器物百六十二口大宮荒乘宮備祭宮伊雜宮並五所之料者祭時之奈保良比供給料酒缶廿一口酒掛六合鹽春六口鹽坏六十口洗佐良六口箸坏六十口已上供給料器物百五十九口止由氣宮仁進上御食料御酒缶六口御瓶六口御比良加十五口御水麻利井合御波布六口已上御食料器六十三口供給料酒缶十五口鹽春三口酒掛六合洗佐良六口鹽坏井合箸掛卅口已上供駄料器九十口志亡國與伊勢國之神界之海山之神之祭物此大神之禰宜内人物忌父等每歲之時退入之湯貴御寶漁祭用物缶十二口天比良加十二口坏卅口已上神祭之物五十口以前器六月祭料九月十二月祭器亦同 神宮雜例集云天平賀造進事御器長兼下有爾村刀禰敢貞元解中進陳狀事依實正陳申御遷宮時爲請代者天平賀彼勤仕子細狀右件事貞元爲敢氏之相傳職任先例可勤進也抑大

中臣一門氏不被兼惣刀禰職志天 無被供奉天平賀勤之事仍注子細進陳狀以解仁安四年三月十五日下有爾村刀禰敢貞元 又曰麻績部敢和爾部此等氏人等天平造調奉 日本神武紀曰有天神訓之曰宜取天香山社中上以造天平瓮八十枚並造嚴瓮而敬祭天神地祇亦為嚴呪咀如此則崩自平伏天皇祇承夢訓依以將行 今詳ニスルニ天平瓮ハ天神ノ訓ニヨリ日本書紀神武天皇天香山ノ玉ヲ以テ造リ天地ノ神祇ヲ祀ル呪咀物ナリ其例ニ倣テ神宮ニモ宮柱ノ根及諸樹根其餘神殿齋宮ニ所置ニノ既ニ攝州住吉神社ノ例祭ニ香久山ノ土ヲ採ル壇使ノ遺事モ日本武紀ニ據レリ又諸帝陵ニモ天平瓮ヲ埋納ノ事アリ寶器ニノ敢テ今ノ食器ニ非ス其造ル所ノ官長ヲ御器長ト稱シ雜例集ニ敢貞元アリ麻績部敢和爾部ハ本郡ノ氏人ナリ續日本紀寶龜六年伊勢國多藝郡人敢磯部思國等賜姓敢臣敢今ノ安部ニ同シ竹田臣大彥命ノ裔ニノ伊賀國阿拜郡敢國神社ニ所祀ニノ本郡竹川村竹神社ニ同神ナリ是土師ノ輩ノ遠祖ナルヘシ斯ル故寶アリテ之波邇造神器並天平瓮敬祭諸神宮別天平瓮八十口柱本並諸木本置之天照大神宮等由氣大神宮別八百口荒祭高宮月夜見宮伊佐波宮瀧原齋宮內親王等儀宮別八十口進之是則天下大平吉瑞諸神納受寶器也 內宮延曆儀式張云 土師器作物忌無位麻績部春舉ノ女父無位麻績部倭人右二人ト食定補任之日後家祓清年中五處神宮供奉敬朝夕御饌器三千三百六十四口御食神物御竈卅二口御己曾岐卅二口與己信卅二口御保止岐卅二口御波佐布卅二口御波志

卅二口御雄卅二口御枳根卅二口御箕卅二口己上朝夕御食之湯貴之神祭物四百六十二口大宮荒祭宮月諸宮瀧祭伊雜宮並五處神宮料所別各祭別朝夕御饌各一具拱給料水戸十二口眞利三百口商佐良二百卅口片佐良三百六十口酒杯五十口己上人給料器一千二百六十二口禰宜以下雜任物忌以上十三人給三節祭別忌竈料竈戸卅二口櫓十五口保止岐十五口保止伎十五口奈戸九口以上器八十七口荒祭宮物忌給忌竈戸三口櫓三 往昔ハ嚴重ノ職也今神務ハ變セストイヘ庄重職ノ官モナシ其五人ノ所務ナリ有爾ノ名ハ寶基本紀所載ノ宇仁之波途ヲトルノ意ニノ宇仁ハ丹土ナリ波邇ト青土ト釋ス赤土ヲ仁ト訓シ京洛ニニソチト訓ス青土ヲ方俗青ハチ或ハチツチト訓セリ青ハニノ轉ナリ執レ土ノ儀ナリ其土器ヲ造ルヲ神官ニ調進スルニ據テ此郷ニ名ケ得タルナリ今土器造ノ工二百八十家ナリ一家ノ分チ一株ト稱ス一株各米五斗ヲ給シ長ト稱スル者廿四人アリ其二十四人ノ中ヨリ六十歲己上ノ老チ撰舉テ秘密ノ禰宜ト号ス此者常ニ鬚髮ヲ不剃ノ齋戒スコレ所謂御器ノ長ノ遺意ニノ三祭禮ノ調進秘密物ヲツクル勤役ナリ 往昔ノ童謠ニ宇爾のやしやどのゑほしかかたいた祖父か髭は七日にはへて十日にさらりと謂フハやしやどのハ宇爾ノ長とのナリ其一人長ニ任ノ四日ニノ死亡セリ故ニ七日ニ生ノ十日ニ脱落スルノ謂ナリト云フ所傳アリ 又其中一人ヲミヤ物師ノ名ク執レ上古所謂土器物忌陶作物忌ノ遺風ナリ一歲調進スル土器三千八百八十口其中ニ大釜小釜傍釜大

小ノ數四万九千二百二十六口ヲ造進スト云六九十二月例歲三祭禮ニ秘密物トテ土器ニ收メ稻
藁ニテ括タル物ヲ獻ス又遷宮ノ度ニ天平甕ト稱ス土器ヲツクリ心御柱ノ用物ナリ深秘ニシ
テ人ノ見ルコトヲ禁ス故ニ俗ミヌモノト稱セリ故ニ常ニ此郷邑ヨリ土器ヲ造リ神領ニ販ク産
業トス 又三祭禮及十二月大晦日夜燈油神祭ニ此郷ヨリ小兒素白衣ヲ着シ神前ニ列立ノ小
笛ヲ吹キ雞ノ雞ノ啼カ如クヒヨ／＼ト鳴ノ旋回ノ止ム舞ノ形ニ似タリ方俗ヒヨ／＼ノ役ト
稱ス是上世ノ鳥名子舞ノ遺風ナリ

下有爾 中村ノ東ニアリ新茶屋へ十六丁 正税千四十六石紀州田丸領ナリ 屬邑新茶屋本邑

ノ長位ニアリ官道ニ民居ス方俗明星茶屋ト稱ス旅貨茶店多シ故ニ新茶屋ノ名アリ

能彌寺 同處ニアリ紀州領主ヨリ高一石二斗國印免許アリ

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之五大尾

